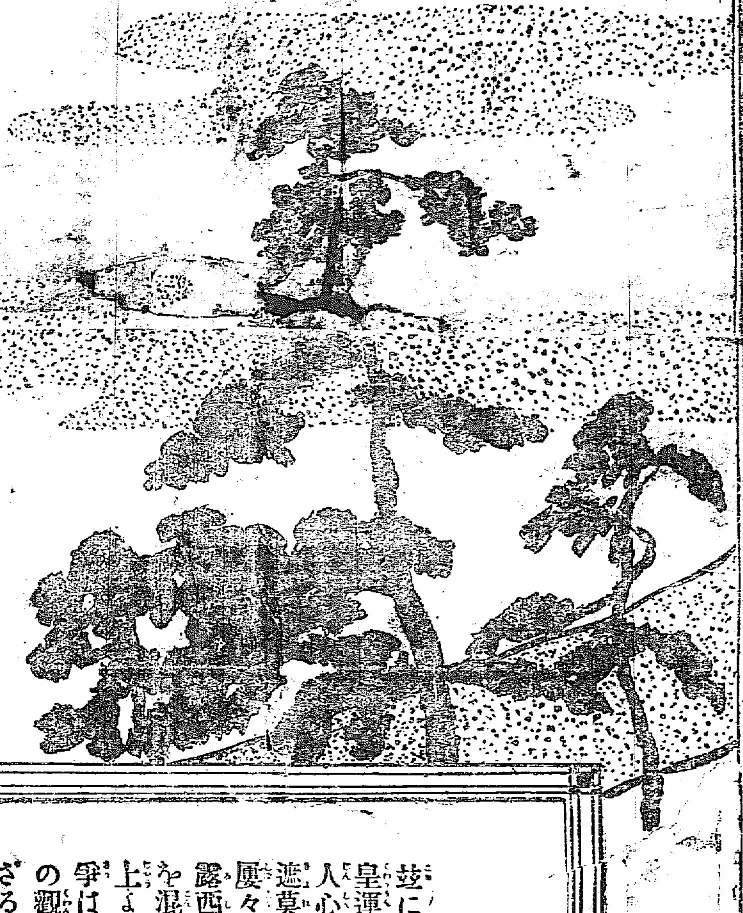
京城日報
一月一日

天地位焉

大正七年春
浩堂書



大正七年

茲に大正七年を迎へて、轉た淑氣の新なるを覺に、皇運は天壤と與に窮り無く、萬民治平の惠澤を悦び人心を一新して、前途の光明に向て邁進せしむ。遮莫、歐洲大戰は、年を重ねて、猶ほ酣に、變局は屢々世界を驚倒せしめ、亞米利加の參戰出兵となり露西亞の革命となり、千變萬化の狀態は、益々時局を混沌たらしむ。然れども熟々戰況を窺へば、軍器上より、政略上に漸く轉化し來らんとし、兵火の戰爭は熄みて、外交の戰爭、方に開始せられんとするの觀あるは、其の局面に、一轉を來さんとするに非ざるか。若し夫れ幸にして、戰塵一度戢まり、世界列强が、舊局面を打破して、新局面を打成するに際せば、吾人は如何なる態度を以て、之れに應ぜんとするか。思ひ來れば、我國民は、將に其の實力を試驗せらる可き機會に、接近しつゝあるを忘るべからず。更らに隣邦を見よ、其の內治は依然として多難也、我帝國の、之れに對する地位如何。思ふに大正七年は、多事多忙の年たるを疑はざる也。眞に擧國一致、以て大日本主義の遂行に、努めざるべからざるの年たり。吾人は散漫頹蕩せんとする、人心を一新せしめ、國家の命運を、進展せしむべきに努めむ。冀くば、本年をして、更らに多幸ならしめん事を。

寫眞及書 長谷川總督試筆
勅題『海邊松』
―江原道海金剛―

◎一般平和原則

▽露國の提案に對する
＝獨墺側の宣言

『東京特電』十二月二十七日巴里發廿九日廿筋着 瑞西經由維也納電報に依れば二十六日墺國外相チェルニン伯司會の下に講和本會議開かれ同伯は同盟四國委員の名に於て露國提案に對し左の宣言を爲り

同盟國委員は露國提案が大體に於て平和の基礎を構成し得可しと思惟し領土の獲得こ償金を含まざる平和に同意なる事を宣言す又征服の目的を以てする戰爭の續行を排する露國委員の意見に同意す同盟國政府は交戰國全體に對し公平なる條件を基礎とし平和を遲滯なく締結するの決意なる事を公然宣言す但し露國委員の提案にして實行せらるゝ爲めには目下戰爭に參加せる諸國が例外なく又留保する事無く講和條件を提出せざる可からず然らざれば同盟國側のみ該條件に偏務的に服從する結果を齎らせばなり右の條件の下に於ける討議を基礎とし露國委員の提出せる六點に對し左の如く宣言す

決議

第一、非占領地の強制併合は同盟國政府の意志に非ず占領地内に現存する軍隊に關しては講和條約締結以前特別協定の目的とならざりし地點の撤發を講和條約にて之を決定す可し

第二、同盟國は戰時中政治的獨立を喪ひたる人民の獨立を奪ふの意志無し

第三、立憲的獨立を有せざる民族團體の獨立問題が國家間にて解決せらるゝには其發生する場所に於て其國家が其人民と共に憲法上の方法に依り解決するを要す

第四、各民族の權利保護の問題は各民族が憲法の範圍内にて自己の運命を決定す可き權利の主要なる部分を構成す同盟國政府は出來得る限り右の原則を各所に施行す

第五、同盟國は職變のみならず戰爭に依り生じたる損害の賠償を相共に抛棄するの可能なる事を屢々指摘せり其の結果各交戰國は自國人たる俘虜の費用及び自國領域内にて人民の權利に反する行爲に依り對手國の平和的人民に加へたる損害を賠償するに止まる可し

露國政府の提議に係る此の目的の爲めにする特別資金の設定は他の諸交戰國が或る期間内講和談判に參加するに非ざれば之を議し難し

第六、同盟國中植民地を付するは獨逸のみなり戰爭中奪取せられたる植民地の還付は獨逸の要求中の主要點たるを宣言す

露國の要求する敵占領地の即時撤退亦獨逸の意志こ一致す

又同盟國は經濟狀態の回復を以て現時各國間に有効關係を準備し且つ樹立するに最も重要なる條件と見做す

以上の主義に基き同盟國は直ちに談判を開始するに躊躇せず

右に對する露國委員の回答左の如し

露國委員は同盟國委員の一般平和の原則を承認せるに滿足し中歐帝國の無賠償主義の宣言には滿足するも俘虜給養費の賠償に關しては留保を爲せり次で露國委員は國際的資金に依り戰爭の爲め困苦に陷れる個人を救濟せん事を特に重要視する旨を宣言せり然し獨露國委員は此の談判に未だ其の政府を參加せしめざる國民をして一般平和の主義を知悉するの機會を得しむる爲め二十六日より起算し千九百十八年一月四日に至る十四日間談判の延期を提議したり

□宮中四方拜御式

皇族殿下内外臣僚の參賀を受させ給ふ

天皇陛下には一月元旦午前五時三十分神嘉殿に出御親しく四方拜の御式を行はせらるゝに付き宮中にては午前四時同殿南庭の中央に疊薦を敷き御屏風二雙を立て廻し中に玉座を設け燈臺二基を供し諸般の準備整ひたる上九條掌典長より出御を奏請するや陛下には御束帶黃櫨染御袍を召させられ侍從を隨へさせられて出御親しく御拜禮御祈念遊ばさるべしこ尙當日は午前五時三十分四方拜、同七時三十分晴れの御膳、同十時より午後二時迄皇族殿下内外臣僚の參賀を受けさせらる(東京特電)

天下皆春

寺内總理大臣試筆

魯庵毅

◎イルクック市激戰

佛國領事代理佛人二名殺害さる

イルクックにて赤衛隊、立憲民主黨員並に哥薩克兵との間に激戰行はれ赤衛軍は佛國領事代理及び佛人二名を殺害せり尙同市に火災起り目下延燒中にて市中は混雜し加へて市民は飢餓に瀕しつゝあり過激派はクラスノヤルスクより援兵を得つゝあり(哈爾賓電報)

新年賀禮

▲總督受賀

長谷川總督は元旦午前十一時三十分總督官邸に於て左掲の如く總督府及び所屬官署職員の祝賀を受け尙京城駐在各國領事等の賀客を迎接すべし

一、總督府並に所屬官署(京城、龍山)勅任官
一、總督府官房及各部(高等官三等以下各總代及び判任官總代)
一、所屬官署長官各自の官署員よりの祝賀を受けたる申報
一、李王職長官の祝賀及び前項の申報
一、中樞院副議長、顧問、贊議、副贊議
一、朝鮮貴族

▲所屬官署

在京所屬官署たる高等法院、覆審法院、地方法院、遞信局、臨時土地調査局、中樞院、京畿道、京城府、總督府醫院、監獄等の官署長は元旦午前十時より各所屬官署員より新年の祝賀を受けたる後直ちに總督官邸に參集長谷川總督に其旨を申報す

▲銀行會社

滿鐵京城管理局、朝鮮銀行、東洋拓殖會社京城支店其他銀行會社にては元旦午前十時より各自參集新年祝賀の式を擧げたる後名刺交換に向ひ或は市中の[illegible]に向へり

▲駐劄軍

朝鮮駐劄軍司令部にては元旦午前十時より新年祝賀式を左の順序により擧行す

一、無位無勳下士判任文官及び服員賀司令官に對し賀詞
二、將校相當官、高等文官、御眞影拜賀(上長官以下は三名乃至五名)拜賀順序 軍司令官、將官、同相當官、朝鮮將官も之に從ふ 法官部、經理部、軍醫部、獸醫部、軍司令部、附朝鮮將校、陸軍倉庫、衛戍監獄、朝鮮步兵隊
三、下士判任文官及び服員御眞影拜賀順序前項に準ず)服裝は正裝(禮服常服)但し制服なき者はフロックコート若くは羽織袴

▲名刺交換會

元旦午前十一時より南大門小學校に於て府民聯合の名刺交換會を行ふ豫め申込める者は必ず同時刻迄に參集さるべく入口にて交換名簿を受取り夫れより會場に到り金谷府尹の發聲にて天皇皇后兩陛下の萬歲を三唱し祝盃を交換し退散の順序なり

▲警察官署

警務總監部並に憲兵隊司令部にては左の順序にて元旦の祝賀を擧行すべし

一、午前十時 總監部在勤判任官同待遇者(有位有勳者を除く)一同參集
一、總監部高等官判任官同待遇者及總代祝賀
一、京畿道警務部長の祝賀申報
一、御眞影拜賀式(參列者は總監部、司令部、京城分隊、警務部在勤の高等官判任官同待遇者(服員を含む)及び憲兵補助員

右終つて高等官は高等官食堂判任官は集會所に參集乾杯の上退散 尙京城府内昌德宮本町鍾路の三警察署京城龍山の兩分隊は午前九時部下隊署員より祝賀を受けたる後各隊署長は部下を引率して午前九時五十分京城憲兵分隊に參集同所にて京畿道警務部京城憲兵隊本部各隊署員共同にて一同祝賀式を擧行し警務部長は各隊署長よりの祝賀申報を受け終りて總監部の祝賀に參賀す

◎滿洲兩行引繼

正金銀行より鮮銀に引繼ぐ事となれる遼陽鐵嶺安東旅順四出張所の引繼ぎは十二月三十一日夜兩行當局の間に終了せり

◎資金集散豫想

一月中の資金集散豫想に付朝鮮銀行の調査を聞くに收納は國税たる煙草税雜税五萬八千四百五十三圓株金拂込み群山印刷株式會社外二社の分三萬一千圓合計八萬九千四百五十三圓にして其の散出は鎭南浦水産外二社の利益配當三千百圓勸業債券の利拂三千九百圓合計七千圓にして之れを前年同期に比すれば收納約三萬圓散出一千三百圓の增となり居れり

◎西井里驛倉庫開始 京釜線西井里驛にては舊臘二十五日より野積保管を開始せり

□元日號 二十四頁 附錄 京鮮滿便覽

□定例休刊 二日、四日、六日は祝祭日翌日に付定例休刊す

人事消息

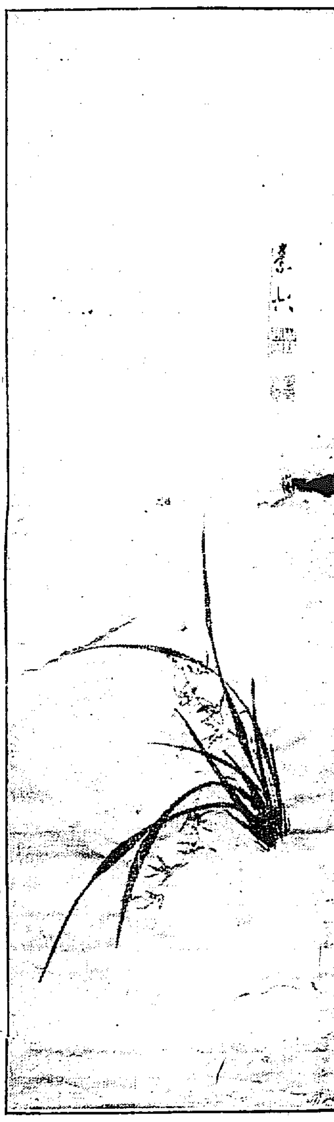
▲中村鐵三郎氏(主計大監) 一行七名狩獵の爲め來鮮去月三十日夜入京龍尾旅館に滯在中なりしが同三十一日朝出發錦原へ向ひ五日頃歸京の豫定
▲宮館順一氏(長奈守備隊附砲兵大尉) 三十日入京宮館會計課長宅へ
▲澁元二郎氏 三十日午前内地へ

◎露獨交涉雲煙過眼

佛國外相の講和提議演説

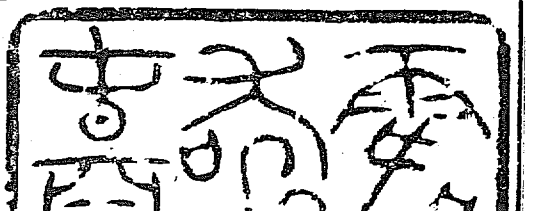
佛國外相ピション氏は下院に於て獨墺側の講和提議に言及して曰く『獨逸は佛國を講和交涉圏中に引込まんと努力しつゝあるも領土並に經濟上の現狀維持に關する主張の如きは問題と爲すに足らず若し佛國に對し直接講和條件を通告されたる場合は佛國は聯合諸國と共に之を審議す可きも間接の講和提議に對しては考慮を費すの價値無し露獨間の交涉結果が露國の降伏に終るとも又右交涉が不調に歸すとも佛國は其の結果に拘はらず依然こして戰爭を繼續す可し聯合國は全資力を擧げて其軍隊の威力を發揮せしめん』と(巴里電報)

山縣政務總監試筆



百鬧百種

今日は大正七年の一月元旦先づ以てお芽出度う正月匆々から堅くるしい事や七むづかしい事は禁物居蘇の一杯機嫌で面白い神話でもお話仕やう▲神話と云つた處で有觸たものでは味ない未だ餘り世間に傳はつて居ない却々味のある新しいものだ▲大昔し西班牙のサンチャゴの神樣の所へ未だ建國の始め各地方の名主がお願にやつて來た▲第一の名主は頻りと頭を捻つた揚句五穀豐饒のお願をした▲次の名主は其廢た地上の富よる金銀寶玉なんか地中の寶をと願つた▲第三の名主は忘れられた海の無盡の財産をと一々願ひ上げたが一番お終ひの先生は馬鹿な其廢物よりは酒だと計り紫の葡萄酒をせがむだ▲酒と聞いた一同は成る程それは結構何うか一同に神樣のお力でお序でに美人らお忘れにならぬ樣にと願つた處神樣は諾し〳〵と温柔く聞いて居たがやがて『では最う其れだけだな』と云つて皆を歸した▲道々四人は得意になつて自慢し合ひつゝ行く内『あゝ善い政のお願ひをする事を忘れて居つた』と一人が云ひ出した▲すると他の一同も成る程之れは失策だつた早く行つて願つて來やうと一同大急ぎで元へ引返して▲『神樣最う一つお願ひを』と泣き附くと神樣は莞爾として『あゝ殘念乍ら[illegible]を皆いた皆樣は最う封を[illegible]味目だ』と許り▲其れが[illegible]の國政が何うも甘く行かぬ事になつたのださうだ▲チト皮肉の樣だが面白い神話ではないか



文日 露滴壽杯春酒香 大石南山元旦試刀

謹賀新年
大正七年一月元旦
京城日報社
社員一同

旅行中に付年末年始の禮を缺く
京城旭町二丁目 鮎貝房之進

謹賀新年
大正七年一月元旦
在鳥取縣廳 亥角仲藏

旅行中に付年末年始の御挨拶缺禮仕候
林田金次郎

喪中年始缺禮
仁川 松元鶴熊

滿洲より歸來微恙引籠中に付年末年始欠禮致候
京城旭町一丁目黃鳥谷 藤井寬太郎

謹賀新年
私立京城女子技藝學校
私立京城中等夜學校
京城南大門内 電話一七八九番

喪中に付年末年始の禮を欽ぐ
京城本町一丁目 高木金細工店
高木勇

旅行中に付年始の禮を缺く
京城本町二ノ八七 下村泰造

旅行中年末年首欠禮仕候
富田重平

謹賀新年
開城大和町 辯護士 白井水城 電話三〇番

謹賀新年
年末年始の禮を缺き候
京城大和町三丁目二四 廣江澤次郎

謹賀新年
一月元旦
忠清北道廳
張憲植
齋藤[illegible]
井上[illegible]
徐相[illegible]
宮本政[illegible]
石丸優三
植村[illegible]
近藤[illegible]
立野新五郎
曾田篤一郎

謹賀新年
忠北清州本町四丁目
忠北自働車運輸組合
電話五五番

謹賀新年
忠北 清州郡庶務係

謹賀新年
忠北清州
三南殖産株式會社
清州出張所

謹賀新年
忠北警務部 前田艮太

謹賀新年
忠北清州 北一樓
上田滋次郎 電話三五番

謹賀新年
忠北清州 國見儀作

謹賀新年
全州學校組合管理者
全州面長 柴田粂亮(全州)

…人の貨物全部を糧食給與の爲めに徵發す可く之れが爲め右貨物調査の結果を至急打電す可き旨…接せるが勞兵會委員は適當價格の代價無き徵發は最も非…すとし又…本人及び…

桐野炭坑罹災の爲め御差遣されし彥根侍從は十二月三十日午前九時卅分下關驛著谷口福岡縣知事貝島榮四郎氏及び其他の出迎を受け…

◎大阪手形交換高

大正六年中の大阪手形交換高は百七億七千四百五十萬二千圓にして…百二十二通に達し前年に…八萬の增加を示せ…

…山水道部消防隊の活動に依り午前四時頃鎭火したり原因損害等調査…

地震で…

中米グワテマラ共和國首府グワテマラ市に地震起り同市の一部分は破壞せられ多數の死傷者を出し…

…町三丁目二百二十五番地古物商伊藤文之助方切炬燵より發火したるも常備消防隊出動即時消止む

◎昌德宮の新年

儀式は總て新曆を以て執行ばる 床しき松飾

昌德宮の新年御式は併合前まで舊曆で行はれてゐたが近頃は總ての事が新式に改まり隨つて年中の儀式は悉く新曆を以て執行はるゝ事となつた。從來同宮中の事は

▽內殿の雲深く閉 さして尹、親子以下少數の貴人文武官が奉仕するのみであるから歷代の李王職長官次官と雖も詳細な事はわからない。夫故新聞雜誌にも一向其の御事情を報ずるものが無かつたのである、然るに年々王殿下並に妃殿下には深く時勢の推移にお心が注がれ今大正七年初春の如き殿下の思召から宮內敎化門と金虎門の二個所に高さ廿尺の松を飾られ宮中諸所に注連繩、御幣等を飾り床き瀟洒の御殿に

▽純日本式の色彩 を帶びさせられたるは如何にも喜ばしき次第である、扨て昌德宮の歲旦御儀式の次第を承はるに、一月一日、此日李王同妃兩殿下には早朝御改服の上朝餐を召上らるゝのである、朝鮮古來の士民の家の慣習では元旦に朝起きたら改服の上祖先の祭壇に額き、終れば此日のみは親子行儀よく子は親に、親は子に

▽夫れ相應の賀辭 を述べる、故に日本ならば『新年は御芽出度う御座います』と云ふのを朝鮮では、例令へば親のあるものなれば『親を奉つて新らしき歲を有難く御芽出度く迎へました歟』とか又は『新春歲を機嫌よく安寧に迎られました歟』と云ふ樣な事が普通の辭令である、されど王室には其事なく單に御改服の上御雜煮を祝はれるのであるが、御先祖の祠拜は正月中吉日を選んで行はせらるゝ。而して其の御雜煮といふのは日本式の雜煮でなく餠と牛肉と其他の蔬菜を入れたる

▽純粹の朝鮮式の ものである。さうして居餠は朝鮮の習慣に無いから固より召上らぬ。是れが終ると一日午前九時十分、仁政殿東行閣に於て李王職高等官一同を接見せらるゝ、此の時閔長官は一同を代表して新年の賀詞を殿下に言上し又閔長官は判任以下の職員代表者から賀詞を受けるのである、夫より李王職の名を以て右の旨を我宮內省式部職に傳達すべく其電請方を總督へ申達して玆に公式の受賀を終らせらるゝのである。是から宮中の受賀を行はれ同九時二十分

▽殿下並に妃殿下 は閔次官外御近侍奉仕の文武官を引見され更に宣政殿に於て御親戚、朝鮮貴族、李王職高等官の祝賀を受けらる、此時長官は判任以下職員よりの祝賀を言上する。終りて兩殿下には午前十時廿五分昌德宮御出門、同五十分總督官邸へ成らせられ 天皇皇后兩陛下に新年の御祝詞を奏上方の御依頼あり直に御歸宮の上午餐を召され午後一時二十分御親戚、貴族、李王職高等官を從へられ德壽宮に參殿、德弘殿に於て李太王殿下に賀詞を述べらるゝ又た閔長官代理は職員一同を代表し東京なる

▽李王世子殿下に 祝電を以て祝賀の辭を言上し玆に新年一日の式を終らるゝのである、夫れから來る六日は仁政殿に於て御親戚、朝鮮貴族、李王職高等官を召して新年の祝宴を催ふさるゝ由承はる。

昌德宮の松飾

（左上）伏見宮貞愛親王殿下（六十一歲）（右上）同妃利子殿下（六十一歲）
（右下）閑院宮載仁親王第四女王寬子殿下（十三歲）（中央）
山階宮故菊麿王第四子萩麿王殿下（十三歲）（左下）
久邇宮邦彥王第三女王智子殿下（十三歲）

御二方揃うて午歲のお生れ

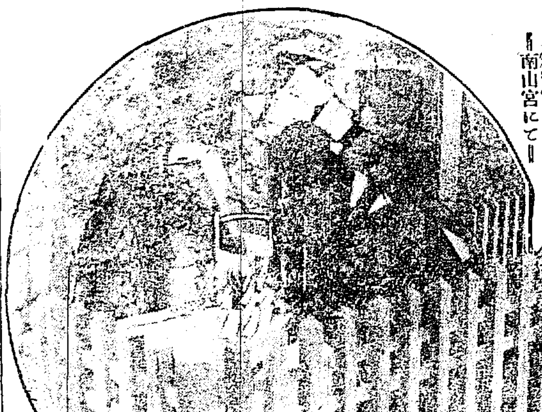
民間事業御獎勵に御熱心の貞愛親王と同妃殿下

午歲に在らせらるゝ載仁親王第四王女寬子、山階宮萩麿王、久邇宮邦彥王第三女王智子五殿下の御事ども

伏見宮貞愛親王殿下は當年數へ歲六十一歲におはし妃殿下の六十一歲と並びで共に安政五年戊午の御誕生なり軍籍における殿下は元帥にして陸軍大將にておはす御家庭に於ける殿下は馬場同宮家別當等を御相手に圍碁を戰はせらるゝを唯一の樂とならし給へり其の他書畫をも好ませらるゝが就中書道研究に最も御趣味を有せらる殿下の圍碁は優に初段格にて德川慶久公千家尊福男等と互先なりと申さる、殿下は種々なる民間事業御獎勵の道を講ぜられ理科學研究に農事に工業に殿下の御關係なし給ひ中にも全國實業家を紀尾井町の御邸に招かれ實業の御獎勵に御盡瘁遊ばされ已に十一年の長きに及び且つ今日にては最早百有餘名の實業家を網羅するに至れることは實に殿下の一面に於ける社會的御功績として御賞讃おく能はざる次第なり

利子妃殿下は故有栖川幟仁親王殿下の第四女にておはし去ぬる明治三十年の秋つ方少しく御健康を害なはれたる以來春雨秋風約二十有餘年の間頓と社交界に御出遊ばされず紀尾井町の御自邸に御靜養只管閑雲野鶴を友とし給ひ三十一文字に御述懷をもの し給ふを唯一の御樂となし給ひまた時々茶の湯、生花、琴など純日本風の遊び事に御興を催させ給ふともおはすとぞ

閑院宮載仁親王第四女寬子女王山階宮故菊麿王第四子萩麿王、久邇宮邦彥王第三女智子女王の三殿下は共に學習院初等科に御通學中御三方共至つて御健勝にて凡ての學課平均して極めて好成績なりとぞ



若水 南山宮にて

◎初日の出 南山絕巓から

京城神社と天滿宮に初詣で

元旦は若水に漱ひして遙かに東天に向ひ、祥瑞の氣天地に澎湃する曉雲を破つて擁々乎として差し昇る初日の出を拜すれば神氣自ら清爽たるものがある元日の日出時は

▣七時四十八分 である

この初日の出を拜しようとするには、京城では何處へ行つたらばいゝか、摺鉢の底のやうな京城では市街に於いては燃々として燃ねるやうな初日に接することは出來ない、思ふまゝに初日を拜まうとするには七時頃から南山に登つて巫女たちのゐる

▣國師壇附近迄 行くがいゝ、國師壇上に立つて東方を望んでゐると奬忠壇の松林の淡黑い中から眞紅の色鮮かな日が浮き出してくる、壯觀である、この初旭に對した瞬間の心持ちは何んともいへぬものがある、初日を拜し終れば山を下つて京城神社に詣で天滿宮に參詣して

▣新年の幸福を 祈るがいゝ、その頃には惠方詣りの人の群れも交つて賑かであらう、例の初日の出を拜するとて七時頃から漢陽公園の記念碑のあたりに集まつて一升德利など傾けながら待つてゐる人があるがこれは寒いばかりで案外詣られぬ、それは

▣漢陽公園から 旭日が見ゆる時間は八時十分過ぎになるからである、漢陽公園まで行くならば最う一奮發して南山の絕頂まで行くべきである、初日の出は七時四十八分それを忘れてはならぬ

◎庭燎の火

神々しき 京城神社大祓式

京城神社に於ては三十一日午後八時より拜殿前に於て大祓式を執行したるが定刻拜殿前に清薦を敷き祭壇を設けて祓物を供へ境內に篝火を焚き各官司以下神社各職員並に地方官氏子總代等著床（祓主、祓の詞を白して大麻の行事を行へば各員切麻を以て祓を行ひ之にて式を終りたるが氏子の參列者頗る多數なりし

◎一流どころは七日まで

景氣の好い花柳界

今年の春の京城の花柳界は暮の內景氣がよくは無いさうだがそれでも中京城、新三券番ともに暮から各料理店からの申込みで一流どころの藝者は三ケ日は素より七日まで甚しい賣ツ妓になると十日頃まで約束濟みになつてゐる者さへあるといふ中券番は六十人の內年內から口がかゝつて身體の塞がつた者は十八人、新券番は七十五人の內約二十人、京城券番は四十五人の內十人、新年の景氣を見越して年內に新たに披露目をした者は新券番が十七八人、中券番が六人、京城券番が五人いづれも內地から輸入したり、滿洲から引拔いて來たもので却々美しいのが多いとは目出度いことである

未生流 朝陽齋 松竹梅の生花

◎初春興行

京城龍山の各劇場、寄席、活動寫眞は元日より一齊に蓋明けしたるが初春興行として觀るべきもの最も多く新年早々各所共に千客萬來の大入叶、押すな〳〵の盛況を見るべし

▲壽座 大阪歌舞伎阪東巴五衛門、市川麗之助、尾上多賀之丞一座にて春狂言は前吉田御殿大久保彥左衛門、中二つ目蝶曲輪日記八幡の引窓、切和田合戰女舞鶴市若切腹の場 ▲御成座 京都俄我廼家蝶々會にて元日より開演 ▲浪花館 東京大阪合併落語春亭柳窓一座にて開演元日より三日まで晝夜二回興行手踊、音曲、手品、即席術あり ▲若葉館 女流浪花節京山愛子一座にて元日より開演すべし ▲大正館 元旦より五日迄晝夜二回興行、寫眞は時局、悲劇特別寫眞國の光全七卷一萬尺、滑稽喜劇チヤツプリンと惡友全三卷、新劇鶉島怪猫佐賀三房士全五卷 ▲有樂館 は元旦より七日まで毎日晝夜三回興行寫眞は終編獸魂、喜劇ポツクスとザエリー、猛獸狩秘境京話全二卷、喜劇花嫁稻田內川渔の卷、新派活悲劇海底の寶庫全五卷 ▲黃金館 三十一日より晝夜二回興行、寫眞は奈良の風景、滑稽ハムと輕業活劇赤い目、義士劇南部坂雪の別れ、天然色金の矢、新派新松風村雨 ▲稻荷座 元旦より大阪初下り男女合同一座にて開演 ▲龍山開盛座 女浪花節劇孫奉吉一座にて元日より開演

◎北陸大雪

正月の祝ひを延期す

北陸地方の雪は未曾有にてラツセル式大型除雪機關車を使用しつゝあり積雪最も深き處は丈餘に及ぶ高岡市方面にては壓死、倒壞、達磨等の椿事相踵ぎ中には正月の祝ひを一箇月延期する者多し除雪機關車八臺は雪にて立往生せり北國第一の劇場福井の昇平座は積雪の爲め倒壞せり（大阪特電）

◎關門積雪二尺

關門地方にては數日前より溫度低下し降雪歇まざりしが二十九日夜半より降雪一層激しく積雪二尺に及び近來稀なる大雪なり（門司特電）

◎昌慶苑と陳列館

休館中なりし永樂町の商品陳列館は四日より又た昌德宮內の總督府博物館及び李王職の昌慶苑動植物園博物館は同五日より引續き開館すべしと

謹賀新年 仁川酒造組合

旅行中に付年末年始の禮を缺ぐ 群山港明治町 北川組主 北川醇 電話三六番

賀正 奉天驛道附屬地中央大街 神谷義隆 電話六六〇

謹賀新年 忠淸南道江景 佐々木卯作

賀正 全羅鹽巖郡守 李淵命 全南鹽巖郡書記 濱崎由太郎

賀正 諸印ゴム印彫刻附屬品販賣 小柳專刻所 奉天小西關大街 小柳隆次

謹賀新年 晉州旭町 乾物雜貨商 野方商會

賀正 朝鮮群山港 布井嘉造商店 電話一二三番

謹賀新年 京釜線鳥致院 朝鮮纖維工業所

賀正 朝鮮群山 佐藤政次郎 電話一三三番

謹賀新年 全羅南道小鹿島慈惠醫院 一月一日 蟻川亨

賀正 朝鮮群山錦町 平野嘉七郎 電話一三三番

賀正 全羅南道求禮郡 郡參事 金潤昇 郡參事 金鍾顯

謹賀新年 慶尙南道密陽府內面 密陽銀行

賀正 貿易商 朝鮮群山本町 花岡松鶴商店 電話三三番

賀正 慶南晉州旭町 米穀雜貨 三宅定吉商店 電話二十一番

賀正 奉天驛道附屬地 食道樂 松竹 電話五五一番

謹賀新年 仁川本町 朝日組 電話五二九番

謹賀新年 專賣課 忠州出張所員一同

謹賀新年 自轉車販賣修繕並に附屬品一式 忠北忠州錦町 佐藤自轉車店

賀正 公州地方法院忠州支廳 湊信三 井上正博 外一同

謹賀新年 忠北忠州錦町 御旅館 星光館

謹賀新年 忠北忠州日之出町 御旅館 鶴屋

謹賀新年 忠州本町三丁目 吳服商 水野商店

謹賀新年 蓬萊生命保險代理店 東西煙草元賣捌 雜貨商 川本角一商店 忠北忠州本町

謹賀新年 食料品諸雜貨商 帝國生命保險會社代理店 宇野佐平商店 忠北忠州本町

謹賀新年 各種時計及附屬品 眼鏡類並に寒暖計 各種懷中電燈 山田時計店 忠北忠州本町

忠淸北道忠州郡廳 謹賀新年 尹錫弼 田中勳 尾西淸 外一同

謹賀新年 金物板硝子類並に素麵製造販賣 大石作長商店 忠北忠州本町 振替口座京城一七〇三番

旅行中に付年末年始の御挨拶缺禮仕候 東京府下千駄ケ谷原宿二九八 杉山孝平

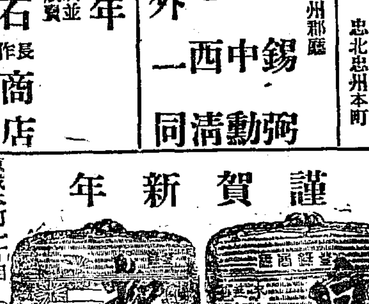
家族重病に付年頭缺禮仕候 龍山鐵道病院にて 蒲生隆宏

旅行中に付歲末年始の御挨拶缺禮仕候 辯護士 張燾

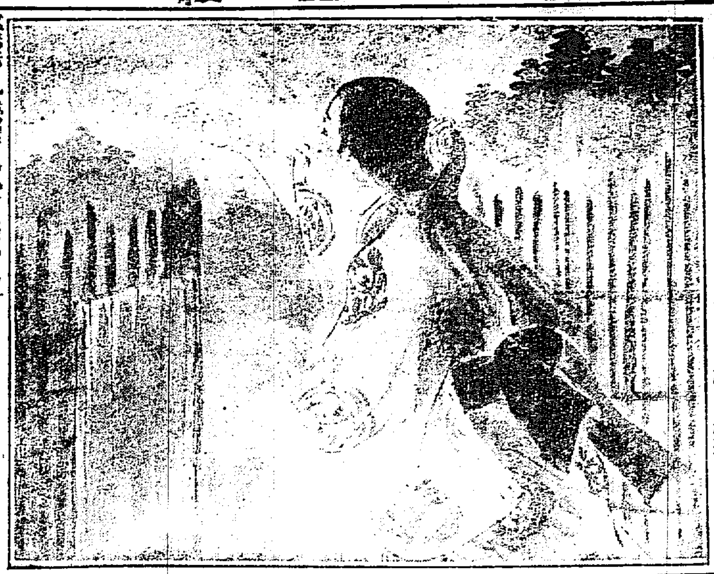
謹賀新年 內國通運株式會社出張所 大和組運送店 小林組運送店 青木組出張所 協同組支店 （平壤通關組合）

謹賀新年 京城旭町一丁目紅葉谷 御料理 白水 （松秀庵） 電話一三九一番一七一四番 別邸電話三一〇〇番

謹賀新年 大阪府堺市 醸造發賣元 兜家源次郎 京城本町一丁目（電話長二九番） 特約販賣店 佐藤牧太郎



櫻御殿



大阪 霞の家主人

第百十回

編笠浪人(四)

桐島の祈念は遂に何の甲斐も無かつた、利右衛門はつべこべと云ふ民部の口上を聞くが煩厭さうに

『武士に二言はない、武士に二心……はない、厭といふたら厭ぢや、歸らつせへ』

斯う云ひ切つて、民部の面を撲手と睨んだ民部は徇詞を柔げて

『御立腹では恐れ入る、手前、決して貴殿へ恥辱を與かせには參らぬ、自體武士と申す者は義を以て本と致す、義の急所は弱きを扶けて強きを挫くにあること、今さら申し上げるまでも無い、然も今の秀頼公の御有様、貴殿も薄々お聞き及びでござらう、太閤殿下御在世の時とは事違つて、拜み奉るも涙の種ぢや、殊に關ケ原の一戰、關東の御勝利となつてから大阪のお城には生氣が無い、攝津河内二箇國の御差配、御物高七十餘萬石これを關東の御威勢に比べると、さながら天地の相違となる、この御有様を見奉る者、誰か悲嘆に暮れぬものがござらう、主人渡邊内藏之介儀、徳川公から再三のお招きを受けながら、節を持して秀頼公の御手につき一身を義に捧ぐるはやはり武士の本意に殉じよう心でござる、承はるところ貴殿も義に生きるお方さうぢや秀頼公の爲めに一臂の力をお貸し下さるまいか、さすれば御知行は望みに任せ一方の旗を預けて……』

『一は何日見ても一ぢや、同じ言は何度聞いても同じことぢや、歸らつせへ〳〵、途中が物騒ぢや、辻切があると申すぞ』

『さらば、斯程に申し上げても……』

『聞く耳は聾ぢや、太刀よりは盃、義よりは酒、其外に所望は無い』

『お聞き入れなくば是非に及ばぬ、今日はお暇申すでござる』

『足元の明い中に歸らつせへ』

『然し、志は替へ申さん、機を見てまた參る、よく御思案を致し置かれへ』

民部は不本意さうに座を起つた、桐島の目許には憂涙がはら〳〵落ちる

民部の提燈が野道を遠く行き過ぎる、それを縁側からじつと見送つて、利右衛門はつか〳〵と出ようとした

『お父さま』と桐島はまた縋る

『放せ』

『またお出かけでござりまするか』

『出かけねば酒が飲まれぬ、好物の酒が飲まれぬ』

『只今のお武家様が仰せられた御口上にお從ひ遊ばすことは爲きませぬか』

『爲きぬ』

『さらば何日までも』

『浪人の世を送る、仕官して頭を下げるよりは、この一刀を資本に浮世を酒に送る方が樂みぢや、好い土産を持つて歸る、待つて居やれ』

『お酒はわたくしが調へます、無益の殺生を遊ばすことだけ、思ひ止まり下さりませ、只管お願ひでござります』

『酒ばかりではない、米も要る、鹽も要る、それが皆なこの一刀から出て參る、これを開け、この音を聞け』と白鞘にした柄を丁と打つて『生々とよく鳴らうが』

『お情ないお心でござります、お待ち遊ばしませ』

『待たぬ、放せ』

取られた裾を振り拂つて洗足のまゝ飛び降りる

『お父さま〳〵』

桐島が聲を限りに呼んで、表の枝折戸まで追ひ掛ける間に、利右衛門の姿は夕暗の中に消ね去つた

午歳を迎へた私の子供

青木 靜軒

新しい戊午の元旦を迎へ、思ひ出したのは一と廻り前の丙午の歳である。私は明治三十九年丙午の元旦は小石川の茗荷谷で迎へ、その年の七月に長男が擧げた。そして長男は名付干支そのまゝに丙午と命名した。丙午は今年數へ年の十三、從つて戊午の新年を迎へたのである。

丙午が生れた時私の知己先輩から送られた祝ひの俳句の中から午さは馬、馬年の文字を用ゐた句をたに拔けて見やう

○勇ましや男子生れて馬の秋　鳴雪
○丙午凱旋の夏に生給ひ　五丈原
○非熊非羆男の子生れて午の歳　無黄
○雲の幹發づべき駒の勇み哉　璞音
○駿馬生る倭國の盛る日に　太瓢

兒は健に十三歳を午の春　靜軒

一月一日九星

舊十一月十八日戊申 本命九紫南成佛滅

[illegible]

一月二日九星

舊十一月十九日己酉 本命一白北納大安

[illegible]

京山愛子

大正館

櫻井町 電話八七三

出演者連名 ▲己が罪(京山愛女) ▲孝子萬兵衛 元和三勇士(京山愛光) ▲柳生旅日記(郡山秋月) ▲小栗判官(桃中軒雲暖) ▲野狐三次 ▲甚五郎(桃中軒雲燕) ▲水戸漫遊記(京山愛昇) 郡北蝶 ▲雪吉 ▲義士銘々傳 ▲畔倉重四郎(愛子)

[illegible]

○時局大戰劇「國の光」全七卷一萬呎

[illegible]

○滑稽活劇『チャプリンと惡友』

[illegible]

浪花館

明治町二丁目 電話二六〇番

[illegible]

新派大悲劇新『松風村雨』

壽館

京城本町 電話一〇五〇

[illegible]

演藝案内

壽座

京城壽町 電話五七八番

當る一月元旦の舊芝居 [illegible]

▲發題式三番引拔きだんまり
▲前狂言蝶千鳥曾我實記
▲切狂言つり女所作事

黄金館

電話二六三七 二六六

[illegible]

○義士南部坂雪の別れ
○天然色「金の矢」全長一萬呎

[illegible]

有樂館

活動寫眞常設館

[illegible]

○猛獸劇 發地哀話 [illegible]

連續活劇 終編歡魂三十卷完結

稲荷座

本町五丁目

[illegible]

謹賀新年 壽座

電話九七八番

一月元旦 本年の初興行歌舞伎芝居 京の若手名優大一座

市川鶴之助 尾上多摩之丞 阪東巳左工門

本年も倍舊御愛顧御引立願上候

胃病 良藥

定價 (百粒)壹圓 六十五錢 四十五錢 [illegible]

全國各要所の各藥店にあり

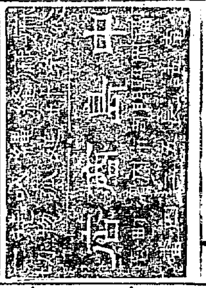
本舗…東京…大阪…山田安民製房

正月の胃 飲み過ぎ 喰ひ過ぎ 二日醉ひまれ 理想的のソレ

[illegible]

說明書 定價表 御申越次第送呈す

發賣元 京城南大門通三丁目 大一商店
京城本町二丁目 シノサキ商店
京城本町二丁目 サクラ屋



支那高等料理 支那料理新世界

今般各位諸賢の御滿足を充たす爲め模範的の支那料理を開業し廣東より有名なる料理人を迎へ料理器具室の準備に就ても不行屆の點無之樣に注意を加へ ... 支那料理の欠點を補ひ ... 百人以上の宴會にも應じ得る設備に有之候

大正六年十二月 京城府黄金町長橋側 支那最高等料理

元旦日 無休營業 新世界 電話二八二一番

新年宴會及出席

臨時大戦劇 ダイヤ本舗壹圓九十錢 チエブ一同八十五錢 其他五千哩以上保證附

大阪ゴム製造所 大阪西區北堀江御池通六丁目二十 電話一九二四番 振替大阪二七〇五番

謹賀新年 [illegible] 本年も不相變御引立を蒙り奉謝候

苗木 丹波栗 [illegible]

生徒大募集 一月十日開校 (第一回) 授業二月一日 (第二回)

東京自動車學校 大阪講習所 大阪市西區市岡町

[illegible]

謹賀新年 大田春日町 阿部質店

謹賀新年 大田幸町 小橋自轉車商店

謹賀新年 辯護士 大田榮町 辻進

謹賀新年 陸軍御用達並に銅工商 大田元松島町 松原工場

謹賀新年 金銀細工及時計販賣 大田本町角 鹽崎時計店

謹賀新年 大田春日町・電話一二四番 棚家

謹賀新年 僞飩蕎麥 大田本町 東庵

謹賀新年 大田魚菜市場 米元元助 電話一二七番

謹賀新年 和洋菓子製造販賣 大田本町柳月事 村瀬商店

謹賀新年 酒醤油類物販賣 大田本町(電長三九番) 松田一傳商店

謹賀新年 大田春日町 食道樂

謹賀新年 小間物諸紙商 大田岐阜町 別宮儀右衛門

謹賀新年 大田春日町 遠藤質店

謹賀新年 御手輕料理 大田春日町(電一六一番) 三越

謹賀新年 御手輕料理壽司、會席 大田春日町(電二一四番) まる万

謹賀新年 大田本町 鬼木質店

謹賀新年 大田洋家具商會 大田本町一丁目 田中涉

謹賀新年 陸軍御用達獸肉皮骨活牛商 大田春日町 電二二番 山田商店

謹賀新年 食料雜貨商 大田本町 福島商店

謹賀新年 自轉車販賣銃砲火藥商 大田春日町一丁目 塚原義親

謹賀新年 土木建築請負並に材木商 忠北忠州本町 宇野商行

謹賀新年 忠北忠州 赤松時圓

謹賀新年 忠北忠州 山崎醫院

謹賀新年 土木建築請負業 忠北忠州日の出町 本部由三郎

謹賀新年 自轉車並に附屬品一式 忠北忠州本町二丁目 長谷川自轉車店

謹賀新年 日本公債株式會社代理店 活版印刷、和洋紙販賣 忠北忠州大手町 加藤健三郎

謹賀新年 忠州大手町 鈴木政一

謹賀新年 鮮人向金物雜貨並に製麵業 忠北忠州大手町 鏡味大窪商店

謹賀新年 酒、醤油、果實商 忠北忠州本町 絹谷五三郎

謹賀新年 忠北忠州 鹽田禎介

謹賀新年 諸雜貨並に宇治銘茶商 忠北忠州本町 中村藤一商店

謹賀新年 古物賣買並に競賣所 忠北忠州本町 共榮商會

謹賀新年 和洋雜貨商 忠北忠州日之出町 秋山洋物店

謹賀新年 藥種賣藥食料雜貨 京南自動車停留所 忠北忠州本町三丁目 振替京城三貳二四番 二軒谷商店

謹賀新年 釀造用

廣島市天神町 具兒玉商店 長電七四四番

大阪市東區北久太郎町四 兒玉大阪支店 大阪振替一四二七番

賀正

大阪西區立賣堀 日本一藥舘喜香堂ヲチチニ 本舗主 塚田日郎

京城本町四丁目 京城支局長 小柳嘉市

平壤櫻町 平壤支局長 中島百太郎

時局大戰劇

國の光

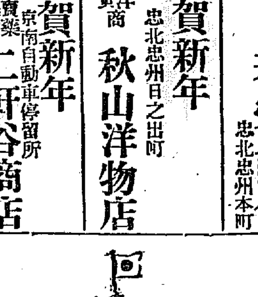
元旦より五日間公開!

京城府櫻井町 大正館

賀正

謹賀新年

大阪市北區富島町 平尾小今井合名會社 電話西四三八、四三九、八五四、八八四 土佐堀出張所 電話税關用西八四九 土佐堀二九六三



天幕雨覆 製造販賣 並に裝飾天幕貸も仕候

大阪西區南堀江日吉橋北詰北入 矢野テント商會 電話西(長二五一〇番 三六五五番) 振替大阪 六九一〇番

新年號 其一

宮中の新年
陛下神嘉殿に出でまして
四方拜の御儀を行はせられる

年立ちかへる曉の空新しく明け行くまゝに宮中に於かせられては最も森嚴崇高の御儀を行はせらる

聖上陛下には元旦午前五時と申すに御寢床を離れさせられ夜の御衣を純白の清々しい羽二重の御衣に著更られ御湯殿に於て齋戒御沐浴の上御新調の御衣を著され午前五時三十分霜氷る曉寒を御意にもかけさせられず御束帶をつけさせらる、斯くて天皇陛下には劍氣を含む曉闇の寒氣を神嘉殿の南庭に出御、四方拜の御儀を行はせ給ふ抑も四方拜と、ふは天皇陛下の年頭第一萬民に代つて天地四方を拜しかねて神祇を崇敬せさせ給ふ我國神代よりの遺法にしあれば宮中に於ては頗る重き御儀式として

天皇陛下には昧天の劍氣を含む寒威にも拘らず神嘉殿に出御御儀を御親祭あらせらるゝ大第也

此の御儀御終了あらせらるれば御束帶の御祭服を大元帥の御正裝に御著更へられ鳳凰間に出御新年の御祝膳として往年より我が宮中に於て御嘉例とせられたる「晴れの御膳」を聞食さるゝなり此の時には元より 皇后陛下にも御同列にて出御あらせられ 兩陛下御一緒に晴の御膳に向はせ給ふなり晴れの御膳といふは我が宮中古代の御生活の御狀況を其の儘今に移され往古は如何に質素にしてまた簡撲なりしかを偲ばせ給ふ御趣意に外ならず其の御膳部の內容を拜記せんに燒鯛、燒雉子、蛤、車蝦、燒鷄、鮑、鹽鮭、蒲鉾、烏賊、鯑子(サケノ子)鹹、白味噌の餅、オスマス(中味鯛)等にて其の御酒は御所一流の白酒黑酒なりと申さる

此の御膳は三ケ日間御朝兩陛下に供進せらるゝなるが兩陛下には同御膳に向はせられ僅かに御箸を

立てさせらるゝのみにて別に聞し食さるゝことあらせられざるやに承る此の御儀式は彼是一時間位にして御終了あらせられ大奧に入御の上 兩陛下御一緒に御朝餐を聞食さるゝたり此の御膳には此れまた往古より宮中に傳はれる牛蒡に味噌を包容したる菱花びらの御餅などが供御せられまたお雜煮もまゐらするが御所の御雜煮と申すは西京製の白味噌にて作られたる鶴と芋の子の御雜煮也、御所には屠蘇白散はなく新年の御祝酒は例の白酒黑酒なりとぞ其の御祝酒を金菊の御紋章打ちたる白瀬戸の瓶子に滿たせ之れに素燒の御土器を添へ白木の三寶に載せて參らするなり而して

夕の御膳には御所一流の雉子酒が供せらせ給ふと申す雉子酒と云ふは燒きたる雉子に日本酒の熱燗を注ぎたるものにてコハ側近奉仕の人々にも賜はると申す以上朝の御

食事終れば午前十時と申すに天皇皇后兩陛下には御禮裝にて正殿に出御各皇族同妃各大勳位各國務大臣宮內省親勅任官、公爵從一位勳一等一等官、侯爵正二位二等官同夫人一同の拜賀を受けさせらる 天皇朝賀を受けさせ給ふ時の出御には各皇族王殿下扈從し奉りまた皇后陛下の出御には各皇族妃殿下扈從し奉り百官の拜賀を受けさせ給ふ御恒例也皇后宮各宮妃殿下の御禮裝は何れも御新調の洋裝にしあれば其の御裳捧持者は例年の如く學習院在學中の成績優良の公達に仰付らる元旦の拜賀終りて更に二日には矢張り午前十時に正殿に出御ましまし伯爵從二位勳二等子爵正從三位勳三等男爵正從四位同夫人等並に貴衆兩院議員各宗派門跡寺院住職等の列立拜賀を受けさせ給ふかくて三日には宮中元始祭、四日には內閣に臨御政治始式、五日には正午豐明殿に於て內外臣僚を召され新年宴會の御宴を賜ふ次第也。

御馬上姿の聖上陛下

聖上陛下御騎乘の御愛馬
藤園、ダップ、豐島知近の事

大正七年は俗にいふ午の歲である馬といへば我が帝室には隨分澤山の馬が飼養されてある、下總の三里塚、膽手の外山、北海道の新冠等は帝室の御料牧場として主として馬が飼養されてある其の中から殊々名馬を選擇して宮城內の主馬寮に飼養し主馬寮の天皇陛下、東宮殿下、皇子殿下方等の御乘用に供し奉る次第なるが東宮殿下も淳宮殿下にも御參內の折り吹上の御馬場にて時々御乘用遊ばさるゝけれども未だ固定したる殿下御料の御馬として決定したる馬は無いといふことである、其の他挽馬は行幸啓の鹵簿 皇子方の玉車を挽きまつる時の馬で其の他種々な宮中の御運物などを運搬する時の用に供するのである 聖上の御騎乘としては藤園、ダップ、豐島、近知の四頭を定められてある

藤園は身長五尺

一寸五分毛色は鹿毛鼻と左前脚下部は白く、背の中央に巴形の白毛ありて頗る美しい、馬齡十九歲、濠洲産の逸物にして去る明治四十一年我が國馬匹改良の必要上約一萬頭の洋種の馬を輸入したことがある其の時其の中より選拔の榮譽を擔ひたるは即ち此の藤園である ダップは黑鹿毛にして身長五尺あり鼻頭褐色、左右後脚部は白く前額部に白星あり馬齡二十歲藤園と相並んで濠洲輸入の名馬である御乘馬として今上の玉體を奉載したのも明治四十一年の秋とこそ傳へらるゝ近知といふは同じ濠洲産にして身長五尺五分馬齡十八歲、毛並鹿毛にして藤園ダップと相並んで聖上の御愛馬たるに相應しい逸物である

豐島は毛並栗毛

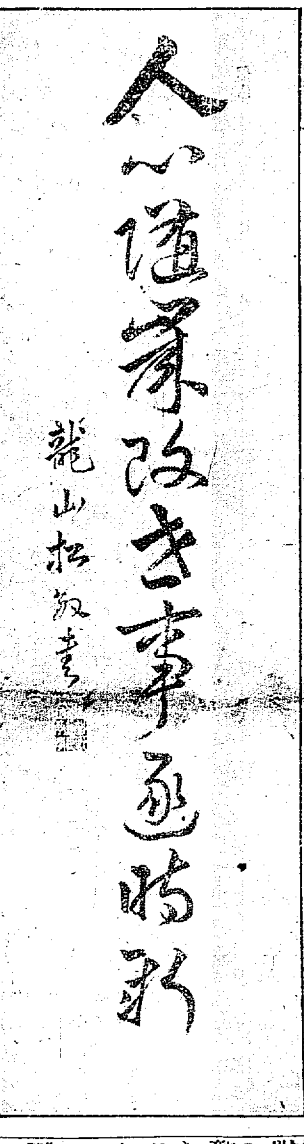
にして身長四尺九寸八分といふ前額に微なる白星がある右後脚下部に薄く細き白毛がある馬齡十八歲にして細軀輕快一見頗る悧發の馬相がある、而も馬容上品にして一見駿馬の趣きがある他の三頭は何れも濠洲産なれども豐島のみは青森産の洋雜種にて本邦馬界の爲めに氣焰を吐く同馬は曾つて大阪に內國勸業博覽會開催の際全國より種々馬匹の出品中より豐島は御買上の光榮に浴した次第である爾來今日まで十有餘年間主馬寮に於て周到綿密に調教され大正六年の春 聖上の御愛馬に加へられ昨秋の滋賀岐阜兩縣下の大演習にも此の豐島は御供仕り數日の間御用を承りたる次第である 天皇陛下には御幼少の時より御乘馬に

頗る御熱心且つ

御趣味深く在しまし前主馬頭藤波言忠子を始め名和長憲男(今は兩名とも無關係)等其の御騎乘の御相手に罷出たるものであつたそうして 陛下には早くから例のダップ豐島の御愛馬に跨らせ青山分庭の畔なる御馬場に於て熱心に御騎乘遊ばされたものであるそれが御卽位後と雖も相も變らず御熱心にて今日は吹上御苑の馬場に於て澁谷主馬頭、臨司侍從長、內山侍從武官長其他主馬寮の事務官技手等を御相手に轡をつらねここ時間乃至三時間も御騎乘あらせらるゝを通例として居らせらる聖上陛下の御愛馬は申までもなく其の他御料馬は孰も輕快にして悍敏なれどもまた溫良にして極めて柔順である、然れども最初牧場より主馬寮に移さるゝ時は

悍威果猛の野性

除けキャツカリする騎手を二度も三度も背中より落さずんば止まざる態の悍馬も尠くはない其を七十有餘名の技師及び技手が朝夕乘廻し若くは挽き廻し彼是れ七八年より十年近くもかゝつて始めて一通り教調されることになる其の苦心はまた一通りではない殊に 天皇陛下の御乘馬の如き萬一たりとも不都合の事ありては場合は觀光におびへ、物音に驚くなどの事ありてはそれこそ大變である其の他行幸啓御通筋の鹵簿拜觀者の萬歲の聲に驚き若くは諸列軍人の捧銃に驚かれても困るそれを主馬寮にては馴致教調して如何なることにも狂ひ出さぬ樣に仕向けて立派な御料馬として捧げまつるのであるから主馬寮員の苦心は一通りのものではない



松川軍司令官試筆

御題「海邊松」 石堤畫伯試筆

勅題「海邊の松」
詠進歌已に三萬首以上に達す
御歌所寄人 千葉胤明氏談

勅題「海邊の松」を仰出されたることは國民に取りて何よりの光榮と存じて居る、何故なれば本御題の如き內容形式共に其の意味の豐滿なるが爲である、先づ內容より見れば海といふことは四面環らすに海を以てする日本に取りて國防上非常なる意義を有して居る而も此海について古來 我々の祖先が多く和歌に詠んで居られぬ然るに今回其の海に配するに松を以てして大正七年度の歌御會始めの御題とせさせ給へるは實に其の意味の深甚なるを偲ばれて芽出度き限りである、松は西洋にもあるが日本の如き一種の美的に發育したものはあるまい、白砂青松などいふ語も眞に日本の海邊に於て見るべきものであらう、殊に今回の御題は形の上より見て甚だ結構なことゝ存じて居る、日本人は勅題といへば貴賤貧富といはず都鄙を論せず多くの物に其の年の勅題を配して大御代を祝福し奉る然し題を配するものを數へて見やうならば先づ新年の料理、菓子、羽子板、晴著、半襟、指環、髪容、簪等は勿論甚しきは下駄の緒襦袢の袖に至るまで其の模樣を配するのである、然るに若しも勅題が極めて範圍の狹い時季の限られたるものとして假令へば雪中の梅とか竹とかいつたとして御覽、其の模樣のある著物は單に其の時丈けで他日應用が出來ぬ傾きがある其れが今度の勅題『海邊の松』は假令其の時季が多少秋であらうが其模樣は常盤の松の色失せざるが如く永く保たれるのである、單に斯樣な意味から見ても甚だ喜ばしい御題であると共に海といふ日本の將來に一層の注意と研究を要するものを御題に仰出されたことは吾人寄人としても一層大御心の深甚にまします次第である、共に本御題は老若男女を問はず誰にも分り誰れにも詠めるが如き御題であるから例年の三萬首よりも一層詠進の數の多いことは申上げるまでもありません

恭賦海邊松 松田學鷗

老幹臨滄海。龍鱗百尺高。鐵姿迎旭日。爽籟捲春濤。踞石紫龍睡。拂雲青鳥翔。滄陰漁叟在。垂釣跨金鼇。

蘭井學圃曰、遒麗伉爽、不粘不脫、詠物上乘、

久保天隨曰、通篇圓匀齊整、自然入格、結末見多少新意

碧波倒影玉芙蓉。紅日高懸百尺松。忽聽冷冷韶護響。海天何處變魚龍。

學圃曰、亦復儁拔、

天隨曰、沈雄曲重、居然雍熙之音

戊午元旦在黃州作

遠山雪映大江流。初日曈曨瑞氣浮。敢擬東坡簑笠興。笑招白鶴醉黃州。

學圃曰、超得雄偉、黃州用得敏、

天隨曰、自黃州二字著想來、亦推工懇、

戰爭中の新年
志賀重昂

◇日本は聯合國に盡しに盡せり

(一)獨逸の亞細亞に於ける根據地を討滅し、英佛をして東洋に於ける顧慮の患なく歐洲に敵を交戰せしめ得たる事

(二)獨逸の南洋に於ける領土を討滅し、太平洋の交通を保障し、濠洲、加奈陀及び佛領の安全を保障したる事

(三)獨艦ガイヤア號を布哇に武裝解除し、濠洲と加奈陀と、巴奈馬と東洋の交叉洋上の交通を保障せし事

(四)獨逸の貿易破壞艦二隻の跳梁せる間、日本の海軍は防禦無き加奈陀太平洋岸五五〇浬を防禦したる事

(五)獨艦の跳梁せる間、紅海の入口(中寶上の歐洲入口)迄印度兵濠洲及び新西蘭の義勇軍を護送せし事

(六)獨艦の跳梁せる間、亞細亞に於ける英佛領土より歐洲戰場への軍需品を紅海の入口(同上)迄護送せし事

(七)露西亞に軍需品を供給し、露は輙て以て東方に戰ひ、英佛と合軍をなして西方戰場に交戰せしめたる事

(八)露西亞の極東領土及び北滿洲に於ける兵備の輕減を保障し同國をして後顧の憂ひなく交戰せしめたる事

(九)日本の海軍は日英同盟條約範圍以外の地點、即ち歐羅巴阿弗利加兩地の中の海(地中海)に交戰せる事

(十)五億六千萬圓、即ち日本としては大金を與國の軍事公債募集に應じたる事、盡すに盡くせる哉日本や

◇戰後の大局

三ABCと御題目の如くすべし

世界の『八大強國』中、露は解體、佛墺は疲弊、伊は試驗に落第、殘るは英獨米及び日本なり、而して英國の經綸は三C即ち喜望峰(Cape)よりカイロ(Cairo)に到る阿弗利加縱貫鐵道を東折し印度カルカッタ(Calcutta)に達して此三Cの間を包括し、獨逸は國都伯林(Berlin)よりビザンチウム(Byzantium)即ち孔士坦丁)を經バグダード(Bagdad)に到る三Bの間を包括し、米國は亞米利加(America)アラスカ(Alaska)より亞細亞(Asia)に通ずる鐵道を敷設して三Aの間を包括し、以て各々雄張せんとするにあり、即ち戰後の大局は英は三C、獨は三B、米は三A、而して日本は三ABCの間に立てり、斯に油斷も隙もあつたものに非ず、然らば大正七年元旦より日本人をして『三ABC』と御題目の如く唱へしめ度く存候

扶桑新詩

戊午新年二首 八十九翁中洲 三島毅

率土安寧波不驚。老餘欣我浴昇平。梅催詠詠盆中發。松伴盤桓脇外橫。列國風雲朝夕變。神州日月古今明。瀰々曉々春臺上。東海依然大帝城。

蕃堂曰、中洲博士、學德並高、天下仰之、如魯殿靈光、詩句亦渾厚、眞是聖代之雅頌也、

開眼醒來恰初春。旭日滿窓梅影新。八位素餐無用老。行雲流水自由身。長生縱使稱人瑞。不死何如伴谷神。朝有聖君家孝子。前途百歲少嶙峋。

蕃堂曰、胸有元氣、自然流出、猶白樂天家法、若夫朝鮮文士唱和詩、又足以慰博士之老懷乎

恭賦御題海邊松 錦山 矢土勝之

滿世恩波滿海堤。含霜緑雪又迎春。五十鈴水入雙巖浦。松色振衍經久新。

蕃堂曰、五十鈴川與雙巖浦、對仗莊嚴、使人整襟、

青島新春 鷺洲 松浦厚

大正方迎第七春。版圖萬里國威振。芳山臘雪未全解。旭日峰頭旭影新。

蕃堂曰、松浦伯在青島迎年亦一大快事也、

海邊松恭賦 土屋慶藏

松樹亭亭碧霄。釣天廣樂奏春韶。一波不起瀛洲曉。何處神仙繫畫橈。

蕃堂曰、清便宛轉、別成風韻、但香標渉、恐是江郎彩筆、

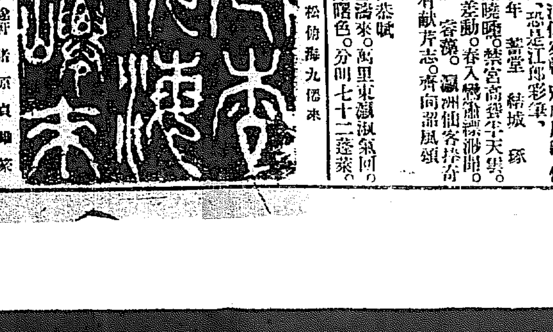
戊午新年 蕃堂 結城琢

閶闔門開燦曉暉。禁宮高聳半天雲。日移龍影參差動。春入鶯聲縹渺聞。蓬闕老松激容蔥。瀛洲仙客接奇文。野人也有獻芹志。齊向韶風頌聖君

海邊松恭賦

晴暾遙出雪濤來。萬里東瀛淑氣回。落落蒼松開曙色。分明七十二蓬萊。

文曰、老松倚海九儒來



遊軒 猪原貞雄篆

面制の實施と水利組合の新制定

內務部長官 宇佐美勝夫氏談

茲に送舊迎新に際しては、予も久しく多少の感想無きにあらず、然れども公人として予の經過したる大正六年は、恰も必ず卒讀せざる可からざる書冊を披きて其一頁を捲ねたるに等しく、顧みて感想の新たなる無く、唯最善の努力を以て、大過無く職責を果し得たるを悅ぶのみ、任他此間、長途を行く旅人の、時に鼓坂を攀ぢ、或は急湍を踰ゆるにも類せる感興の予が追懷に入るもの無きにあらず、即ち公人の公務に於て、多年の企畫若くは困難なる事業の遂行に與かり、之に對して微力を效せりとせば、其人幾多の記憶を探りて容易に其事象を抽出するを得べきにあらずや、予は今、過去一年の業蹟を回顧して、先づ予の念頭に浮べる二個の事件を得たり、一は即ち面制の實施にして、他は水利組合の制定なりとす、兩者の制定施行の因由に就ては、當時之を詳述して世に公にする處ありしが、更に少しく蛇足を添ふるに、面制度は地方行政の根基にして其の制度確立の必要は、併合の當時既に之を認めたりしも、適當なる體樣を備へ、適當なる時期に於て施行するにあらざれば、單り地方住民の利害に關係する處多大なるのみならず、延て國運の消長に影響するもの尠少ならざるべきを察し、暫く古來の制を存置することゝなりたりしが、爾來七年、總督政治の効績は內外の稱贊に背かず、克く民智を啓き、民力を進め、財政獨立に先つこと一年有半にして之れが制定實施の適當なるを見、否な寧ろ遲くべからざる時期に到達せり、惟ふに面制に據る內鮮人の同治は、單り地方開發に貢獻する所甚大なるのみならず、其同化に資すること尠からざるものあるべく、財政の獨立も此に於て其意義始て完しと看做すべし、述べ來りて言或は當局の勞を誇耀するが如き節なかりしやを懼る、然かも予の意は、只管に民度の昂上を慶ぶにあるを記せよ、次に水利組合制定の理由は、水利の便備はらざるが爲めに、農作物の大宗たる米の收量、地積に比して甚だ貧しく、舊韓國政府も亦此に見る處あり、距今十年前、水利組合條例を設けて、水利を興さしめんとする企圖ありたるも、其規程極めて簡單たるのみならず、今日に至りては、時勢に適切ならざるに由り、乃ち該條例を改正して組合の制度を確立し、水利事業の發達に支障なからしめんとするに在り、予は大小の農業者が、所在相倚り、大に水利を興し、共に其慶に據るべきを期待す。

高潔

戊午元旦 東山

芳賀總督府醫院長試筆

朝鮮の財政獨立

度支部長官 鈴木穆氏談

大正三年を迎へて、最も多く予の感慨を喚ぶものは、愈大正七年度を以て朝鮮總督府が財政獨立の準備を完了するの一事なり、顧れば韓國政府時代、財政の紊亂其極に達し、經費徒らに膨脹して歳入之れに伴はず、國民は誅求に窘れて、甞に塗炭たる有樣なりしが、明治三十八年、目賀田男は韓國政府の聘に應じ財政顧問として

▽財政整理の任に臨り

次で故伊藤公の統監として蒞任さるゝや、公の斡旋に依りて、我政府より財政整理資金を貸與することゝなり、前度支部長官荒井氏亦財政に關する其蘊蓄を傾注して、韓國財政の匡救を圖り、漸次其効果を收め、大に刷新の實を舉げつゝあるに方り、日韓兩國の間に併合の議起りたるが

▽當時我國の一部に於ては韓國財政の尚ほ困難なる狀態に在るを見て、韓國の併合は、遂て日本の財政を危殆ならしむるものなりとの見解より、之に反對を唱ふるものありしも、寺內前總督に於ては確乎たる成算ありて、明治四十三年遂に併合を斷行されたり、而かも併合に對して異議を唱ふる者も有り得る程の財政狀態なりしを以て併合の年より

▽毎年一千二百三十五萬圓の補給を、本國政府に仰ぎ、歳計の不足を補塡することゝ成りしが爾後寺內前總督は鋭意治を計り、產業の獎勵、交通機關の整備、拓殖的施設に向つて努力せられたる結果、民心堵に安んじ、民力年と共に進み、當初一般に懸念されたる租稅の徵收も、成績頗る良好にして殊に財源の涵養は必ず

▽所期を誤らざるべきを確信するに至り、遂に大正[illegible]年度に於て財政獨立の計畫を樹て、直に之を實行し、年々本國政府の補給金中、百萬圓乃至三百萬圓を減じ、七年度を限り補給金を打切り、八年度に於て財政獨立を遂行せんとする一段とは成れり、未だ確定には至らざるも、來るべき議會に提出さるべき豫算案には

▽最後の補給金を計上しあれども、八年度よりは之れ無くとも歳入出の均衡を保つの決して難事にあらざるを信ずべき理由あり、而かも財政の獨立を遂行せんが爲めに、政府の必要なる施設を犧牲に供せしことありやといふに、斯の如きこと一もなく、苟も政府が緊要と認むるものは凡て施設されつゝあり、即ち高等普通學校、中學校其他教育機關の設立より咸鏡、湖南、京元三鐵道の敷設

▽京釜京義兩線の改良工事、第二期治道計畫及び釜山、仁川等港灣の設備、更に產業方面には其發達を促すべき諸般の施設を爲せるが如き今日の國情に照らし、殆んど遺憾無きに庶幾し、去れば前期議會に於て、朝鮮總督府が、大正八年度より其會計の獨立を圖さんと欲するの企圖は、徐りに功を急ぐものにあらざる乎との質問を受けたることもありしが

▽新附同胞の現狀を聞略し、或は英文施政年報に依りて財政の眞相を知了せる歐米人は、我が鮮民啓沃の効績と、財政の基礎鞏固なるを嘆稱しつゝある次第にて、拓殖に經驗を有する彼等の所見に徵するも、財政の獨立は躁急の沙汰にあらざるの傍證と爲し得べきに似たり、殊に歐洲戰爭の影響を受けて

▽米穀其他物價の昂騰は半島の經濟界を未曾有の好調に導き、產業の勃興に隨つて會社の新設及び既設會社の擴張、殆んど應接に遑なく、貿易額の如きも大正五年度に於て一億三千餘萬圓なりしもの、大正六年度は一億七千萬圓を超過すべく、之に地金銀の移出額を加ふれば或は

▽二億圓臺を摩するに至るべき情況に在り、更らに郵便貯金增加の趨勢に察し、副業發達の情勢に鑑みれば、五年度以來若干額を剩しつゝある歳計の好況は來七年度にも尙之を維持するを得べく、加之多大の經費を投じて繼續施行せる第一期治道、鐵道及び土地調査の三大事業も六年度を以て全部完了し、七年度よりは其成果を收むべき時期に到達せり、然れば

▽自然歳入の增加を來り、課稅物件の確實なると相俟つて、縱し今年中に講和條約成立し經濟界に多少の變調を來すことあるとするも、年次歳入の累進すべきは此の疑ひを挾むの餘地無く、財政獨立の基礎堅固なるは勿論、現狀を以て將來を推せば、財政獨立の初年に於てすら新事業手控への要無かるべく、我總督財政の前途は實に洋々春海の如き觀あり

□ 朝鮮 安心田畫伯試筆

鷄林の春

騎始

騎始の鞭に鳴る朝嵐かな　花翁
濠端に騎始の人數揃ひ鳬　月子
騎始に火を借る老父哉　乙鶯櫻
騎始の淺々と過ぐ賑かな　京迺家
騎始の輪乘て居る市場哉　青蘿
騎始に下人具しぬ郡守哉　猪郎
騎始に豫備軍曹も交る哉　湖東
騎始の鞍乘に光る淺雪哉　待宵
騎始の馬が蹄を鳴らす哉　同扇
騎始の手綱捌りて[illegible]　住吉
騎始の朝日に光る轡かな　鐵城
騎始や路傍の人に見知り顏　一圃
騎始の馬を曳き出す厩哉　秋湖
騎始の先驅出でゝ宮の杜　新平
騎始の馬に鞍置く紙燭哉　翠葉
騎始の東門遠く出でに鳬　逸天
騎始す眉秀たる小供かな　東彦
騎始の馬場一ぱいに旭哉　考古
騎始や馬の鬣旭に匂ふ　早枝子
騎始の門出見送る妻子哉　龍太郎
騎始の口繪雄々し雜誌哉　末刀
騎始の蹄が響くお城かな　鹿鳴
騎始の衣冠正しき門出哉　黄紘
騎始や城外の雪に旭朗ら　安藝
營門を出る騎始の隊伍哉　森魚
騎始の足搔に消ゆれ路の霜　渡邊生
騎始の鞍迫りて山を下る哉　正峰
騎始の氷上を渡る響き哉　東亞
騎始が歸途兒を乘せて戻り鳬　失名
騎始の雪亂し過ぐる土橋哉　青[illegible]

謹賀新年

東洋拓殖株式會社奉天支店
電話長六五七番
振替大連一九六八
電信略號ホウテントタク

東洋拓殖株式會社大連支店
電話長一三五五番
振替大連一九七八番
電信略號タイレントタク

謹賀新年

大連 安東、天津、龍口、青島 間定期航路

大連安東天津線 毎月六回
大連青島線 毎月五回
青島上海線 毎月五回
大連龍口線 毎月六回
大連貔子窩線 毎月十回
大連柳樹屯線 毎日三回

本社 大連市山縣通

大連汽船株式會社

出張所
安東縣財神廟街 安東縣出張所
天津獨逸租界 天津出張所
青島葉櫻町 青島出張所
神戸播磨町一六 神戸出張所

昨年の朝鮮産業界

農商工部長官 小原新三氏談

■大規模起業の端を開く

大正六年に於ける朝鮮の産業界は頗る順調にてありき。特に注目すべきは起業界の趨勢にして大正六年に入りてよりセメント、窯業、パルプ、製糖、製粉、紡績、製絲、肥料、染料、燐寸、造船及び船渠、製鐵其の他各種の化學工業を始めとし大規模の工業勃然として興起し同じく其會社の設立を許可せられたるもの一月以降十一月迄に本店二十六件、資本總額二千三百十二萬圓、支店九件、資本總額四千二百六十七萬圓にして前年同期に於ける本支店の許可十五件、資本總額七百十五萬圓なるに比すれば殆んど隔世の感あり。如斯朝鮮に於ける大規模の工業が同年に於て概ね經營の端を開くに至りたるは固より一は時局の關係に因る內地經濟界の影響なりと雖も從來永く荒廢に委して顧みられざりし朝鮮の山野が興業の機運に伴ひ漸く其の眞價を認められ各種の事業に對し豊富なる原料を供給するに充分の蓄積あることを證するものにして將來潤澤なる資本を注入し低廉なる勞力を利用し之が開發に努むるに於ては朝鮮産業の前途は實に洋々たりと謂はざるべからず而して同年に於ける各種の起業は概ね創業の緒に就けるに止まり未だ作業を開始せりと云ふに非ずと雖も今後操業の曉を豫想せば朝鮮經濟界は勿論我國の産業上に及ぼす好影響は今より逆睹するに難からず。是等事業の健實なる發展を祈ると同時に倍々內鮮資本家の著目を翹望せざるを得ず。

■農事界の盛況 同年の農作は旱魃の爲前年に比し多少の減收を見米は二分四厘を減じて一千二百二十三萬石、麥は九分一厘を減じて五百六十九萬石、大豆は三分九厘を減じて二百八十四石の豫想なりと雖も時運の好調に伴ひ其の價格著しく昇騰したるのみならず棉は作付面積の增加と氣候適順なりしとに依り六割を增して七千五十八萬斤を獲又家蠶は三割五分を增して九萬七千石を算し而も孰れも稀有の高價を示し且其の他各種農産物の食料又は工業原料として高價に內地又は外國に移輸出せらるゝもの增加したる爲十月迄の移輸出額は四千二百萬圓を超ね前年同期に比し五割餘を增すの盛況を呈し又一面繩叺機業等各種副業に因る收入及び起業に伴ふ勞銀等農民の所得豊富なるに至れるが故に農家の經濟は各道共之を數年前に比し概ね四五百萬圓乃至一千萬圓以上の增收を示さゞるなき現況を呈せり。

■農事の新施設 尚同年內に於ける農事施設の主なるものは米穀檢査規則を改正して檢査の範圍を擴張し其の程度を高め統一を圖り又大豆檢査規則を制定して輸移出大豆の改良を期し何れも十月一日より實施しつゝあり。又畜産に在りては保護牛規則に依り益々種牡牛の充實を圖りつゝある結果成牝牛九十二頭に對し一頭の割合を示し前年の倍數となり年內に於て畜産組合四十三箇所の增設を見たり。牧馬に就ては年內に馬政局より種馬牝牡各二頭蒙古より牝馬四十二頭を江原道蘭谷事業地に收容し又同道洗浦に於ける牧羊の成績良好なるを認めたるに依り更に江原、黃海以北の六道に合計九十七頭の緬羊を配付し試驗飼育を行ふことゝせり。尚十一月迄に國有未墾地の處分を爲したるもの貸付五百三十件四千八十四町歩、成功に依る附與若くは拂下百八十一件四百三十九町歩に及べり。

■鑛業界の振興 次に同年の鑛業界は非常の盛況を呈し十一月迄の鑛業出願件數五千八百十一件同鑛業權の新設登錄一千百五十四件に上り之を大正五年同期に於ける件數に比するに出願登錄共約二倍の增加を呈せり。斯く顯著なる振興を見るに至りし主因は歐洲戰亂に伴ふ軍需鑛物の市價昂騰及び金融の圓滑なるに因れり、從て鑛産額に於ても軍需鑛物に非ざる金は採製に要する原料の騰貴に依り從來設備完成せる外人持許鑛山其の他主要鑛山の外一時休業せるもの多く爲に前年の産額より反て逓下するの現象を呈せり即ち大正五年に於ける十一月迄の輸移出額は一千五百三十五萬圓なりしに六年同期に於ては九百七十七萬圓となり斯業界をして多少危惧の念を懷かしめたるも之に反し他の軍需鑛物たる銅、含金銀粗銅、黑鉛、亞鉛及び其の他の鑛物の如きは著しく其の輸移出額を增加し五年同期に於て六百七十一萬圓なりしもの六年同期に於て一千二百六十八萬圓に上り結局總額に於ては前年に比し幾分增加すべき見込なり。而して出願の趨勢前記の如く劇增を示すが故に從て朝鮮鑛業の開發は今後に於て逐年鑛産の增加を見るべきは疑を容れざる所なり。因に近時に於ける鑛業熱は凡ての社會階級の慾望を煽り徒らに先願を競ふの結果鑛物賦存の狀態を究査せずして亂願を爲すもの甚だ鮮しとせず。此等は終に出願の拋棄、失効又は却下となるべきものにして同年一月より十一月迄に是等の事由に依り消滅せる願件實に六百二件の多きを算せり。如斯は眞に操業せむとする者に對し許可を遲延せしむるの素因となるべく其の弊害少からざるに依り出願者に對しては切に眞摯なる調査を希望せざるを得ず。

■水産界の好績 朝鮮に於ける水産業は漁獲高及び製造高に於て逐年增加の顯著なるものあり。大正六年度の統計は未だ之を得るに由なしと雖も大正五年度の統計に就て見るに漁獲高一千五百九十五萬圓製造高九百七十八萬圓にして之を大正元年に於ける漁獲高八百二萬圓製造高四百六十萬圓に比し孰れも約二倍に相當せり。大正六年に於ける朝鮮水産界に就て特に注目すべき事項の一は鰮鯖及び鯛鰹の米國に於ける需用に關し調査の爲試賣に着手したる事にして其の結果良好なるを得ば將來支那、南洋に於ける從來の販路擴張と相俟て更に一大販路を開拓し得るものと謂ふべし。其の他本府に於ける各種水産調査及び試驗調査等は地方に於ける各種水産改良獎勵事業と共に益々順調に進捗しつゝあり。朝鮮に於ける水産業は各般の狀況より査察するに尙頗る改良發達の餘地多く假りに內地と同一の能率に朝鮮に於ける沿岸線の漁獲高を增進し得るものとせば朝鮮に於ける將來の漁獲高は五千八百萬圓を計上し得べく又同一の計算を以てすれば朝鮮に於ける將來の製造高は三千七百萬圓を計上し得べきなり。

■林野現狀槪觀 朝鮮に於ける林野の分布は頗る廣漠にして全土の七割三分を占め而も內地の山野に比すれば其の傾斜緩にして且適樹少なからず。從て造林の有望なる言を俟たざる所なり。而して林野の現狀を槪觀するに國有百に對し民有凡十六に當り國有の內存置を要する部分は保護機關を設け保育成林を圖りつゝあるも存置を要せざる部分極めて多く是等は專ら堅實なる起業者に對し造林目的の貸付を行ふが故に經濟界の好調と各種工業の勃興とに伴ひ永遠の福利を涵養せむが爲之に著目する者近時頗る增加の傾向を呈せるは欣ぶべき現象と謂つべし。大正六年一月以降十一月迄に貸付を行ひたる面積は五萬二千九百餘町歩にして之を前年同期に比すれば約五分强の增加を示せり。國有要存林の保護及び不要存林の造林貸付を進捗せむが爲には先づ其の境域を確定するの要ありと認め茲に其の區分調査に著手し今日迄に大約七十七萬餘町歩を査了せしが更に一面私有林野及び地元民の緣故を有する不要存林野に對し各自の境域を定め其の營林を完ふせしむるの必要を認め大正六年八月京畿外六道に臨時職員を配置し調査を開始せり。尚主要なる林業施設としては殖林獎勵の爲大正六年中民間に配布せる種苗數五十五石三千四百五十七萬餘本に上り官民の植栽本數九千九百餘萬本此の面積二萬九千七百餘町歩に及べり。尚從來京城及び光陵に於て簡易なる林業試驗を行ひ來りしが本年度に於ても各種の樹木に就き造林、養苗上の標準たるべき調査を進め又同年に於て鬱陵島及び濟州島の森林植物調査を行ひ斯界の參考に資せり。

渡邊高等法院長試筆

主觀一日如千年
二二如壹日
暘

後藤瑞巖師の元旦試筆

新年文藝

和歌

課題「寄馬祝」

一等 京城南大門通田中方 高野 青灯

○みやしろに詣づる人の拍手や春麗かに神馬いなゝく

二等 同蓬萊町三二 高須賀 歌

○著飾れる馬はたからかいなゝきて街はほのぼの明け初めにけり

三等 同花園町一二三 篠田 東海

○武夫をのせて登城の朝風にいななく駒の勇しきかな

秀逸

朝まだきいなゝく駒がたてがみのかろくそよぎて初日さすかも 鎭南浦 安藤 [illegible]

よき年の鞍鐙飾りいさみたつ君が御馬は東風に勇みて 龍山 西村 美芳

大君の榮ゆます代の初春にいなゝく駒の蹄ぞいさましき 京城 佐藤 常

年立ちて勇める駒のいなゝきも御代なることほく響と聞きつゝ 京城 增田 於松

初日影假稠良くおちかたに駿駱の如き馬のいなゝくなしく 仁川 市山 盛雄

いくさ人初日まばゆく乘る駒の蹄のどかなる大御代の空 京城 餅 太郎

厩なる馬のいなゝきいやさやに初日の影に春は來にけり 同 中村よね子

鞍おきて主待つ駒に初日さす毛並うるはし顯ける朝 同 木村 照亭

武士が跨らばこりたるそのおもにめでたし駒の巧かるも 仁川 月賀 泰平

野に畑に千里の駒のい群れゐてたからかいなゝく高麗の初春 全南羅州 恒 楚

佳作

高麗の野よ駒も皆に引きかへてたくましげなる君が御代かな 京城 餅 一六

高麗山の小松ばやしに駒さめて千代の榮をへみるかな 同 早川 七九

たくましき駒のあがきの勇ましく進みゆく代を自出度かりけれ 平南安州 近藤 香雨

いさましくいなゝく駒にうち乘りて年ほきにゆく道のふるさと 龍山 中村 半助

資本金四千八百萬圓
內拂込濟參千六百萬圓
積立金貳千貳百拾萬圓
本店 横濱
支店 東京、大阪、神戸、長崎、倫敦、里昂、紐育、桑港、布哇、シドニー、新嘉坡、孟買、
出張所 カルカッタ、香港、上海、漢口、青島、濟南、天津、北京、牛莊、奉天、長春、哈爾賓、シャトル
大連大山通一番地
正金銀行大連支店
電話代表番號五〇二〇
海關税金取扱所六七二〇

謹賀新年
營業概目
各種艦艇、船舶製造及修理、各種汽機其他諸機械の製造及修理、汽車電車車輛新造及修理、鑛山用機器、汽鑵、鐵切新製造及修理、油房用豆油豆粕製造機械、鑄鋼鑄鐵、海難救助
大連市濱町四十號地
株式會社川崎造船所大連出張所
電話 事務所 長七一〇番 宿直室 七一〇番 技術部 九六五番 倉庫 一四七五番

謹賀新年
大連市監部通一丁目
鑛物 天産物 資易
SS
齋藤洋行
電話一七六三番
行主 齋藤新太郎
主任 西本龜松

一大連起業倉庫は完全なる煉瓦造にして且最新式地下庫の附屬せる故に完全なる保管倉庫也
一大連起業倉庫發行の預證券質入證券は銀行の割引を受け得るが故に金融上便利なり
一大連起業倉庫は低廉なる保管料を以て迅速に取扱特に一部出庫には至便の方法有
大連市山縣通五十二番地電話一〇八四番
大連起業倉庫
庫主 小島鉦太郎
倉庫所在地
市內山縣通三二、五〇、六三、六四、二四五、二四七、二四九地
市內淡路町 八番地五十三番地
市內紀伊町 六十四番地
市內市用地一區三八、四二、四四、四六番地第三區四八、四九、五十番地第四區七七、三十五番地

謹賀新年
資本金 壹百萬圓
拂込資本金 貳拾五萬圓
積立金 四萬圓
大連取引所錢鈔信託株式會社
大連市愛宕町十九號地
電話 二一一四番 長一二三八番

謹賀新年
資本金 金壹百萬圓
拂込資本金 金六拾萬圓
諸積立金 金拾參萬餘圓
大連取引所信託株式會社
電話 七九一番（重役室專用） 五三九番 六二〇番 一七五八番
業務の目的
一、大連重要物産取引所に於て成立したる取引履行の擔保並に清算受渡業務
二、大連重要物産取引人に資金の融通業務

謹賀新年

謹賀新年 慶尚北道大邱慈惠醫院 院長 松本繁正 外職員一同

賀正 慶山金融組合 原田次郎一

賀正 大邱稅關出張所 村井幸

賀正 大邱 渡邊比

賀正 辯護士 岩元三志 大邱

賀正 大邱警察署長 池見與五郎

賀正 大邱地方法院慶山出張所 高井久次郎

賀正 大邱田町 大塚健治郎 電話五四〇番

謹賀新年 和洋雜貨商 丸島銃砲店 大邱府東城町 電話三〇三番

賀正 慶山驛 廣信商會

賀正 大邱錦町 富士商會 電話五〇六番

賀正 慶山驛 大正商會

賀正 大邱上町 寫眞業 獨立軒 電話五二六番

賀正 大邱錦町 塚村精米所 電話五三番

賀正 大邱村上町 原田酒店 電話六二三番

賀正 大邱錦町 西洋料理 福壽軒 電話六三九番

賀正 大邱村上町 大邱葬儀舍 電話五二八番

謹賀新年 大邱警察署 葛城最太郎 吉井優 宮原留藏

謹賀新年 海陸物産委託販賣 光興商店 大邱府市場町一九番地 電話長六三五番 電略キンヌハキ 主任 金光瑞 金敬守

謹賀新年 大邱元町一丁目 大邱魚菜株式會社 電話長二四七番

謹賀新年 綿ネル足袋類 各種萬年筆類 販賣 山田卯商店 大邱元町十二間道路西側 電話六六〇番

謹賀新年 ＜醬油 ＜味噌 釀造元 寶城商店 大邱府東雲町 電話二一九番 振替京城四三二四番

謹賀新年 酒類釀造業 丸三合資會社 大邱府幸町 電話三五一番

謹賀新年 大邱東城町 山中洋服店 電話三五八番

謹賀新年 大邱醬油釀造組合（いろは順） 今金屋號 阪野商店 德島屋 丸六商店 荒木商店

謹賀新年 鮮南殖產株式會社 東條正平

謹賀新年 大邱醫師會

謹賀新年 慶尚北道蠶業講習所 慶尚北道蠶業取締所 職員一同

謹賀新年 大邱慈惠病院前 野々上賣店 電話五五二番

謹賀新年 穀物 叺繩 商 友信商會 大邱府幸町 電話七二三番 光成友三郎

謹賀新年 大邱東雲町 大石商會 電話三四六番

謹賀新年 米穀肥料 叺繩貸賃 海產物商 佐藤商店 大邱市場町 電話四一一番

謹賀新年 慶尚北道大邱 大邱印刷合資會社

謹賀新年 穀物貿易商 精米販賣 大浦精米所 大邱府市場町 電話四一七番 振替京城二二六七番 店主 大浦善七 主任 大浦豐彥

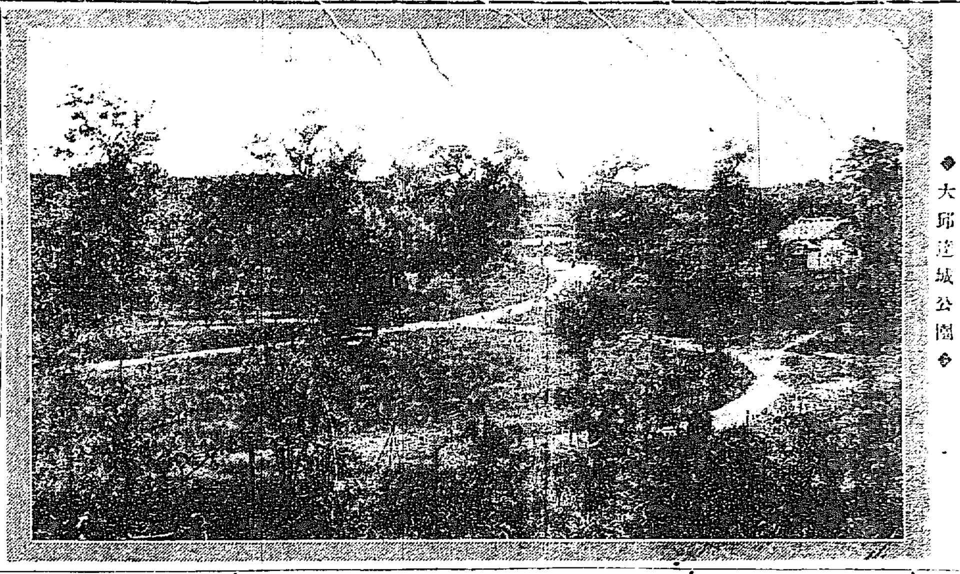
謹賀新年 大邱府元町一丁目 木村質店

謹賀新年 慶尚北道慶山郡廳 職員一同

謹賀新年 慶尚北道慶山警察署 立川周作

謹賀新年 慶尚北道達城郡廳 職員一同

謹賀新年 大邱郵便局長 橋川克彥



大邱達城公園

謹賀新年 大邱東門町 請負業 山根吉太郎 電話長三三番

謹賀新年 大邱府幸町 古谷精米所 電話四八番

謹賀新年 大邱府東門町 寺田酒店 電話三四三番

謹賀新年 大邱府東門町 若松商會 電話三三番

謹賀新年 大邱 大橋松太郎

謹賀新年 大邱府上町 東京國債鮮南支部 電話六六九番

謹賀新年 大邱 高田俊雄

謹賀新年 大邱府元町 惠美屋支店 電話五五三番

謹賀新年 大邱市場町 內田六郎 電話三二番

謹賀新年 大邱府驛前 重寶社運送部 電話一二三番

謹賀新年 大邱十二間通 滿盛庵 電話四六九番

謹賀新年 專賣特許 諸機械發賣元 東屋商店 大邱府元町

謹賀新年 大邱大和町 醫學士 吉村剛 電話一五九番

謹賀新年 大邱元町 竹崎六次郎 植松正一 前原重晴 戶田正 辻本德三郎

謹賀新年 大邱元町 吉村鎭雄

謹賀新年 慶尚北道廳 鈴木隆 申錫麟 岸秀次 吉松憲郎 松本誠 林繁藏

謹賀新年 慶尚北道蠶種業組合 慶尚北道桑苗業組合 組合長 城井惟隆 外職員一同

謹賀新年
大邱公立尋常高等小學校 職員一同
大邱公立高等女學校 職員一同
大邱公立高等普通學校 高橋亨
大邱公立農業學校 大西鬼三雄
大邱公立普通學校 圓城寺澤次郎
大邱壽昌公立普通學校 富谷直吉

謹賀新年 大邱府上町（十二間道路角） 平山本金物支店 電話六六五番 振替京城四六番

謹賀新年 大邱府上町 田村賣品館 電話四二九番 振替京城二二九九番

謹賀新年 大邱料理屋組合（いろは順）
原竹
芳千閣
大東庵
魚竹
やまと
明石
ひさご
大邱券番

謹賀新年 大邱藝妓置家
春大和 電話五三〇番
濱の家 電話一〇三番
豐島家 電話七一五番
藝妓一同

謹賀新年 大邱遊廓組合（いろは順）
いろは樓 電話三二〇番
大江樓 電話一〇八番
大阪屋樓 電話三七〇番
若戎樓 電話二四八番
第一千芳樓 電話三五四番
第二千芳樓 電話五〇七番
妻戀樓 電話二五番
八雲樓 電話三二番
吾妻樓 電話四〇一番

謹賀新年 輸入貿易商 大邱 松前商店 松前釜山出張店 松前金泉出張店

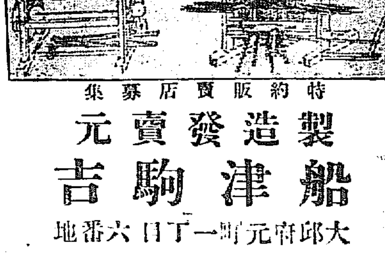
謹賀新年 辯護士 大邱 堀池當作

謹賀新年 大邱府七星町 鈴木繰棉工場 電話六一一番

喪中に付き年賀缺禮 大邱製絲所

謹賀新年 朝鮮銀行大邱支店 慶尚農工銀行 鮮南銀行 大邱銀行 東洋拓殖會社大邱出張所

謹賀新年
日鮮號製繩延叺機械
專賣特許 第一四一五六五號 第一四一八三四號



特約販賣店募集
製造發賣元 船津駒吉
大邱府元町一丁目六番地

おめでたう
益々勉強致し升
倍舊の御愛顧を願上升
大邱府元町一丁目
御菓子司 堺日進堂
電話三三九番 振替京城九二五番

新年號 其二

朝鮮刑事令の改正
頗る重大なる意義を有する 多年の懸案を解決せり
司法部長官 國分三亥氏談

客年中我司法部の事業は、押し並べて平凡、これぞと取立てゝ吹聽する程の事はないが、唯一事の特筆すべきものがある。夫れは昨年十二月八日發布、同十日から施行されたる刑事令の改正だ。此事は除り世間の注意を惹かぬ樣であるが、司法關係の仕事としては、多年の懸案を解決せる、頗る重大なる意義を有するものである。左に刑事令改正の梗概を述べやう。明治四十五年、從來朝鮮に於て施行されたる韓國の刑法『刑法大全』を廢止し、朝鮮人も內地人と共に大體に於て日本刑法に據らしむることに改正されたが、當時猶徒の除類地方に出沒せるもあり、旁々殺人强盜に關する規程は、刑法大全の一部を存置するの必要を認め爾來今日迄で之を活かして有つた、然るに時勢の遷移、民法の改善、犯罪の傾向等日本刑法の全部を鮮人に適用して差支へ無き狀態に成つた、仍で刑法大全の存置規程を削除して、法規の統一を行つたのである。尤も特別法には尙未だ統一されざるものもあるけれども、刑律の大本たる刑法の統一を行つて從來內鮮人共謀の犯罪でも、之を罰する法律を異にするより生ずる不公平と、刑法大全の存置規程が、伸縮甚だ窮屈であつて、裁量の餘地狹く、徒らに刑期に泥むで科罰するが如き不便を除き得るに至つたのは、兎に角大なる出來事と稱すべきであらう。

鄕津檢事正試筆

碧澗泉水淸
寒山月華白
默知神自明
觀空境逾寂
錄寒山詩　城峯

鮮滿兩線に於ける貨物運賃改正
滿鐵京城管理局長 久保要藏氏談

鮮滿鐵道の統一實施後、滿鐵としては政府の意のある所を體し其の鐵道の經營を續けて來てゐる、外部に於ては不同なりし鮮滿に於ける列車の齊一、釜山奉天間の直通列車運轉、列車運行時刻の改正と鮮滿混合列車の接續改善等は其の主なるもので、內部に於ける改正は給與の統一、共濟組合の實施、公傷給與の實施等を露年中に行つた、所で更に鮮滿鐵道の統一に最も重要の關係ある改正問題がある之れが鐵道統一の效果を最も有力に語るもので、これなくては鐵道統一も普遍點を缺くのである、その重要の改正問題は何であるか曰く貨物運賃の鮮滿線を通せる統一である、貨物運賃の改正……朝鮮線だけの改正なら大した問題なく實行が出來る、然しそれが滿洲線と合一したものとなれば各方面に深甚な利害關係を生じて來て仲々容易ならぬ事となる、此の重要な改正に對する調査と研究は新設の本社總務部業務研究所に移し、昨秋來其の實査に委ねてゐるが本年中には其の研究調査の步武を進め及ぶ限り速やかに其の實施を行りたい考へで居る、其の改正に對する予の腹案も若干之れなきに非ざるも、今日之れを言明する譯には行かぬ、唯一言を發すならば鮮滿蒙は今日吾が帝國勢力の一大圏內である、乃で今日となつてまで其中心を大連のみにせねばならぬとか、釜山にせよとか力味のは當らない、又戰後東淸線の活躍を全く無視しては吾が國利の伸張を遺憾なからしめたりと云ひにくい、更に現狀では朝鮮の產物は殆んど其の捌け口を內地に求めてゐるが之れを北へ北へと送る途をつけ、支那や露西亞に販路を見出す事も朝鮮のために必要であり、鐵道として復り荷を得るに有利だと思ふ、要するに鮮滿の鐵道も金融も統一された今日貨物運賃の改正は鮮滿蒙三地にとつて最も有利な處置を執らねばなるまいと考へる

御題『海邊松』　福井江亭畫伯試筆

好景氣と通信收入
遞信局長官 持地六三郎氏談

一般財界好況のため朝鮮の通信收入も仲々好況だ、今日の景況で行くと本年度の收入は四百五十萬圓を超ゆ豫算より六十萬圓位の增收となり、大正五年度の實收に比すると八十萬圓位收入を增すであらう、それだけ遞信局は通信事業收入のため一般の經費乃ち生產的ならざる敎育とか司法とかの方面に繰出す事が出來る譯である、唯遞信局の豫算は其の經費を極めて節約してゐる、改良せねばならぬ事、施設を加へねばならぬ事を大に控へ目にしてゐる、從つて通信收入の餘剩を外の方面にドシ／＼振り向けらるゝと云ふ事は遞信局として見れば若干痛いのだが、豫算に比し收入增のないと云ふやうな狀況にあるより當局としては愉快である、大正七年度の新事業は日本海橫斷命令航路の開始を主要なものとする、內容は既に傳へられてゐるやうに二千噸級船二隻を以て一月三回淸津敦賀間に航路を開かんとするので北鮮及び裏日本の連絡[illegible]產業の開發に若干の貢獻をせば幸ひだ、又郵便電信[illegible]の路設を經る事となれば其のため明年度の歲入は四十餘萬圓の增加を見るであらう、[illegible]何なり考へてゐるが[illegible]色々の關係があつて仲々思ふ[illegible]に實現を見る事が出來ない、唯[illegible]の出來るのは地方郵便局[illegible]京城中央郵便局[illegible]滿洲の八[illegible]所に其の附近の郵便局長を集め[illegible]や課長など出席の上會議をする[illegible]之れは經費も仲々要るから、[illegible]に一巡りする位の考へでやつて行く管だ、又遞信協會も大正七年一月から愈々成立させ其機關雜誌の頒布を圖る事に決定めた、怎も年頭雜感も月並でよい考へも浮ばぬ

實行の初一步
東洋拓殖會社理事 川上常郎氏談

東拓の事業に對する大正六年の回顧と七年の豫定かね、之れを一言にして盡せば六年は計畫時代であつた七年は實行の初一步に入りしものとする事が出來やう、乃ち計畫時代から實行期へ移つたと云ひたい、實際大正六年に於ける東拓は計畫時代であつた、五年の終りに吾々は東拓に入つたのであるが六年は如何にして社務の發展策を講ずるか、發展策を講ずるに最も必要な基幹となるべき東拓法改正案の特別議會提出に付如何なる希望を當局に陳ずるか之れに一年の前半を惜殺され、改正法通過後は其の實施に就て色々配意せねばならなかつた、唯甚だ愉快とするのは諸事概ね所期の如く進行した事である、六年中新法律案により着手した目星しいものは滿外興業會社の成立に就き援助盡力して娘會社とした事並に滿洲に不十分ながら機關の擴張を行ない不動產金融業務を開始した事本社を東京に移した事位である大正七年には既に遣り來つた不動產金融は素より殖林も殖產も殖民も水利開墾も從來の如く否な數步を進め……殊に水利の如きに於て……其の進捗を圖り成績を擧げ更に新法律により認められた各方面に對する金融上の活動事業上の活動を試みたい、少なくも七年に於ては其の緒に就かせたいと考へてゐる、其の如何なる方面に活動し如何なる結果を擧げるかは言はざるは言ふに勝るで新年匆々から多言したくない、先づ見て貰はう、資金も昨年末に一千五百萬圓の社債を發行したが更に今年も金融市場の狀勢により新な發行をやるかも知れぬ。

新春新韻

[illegible]「朝鮮海邊松」

志智 敬愛
[illegible]

富澤 雲堂
臨海蒼龍道氣雄。高吟祥靄瑞煙中。喬松忽挂曉曦日。萬國山川映次紅。
評曰 詞彩偉麗、[illegible]歌、更覺雄壯

○ 藤倉 藤陰
梢頭擊日起春風。根若盤龍據海東。黛色映波連十里。壽客萬古欲無窮。
評曰 筆健意潤。

○ 園田 八洲
靄靄蒼烟遮海邊。數株鶴唳帶[illegible]烟。老松欲獻千齡壽。影映春濤色逾鮮。
評曰 格調莊麗、氣骨渾厚。

大久保晩香
蒼蓋垂巖岸。蒼龍蹈碧波。風雲天女舞、潮鼓海神和。帆影掠梢去。鶴聲搖影過。雪冠朝暾潔。雨髮夕鬟蟠。蟠屈送吟夢。逍遙散醉魔。淸陰迎釣客。露滴滿漁簑。擎出紅蹄麗。搖曳太平歌。舞來白鶴姿。瑞煙春藹藹。
評曰 描形狀容、取材豐富、見腹笥之大。

○ 齋藤 三寅
蟠松佳氣曉葱葱。翠蓋條攀旭日紅。影映太平洋上靜。[illegible]動處起春風。
評曰 筆勢活躍、風景如畫。

○ 渡邊 凌雪
波濤靜穩日昇東。老幹如龍姿態雄。颯爽聲成韶護曲。翩翩白鶴太平風。
評曰 正是太平雅音。

○ 淸水 彬郷
長松十里鬱蒼蒼。上有冲天群鶴翔。莫是蓬萊仙子住。滄波淼渺與雲長。
評曰 意雅詞暢。

謹賀新年
晉州郡廳
一同

謹賀新年
滿洲開原
滿洲電氣株式會社
社長 權太親吉
電話長一二〇番

謹賀新年
京城本町二丁目
日韓書房
電話一四五番
振替口座京城一一五番

謹賀新年
藥品紙文具御各種貿易商
奉天新市街昭德文街
滿蒙藥品貿易合名會社
電話長六三八番
振替口座大連一七六七番

謹賀新年
全羅北道全州高砂町
林鑄物工場
場主 林平馬

謹賀新年
京城旭町一丁目
食料品雜貨商 川西商店
電話一三六七番

謹賀新年
奉天十間房
彌生券番
電話一三番

謹賀新年
京城明治町二丁目
城六太
電話九六一番

謹賀新年
朝鮮群山港本町通
群山米穀商組合
電話四九番
電話三一四番

謹賀新年
京城本町二丁目
中村再造
電話三六五番

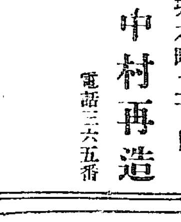
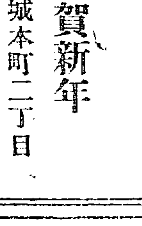
謹賀新年
京城本町一丁目
江戶川
電話一四六番

謹賀新年
京城北米倉町
ファミリーホテル
植木ユキ
電話二一八番

謹賀新年
元山水力電氣株式會社
電話四三三番

謹賀新年
北陸土木株式會社營業所
京城府漢江通十三番地
電話(龍山)四五六番
本社 金澤市西町電話六五〇番
營業所 鎭海島町電話二〇番 浦項停車場構內

謹賀新年
御旅館
滿洲推頋
千金業 筑紫館本店
電話長九番
驛前 筑紫館支店
電話長六九番

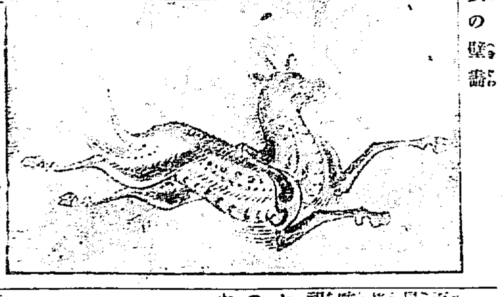
謹賀新年



京城本町二丁目
日本蓄音器商會
電話一二八三番
振替京城六八四番
京城本町二丁目二十九番地
山葉樂器朝鮮代理店
販賣元 釘本樂器部
電話一二八三番

謹賀新年
京城永樂町
淸華亭
電話二五番

謹賀新年
安東縣二番通三丁目
株式會社 滿鮮鐵工所
電話三三六番

謹賀新年
倍相不變御愛顧願上候
龍山元町三丁目
八景園
電話四六番



●新羅畫の妓女野遊の圖と江西三墓里古墳の壁畫

繪畫に現はれた朝鮮古代の馬

雅致に富める壁畫の馬と支那風を模した朝鮮畫家の描ける馬圖

――李王家博物館所藏品より見たる――

朝鮮に於て馬の圖の繪畫として現はれた最古のものは鎭南浦梅山里古墳の壁畫であらう。此れは日本及び支那朝鮮を通じて彩色を施した壁畫中に於て最も古いもので騎射、騎士、曳馬等の圖があつて模樣は寫眞の通り幼稚で而かも拙劣なものであるが、畫風は何處となく雅味を帶びて

漢の畫像に酷似し

してゐる、此の畫の推定年代は約そ一千五六百年前のものらしく思はれる、又た同地花上里の古墳中にも同じく壁畫の騎馬の圖があるが之は前者より時代が少し下つてゐる、平南線眞池洞の古墳内にある騎馬の壁畫中日本風俗畫中に見る樣な甚だ優美なもの(寫眞參照)で其の騎士及び馬裝は以て當時に於ける風俗を知る事が出來る、之れは恰も歐洲の風俗に似て騎士の甲冑、馬甲、馬冑等共に歐洲古代戰士の如き風がある、之は戰時に於ける高句麗當年を親ふに足る事が能きると思ふ、併しその乘馬は前記梅山里古墳中の壁畫と同樣で純然たる

矮少な朝鮮產馬を

描いたものである、江西郡三墓里にある壁畫天馬の圖は之と全然趣きを異にし純然たる空想畫であつて、其筆力の雄勁なる支那南北朝時代若くは我が飛鳥朝時代のものに酷似し年代は約千三四百年前のものと推定せらるゝ、以上に舉げたものは朝鮮古畫中の馬の圖であるが、夫れより(一)新羅の最盛期より畫に巧みなる高麗恭愍王に到るまで馬に關する畫が如何に描かれてゐるかは目下湮滅して現存のものが無いから一向不明であるが、今日傳はつてゐる高麗時代の馬の圖としては同博物館所藏の恭愍王筆『天山大獵の圖』であらう、此の恭愍王は高麗第三十一代の王で書も好く書けば畫も亦堪能であつた

嘗て阿房宮を描て

「其の人物の少なること蠅頭の如く、冠衫帶冠、纖にして悉く具備し精細共に倚をなす莫し」とまで當時評せられたる程である、而して恭愍王の畫は博物館に在るが其の馬は純然たる朝鮮馬の骨格を現はして居る。所が李朝に入つても馬圖の骨格等は最初純然たる朝鮮產馬であつたが李朝時代に入りて彼の周の穆王に赤驥、盜驪、白義、踰輪、山子、渠黃、華騮、綠耳の八駿あり、唐の太宗に特勤驃、颯露紫、青騅、拳毛騧、什伐赤、白蹄烏の六駿ありしに對して李朝の太祖は橫雲鶻、追風烏(以上女眞產)游麟青、玄豹(以上咸興產)發電赭(安邊產)龍騰紫(端川產)獅子黃(江華產)褐白(濟州產)の

八駿があつて其圖

は今日に傳はつてゐるが何れも朝鮮產の馬であつた。元來朝鮮の馬は支那種より東漸し而して日本內地に渡るに及んで其の體格を改良せらるゝに至つたものである

前記李太祖の八駿は北方產のもの多く南鮮產は僅かに江華、濟州に於て二頭あるのみであるが、是は太祖の發祥地が北方である、且つ新羅の末葉に當り南方は亡國的の觀ありて凡ての事業衰亡せるに反し北方は支那產の良馬を輸入したる爲めであつたらうと思ふ。

然るに其の後に傳はる朝鮮八駿の圖なるものを見るに馬の骨格豐丰は凡て純朝鮮產のものと異り恭齋の馬の如き

寧ろ亞刺比亞產の

良馬とも云ふべきものと成つて了つた。是には深き仔細のある事で之は支那の畫伯趙子昂が傳へたもので話せば、永くなるが、維つと物語れば、高麗朝の忠宣王が、支那へ行つて暫く王都に滯留してゐた事がある、その時忠宣王は燕京に萬卷堂といふ御殿を構へて時の權臣にして詩書畫の三絕と稱せられたる李齊賢を召し且つ元の學士姚遂、閻復、元明善、趙子昂(孟頫)等と共に折々雅筵を開きて風流三昧に日を送つた事がある、其の時代より子昂の畫が朝鮮へ多數輸入せられてゐたが察するに後代の畫家は此の子昂の畫風に共鳴して追々に矮小なる朝鮮產馬を描かず骨格逞しき

●眞池洞古墳の壁畫

駿足を描寫するに

至つたものであらう。之れには『子昂白馬圖』なるものがある、恐らく後代の朝鮮畫家は之を模倣して八駿の圖を描くに至り李朝第八代世祖王の二十八年王命を奉じて描きたる安堅官(護軍)の畫いた八駿の圖の如きも子昂の筆意を模倣したものであらう。

安堅、字は可度、玄洞と號し、池谷の人にて畫を能くす、『龍泉談寂記』に據れば『安堅は博く古畫を閲し古畫を模倣するに巧みにして一たび名畫を模倣して筆を下せば或は郭熙となり、李弼となり、劉融となり、馬遠となりて慇向せざる所なし。而して山水最も其の長所なり(中略)年馬の圖亦可ならざるに非ず』と

其後金瑱なる馬を描く名手があつたが

今傳はる所のもの

無のは遺憾である下つて第十三代明宗の朝に金禔なるものあり、養松堂、司甫、醉眠等の別號があつて『畫品絕妙にして人物山水牛馬翎毛草蟲精巧至らざる莫し』とある。又た同代に於て王族中に李慶胤(博物館に遺墨あり)が出で馬の畫に於て名聲嘖々たるものがあつた。

慶胤字は李吉、駱坡又は駱村と號し仁宗元年に生れ鶴林守より鶴林正に進み『燃藜室別集』に『畫品孤高筆致淸れて人物牛馬翎毛に工みなり(中略)竹林守慶胤は其の弟にして、汲齋舟は其第三子なり』とある

子昂の筆致を加味

して如何にも春風駘蕩の候、氣品高き隱士が楊柳翠りに煙ぶれる下に悠々騎御してゐる樣が紙面に躍動してゐる。弟の竹林も馬の畫が上手であつた事は『竹林畫史』に『馬と翎毛とは其の兄を掩ふ』とあるのでも判る、憾むらくは竹林の畫は今日之を發見する事が能きぬ夫れから李太祖八駿の一なる騎駿紫の圖は恭齋の筆である

恭齋は尹斗緖の畫號にして、別號を華齋といふ、李朝第十九世肅宗九年海南に生れ、李朝第廿世顯宗の十九年時の高等文官試驗に登第して進士となり、諺語、玄棋と共に名畫三絕と稱せられ、洪得龜は恭齋の描く處の龍と馬とを見て恭愍王以後に斯く此の如き傑作なしと評した事がある、宜べなり之は世祖が安可度に畫かしめたる八駿の圖が壬辰の役兵燹に罹つて燒けて了つたからである、夫れ故世祖は子昂の八駿の圖を藍本となして恭齋に描かせたのである。

『美妓出獵の圖』は惠園の作である

惠園姓は申、名を潤福、字を笠父といふ、高靈の人で、李朝第廿五世正祖朝より同第廿六世純祖朝に亘つて畫名一世に高かりし人であつたが、職は低き畫員で、官は僉正(從三品)であつた。尤も此の圖の馬は純然たる朝鮮風の馬であるが、百二三十年前に於ける當時の風俗を描寫して遺憾なきものである。

此の外

博物館には希園筆

『少年騎行の圖』があるが是亦原畫が不鮮明なので揭げる事が出來ぬ

希園姓は李、名は漢喆、字を子常といひ、安山の人にして李朝第廿六世純祖八年安山に生れ、畫員となつたが途に郡守に薦進した、金正喜、希園の畫を許して曰く『用筆布くもせず、取境亦た佳なり。是れ必ずや臨底宿趣あらん』と。

●恭齋筆のアラビヤ風の馬

最後に是も寫眞に巧く撮れぬから圖を揭ぐることは省略するが、矢張り子昂の流れを汲む李數製の『群馬の圖』は是も博物館にある名畫の一つである。

李數製、字は士文、松石と號し李朝第廿六世純祖七年延安に生れ、雲谷に家居して欧蝶を描かんとし奇狀のもの庭内に來るを追ひ衣冠を整へず追ふて城北洞に至る』といふ程の熱心家で又た山水に巧みなる人であつた。

話がツイ多岐に亙つたが、之を要するに朝鮮繪畫に現はれたる馬圖は以上の事實に據りても寶物寫生に重きを措かずして支那畫を模倣して描きたる想像畫多く又た古代のもの即ち前記の壁畫と雖も是こそ短少なれ其凡ての點に於て姿勢骨格風丰等純乎たる朝鮮產馬の形體に非ずして漢畫式乃至像式畫風たることを窺ひ知らるゝのである

謹賀新年　田中カーバイド朝鮮總代理店　山陽商會　京城南米倉町　電話長一二九二番

謹賀新年　重石水銀買入所　早川商會　京城南大門外　電話一七六四番

謹賀新年　和洋紙文具小間紙卸商　並に帳簿製本印刷一切　諸官衙御用　增田作利商店　京城本町二丁目　電話四二五番　振替京城二二五五番

謹賀新年　京城蓬萊町二丁目　京城鐵工所　二宮常一　電話一一二三番

謹賀新年　印章彫刻　京城本町一丁目　千代田號　電話一三一八番

謹賀新年　帝國公債勸業債券賣買業　京城西小門町九十六番地　日本光國株式會社朝鮮支部　坂本學之　電話二八三一番　振替京城八八五番

謹賀新年　京城明治町二丁目　木村屋支店　電話二八七〇番

謹賀新年　內外果實市物卸專業　委託問屋　松原商店　京城南大門通三丁目　電話(ヤ)一一八三番　振替口座京城一一八三番

謹賀新年　京城黃金町二丁目　自轉車及附屬品卸商　高居商店　電話長二九六一番　振替口座京城四二三八番

賀　三等品　舶來品ニ比シ一層優良ニテ御邸宅用ハ此品ニ限リマス　四等品　通常舶來ト稱ヘ普通ノ用途ニハ至極適當ノ品デアリマス　菱印　窓硝子　東京市麴町區永樂町一丁目一番地　旭硝子株式會社　工場　第一工場 尼崎　第二工場 戶畑　第三工場 鶴見　第四工場 枝光　煉瓦工場 尼崎　曹達工場 戶畑

謹賀新年　京城本町三丁目　貿易商　藤富國太郎　電話長三〇八番

謹賀新年　京城黃金町一丁目　岩田寫眞館　電話五三番

謹賀新年　ヴアキユーム、オイル、コンパニー京城出張所主任　松居辰雄　京城南大門通二丁目　電話二四七四番　振替京城四〇三七番

謹賀新年　京城本町二丁目　貿易商　梶原末太郎　電話長三六七番

謹賀新年　京城本町三丁目　近藤金物店　電話一五六二番

謹賀新年　小川勝平　法律事務所　京城本町一丁目　電話四一番

謹賀新年　吉野兄弟商會　京城支店　京城南大門通二丁目　電話長七五七番　二二九番

謹賀新年　各種原木雜木製材　建具類一切販賣　兆昌材木店　主任 鄭以初　京城黃金町二丁目　電話二八五一番

謹賀新年　京城本町一丁目　雜貨商　高木德彌　電話一三四番

謹賀新年　朝鮮公論社　日本電報通信社

染料部　各種染料　工業用藥品　媒染劑及澱粉　桐山商店　家庭部　豆奴印家庭染料　新案實用家庭絞り機各種　絞り用圖案洗濯用器具材料　專賣特許金銀砂子箔　此頃流行の絞り染を習ひたき方は弊店へ御申込み下さらば日本家庭染色普及會の講師が出張してお教へ致します　大阪市東區南久寶寺町一丁目　支店　東京市日本橋區富士見町二丁目

謹賀新年　滿洲長春　上田直秀

謹賀新年　釀造元　大阪府堺市　大塚本店

謹賀新年　永原正雄

中村檢事長試筆

日試萬言 倚馬可待

茶水

紳士仲間にも盛んな京城の乗馬趣味

朝鮮の上流階級から小學生までの乗馬熱

昔から馬上三軍を叱咤するとか、馬上天下を奪るなど、言つて英雄と馬とは勝利と勇壯の象徴となつてゐるだけあつてハイヨーの掛聲勇ましく蹄足に蹴うつ騎士の姿とビューと横つ面を吹き毆る

寒風に嘶く駒

の姿程凛々しくも雄々しく且つ慓悍の氣の溢れたものはあるまいと思はれる、京城に於ける乗馬熱は近年大いに勃興して[illegible]だき頃から鬣の霜を拂つて乗馬倶樂部に通ふ紳士の馬上姿を見受ける事も尠くないが乗馬倶樂部の會員は目下八十餘名に達し各會員の熱心さは非常のものである、就中鈴木穆、村田素一郎、二宮亮吉、堺谷計三郎、飯塚徹、白井友之助、中村與資平、井上正愛、飯泉幹太、瀨戸潔、阿部秀太郎、野々村讓三、橘香橘、松田壽男、齋藤又吉、權藤四郎介、成達永の諸氏の熱心な事と言つたら如何な朝でも寒風に口鬚を凍らし乍ら

練習を僻らぬ

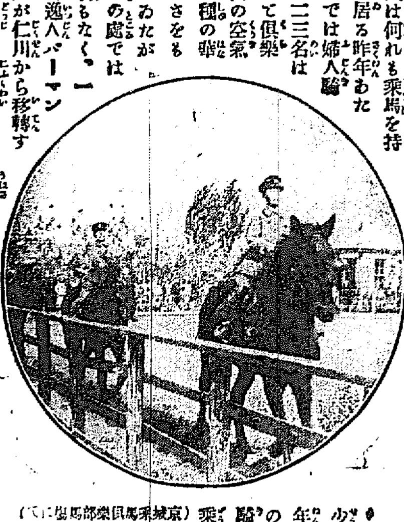
と言ふ有樣で其の上達も又著しいものである相な朝鮮人側も始めは好奇心に驅られて乗馬の練習に耽つたものもあつたが永續きせず數日乃至一二ケ月して逃げ出すものが多かつたので評判が惡かつたが最近では韓相龍氏を始めとして韓昌洙男爵、白寅基、李基昌其外約十名計りの紳士が入會した爲め賑やかになり今後はこれ等顔利の勸誘に依つて鮮人側の會員數を增加するであらう、練習振りは韓相龍氏は朝は寒氣身に徹る七時半頃から九時頃まで午後は銀行から退けると直ぐに馬場に乗込むと言ふ風で他の會員から銀行に勤める時間よりも倶樂部に居る時間の方が長いなどと言れる程であり韓昌洙男は五十八才の老

齡にも似合ず

なか〳〵の元氣で練習を勵んで居るが、一體に質が宜いとの事である會員中鈴木村田の兩氏は西洋産の純西洋種の逸物を中村氏は日本産の西洋種を愛養し其他にも權藤、阿部、飯泉、橘の諸氏は何れも乗馬を持つて居る昨年あたりまでは婦人騎士も二三名はあつて倶樂部内の空氣にも一種の花やかさをもつてゐたが今日の處では一名もなく、一時獨逸人バーマン夫人が仁川から移轉すると同時に入會するかの噂もあつたが時局柄遠慮したらしい然し婦人騎手を失つて紅一點の色彩を添ふる事の出來なくなつた倶樂部も

最近少年騎手

が入會する樣になつてから此等仇氣ないそして活潑な騎手に依つて倶樂部内の空氣に又再び生彩を加へる樣になつて來た少年の名は松本寛郎、俊郎、森與一郎、田中博の諸君でみんな乗馬には熱心な坊ちやん達である



少年の騎乗（京城乗馬俱樂部馬場にて）

馬齡

齒によつて馬の歳を鑑定する法

獸醫　湯淺文郎氏談

年賀狀に能く馬齡を加ふと謂ふ文句を使ふが、此の話を少し爲て見やう。之は馬の齒が歳を經るに從つて規則正しく發生するからである。尤も人及び獸類とも齒の發生は一定してゐるものであつて出産後或は時日を經過すれば乳齒を生じ又或は年月を經ると乳齒の脱落して成齒を生じ次で餡齒が發生して之れで齒が揃つて始めて成年に達するのである。爾後年を重ぬるに從つて齒の面が磨滅して平面となる。此時が則ち老年期に入つたので更に年と共に齒髄の痕跡が黄褐色を呈して顯れて出で齒は細長く齒齦の外に脱出で遂には脱落ちるのである以上は一般動物の齒に關する狀態であつて、馬の齒も前述の原則と變らないが唯だ馬は馬として固有の齒を備へて居る事が所謂『馬齡』の意義に中たるのである、之は其發生と磨滅が食物に大なる關係があるからである。而して馬の齡の發生と磨滅とは又た年齡と大なる關係を有して之れが規則的に少しも亂れぬ事は面白い次第である。是れが故に馬齡を鑑定するには齒の發生及び磨滅の程度を象徴とする次第である。現今馬の地理的分布を調べて見ると國に文野の別なく馬を飼養しない所はないが馬の年齡を鑑定する方法は所によつて相違してゐる。我國に於ける在來の馬齡の鑑定は特異であつて歐米の鑑定年齡に比して約一箇年半の差を生じてゐる、之れは日本人の歳を算へるに『數へ歳』を用ひる慣習が馬にまで及んでゐて歐米の何年何箇月として年齡を定むるのと相違があるからである、馬の年齡鑑定は先づ白毛、眼盂の凹窪、顔貌等により大約幼老の鑑定をなし而して確實なる鑑定は齒を見て定めるのである、故に是よりさうして馬の齒は切齒（前齒）十二枚、犬齒四枚、臼齒二十四枚合計四十枚であるが併し牝馬又は騸馬（去勢の馬）に限つて犬齒は皆無である、尤個々發生することがあるのでも不完全である、此の四十枚の齒の内で犬齒四枚を除きては皆な齒は平坦で嫩芳草木或は樹皮を咀嚼するに都合よく出來て實に草食獸の模範である、犬齒四枚は日常は不用であるが之は人間や其他の敵を嚙む時に使ふのである、齒の質は中等の硬度であるが故に硬固い食物假令ば大麥草木以上を嚙むのに適しないのみか是等の飼料でさへ絶わず齒は磨滅して一年間に約二ミリ米突乃至三ミリ米突づゝ減る割合に成て居る就中く門齒の磨滅面は頗る奇異で初めは横に延長し次に圓形となり三變して三角形より終りには前後に長くなるのみならず共に磨滅面には年齡に從ひ種々の紋標と色彩を現はして此の紋標は年齡の鑑定に必要なるものである、又門齒の磨滅の方向及び接合狀態上下齒の幅員等により年齡を章徴することもある

馬は生後八日目に門齒が四枚發生するのを通則としてあるが稀れには胎内で發生して居ることがある之に反して臼齒は上下各六枚發生して産れるのである我國では切齒を生ずる時は一歳と稱するが歐米では約六週間と謂ひ乳齒の隅齒が發生するときは我邦の二歳で歐米の約九ケ月である、而して六歳以上の馬齡の鑑定は專ら磨滅面の形狀方向紋樣の廣狹等に據るの外なく從つて此時代こそ馬商が馬の年齡を僞るのである、馬は十六歳以後を老齡と稱し人の五十歳以上に相當する馬の生存年數は乳齒の全部脱落期に七を乘じたる頃まで生存すると云ふ事である即ち4.5×7＝31.5となりて三十一歳の生存力を示すのである併し稀れには例外もあつてフレデリック大王の愛馬は四十歳の長壽を保たと云ふ事である。

天明俳人の詠める馬の俳句

乾坤一轉と共に更に大に活躍せんとする大正七年『馬』の元旦を迎ふるに當り些か之れを祝福せんが爲め古人の句集より馬の句中鈔錄して見やうと思つたが元祿以來に於ける俳人の總てに及ぶと云ふことは不可能であり又無意味でもあるから私は明治以來我が俳壇の今日ある正岡子規氏の新俳句創造に大なる根底を有する天明時代の俳人（天明俳人と云ふと[illegible]梅室は兎も角蓼太曉臺、闌山の句を逸したるを遺憾とす）中より特に之を鈔錄することゝした、而しながら咳唾珠を成し句々吟誦に堪へざる蕪村の句集中『馬』を詠つた秀句を多く鈔錄し得なかつた事を甚だ遺憾とする（大同江人）

背のびして馬に乗る日の霞哉　蕪村
寒垢離に尻そむけたる繋ぎ馬　同
鳥羽殿へ五六騎急ぐ野分哉　同
那須七騎弓矢に遊ぶ袷哉　同
白馬金鞍入誰家
菫踏んで今去る馬の蹄哉　几董
馬の背にかろく跨る袷哉　同
旅思
馬下りて馬夫が別れ秋の暮　同
下手乗りて馬も遊ぶや藤の森　太祇
挙せし馬の弱りや暮の秋　同
春駒やよい子育し小屋の内　同
唐桕に駒や繋がん野路の月　召波
賭の御馬の出すすまひ哉　同
暮馬でる身のうれしさよ　同
遲き日を追分ゆくや馬と駕　同
馬の背の高きに登る蕎麥の花　移竹
蹈鞴
耕作て馬の上なる月見哉　樗良
秣食ふ間を馬士が涼み哉　保吉
横しぶき木馬の上の鶺鴒　素郷
馬車江戸の師走かな　巴人
霜杜輪乗の駒の蹄かな　重厚
春風や馬堤に駒の鳴をなす　道立
牛馬に師走のありて寶哉　几圭
行年や馬をよくれば牛の角　青羅
乗り出す芦毛の駒の栽を踏む　同
馬の尾を引摺つて行く寒哉　蝶夢
雪の暮馬も一ツは欲しけり　同
春の月馬ある里を過ぎにけり　五明
出代の馬に物いふ別れ哉　同
蝶飛んで馬上の人　同
馬に逢ひ牛に逢ひけり初櫻　同
白馬の青野をかくる嵐哉　同
等戸馬の尻を開く夕べ哉　同
馬蕗枯れて風しらけたり冬河原　同
むしり喰ふ馬や枯野の草の音　同

春の歌

海邊の松

□ 龍山海嶽社宅七の一　百瀬千稱
つゝましく女松そはたつ磯わたりわたつみそめてのぼる初日子

□ 咸南利原郡元平面新成里　田中新馨
しほけふる巖根の松のおほわたに殘嵐高く荒鷲の訪ふ

□ 京城本町四丁目一二五　路　榮女
幾千里こかねの波のさゝゆれて古にし松に初鳥なく

□ 龍山　江田ちよ
うらゝかに昇る初日のかけさしてみどりさやかに見ゆるはま松

□ 同
わたつみの沖邊はるかに霞みつゝ初日かけさす磯の松か枝

□ 釜山　柴崎多念二
大磯も小磯も松の色はれて初日照りそふ千代の春かな

□ 京城　橋本秀峰
灘汐たく海士のとまやの夕煙とすゑをつたふ磯の松原

□ 平壤　本田常吉
海士かたく朝餉の煙たなびきつのとかに立てる磯の松かも

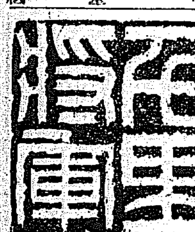
□ 咸南新興郡　田中新馨
舟人のかさすこてより春立ちて濱邊の松に霞たなびく

□ 京城　樫葉女
海原を大綿とも初春の松はけたかき姿うつして

□ 咸南新興郡　那須醴華
荒雄波岩根にほふ朝日かけ千代萬代と祝ふ老松

□ 平南順川　熊谷わたる生
春立ちてあけにけらしなしのゝめの浪も靜けき三保の松原

□ 忠北忠州　鈴木宗一
國のさち積みし白帆のほの見ゑて浦邊の松に初日かゝやく



文口千里府軍　水上小儒篆

謹賀新年
木材商
三浦商會材木置場　電話九〇番
奉天鐵道大街
三浦商會
店主　三浦梅太郎
電話長五七四番

謹賀新年
全羅南道光州
㊉松田釀造場
電話八番
（清酒）日光　松の壽
燒酎並に醬油味噌

謹賀新年
撫順炭販賣所
奉天小西關
公益公司
電話日長五四四番
電話中國七〇番

謹賀新年
▲營業品目＝陸物産委託販賣並買
▲附帶事業＝場内小賣市場販賣店の設備あり
奉天新市街
滿洲市場株式會社
電話長六三六番
振替大連一七三二番
電信略號マ一又はマ
資本金四十萬圓
内二十萬圓は滿鐵會社特株

謹賀新年
朝鮮元山
㊆吉田商會
電話四八番

謹賀新年
東亞煙草株式會社
元山販賣所
電話三九番

謹賀新年
元山
岡野商店
電話一四四番

謹賀新年
元山春日町
田口回漕店　電話二四・四七番
同　荷捌店　電話二〇九番
同　第二荷捌店　電話二六番

謹賀新年
元山
大盛商會
電話二二番

謹賀新年
元山港
朝鮮水産株式會社
元山支店
電話四三二番

謹賀新年
奉天盛大堂大藥房
丸井又一

謹賀新年
牡蠣　塩辛　生牡蠣製造販賣
元山本町
横山兄弟商會
電話四三五番

謹賀新年
奉天居留朝鮮人會
會長　尹敬重
書記　李重武

謹賀新年
朝鮮全北井邑郡
熊本農場
朝鮮全北沃溝郡
熊本支場

謹賀新年
安東縣六道溝
◇OS
鴨綠江製材無限公司

謹賀新年
大日本優等味淋
登録商標
龍水
大阪府堺市
鹿島吉平釀造發賣
電話百四十壹番
振替貯金口座大阪二四五二番
京城本町二丁目
專賣店　前田酒店
電話一三七番

謹賀新年
三井物産會社出張所
滿洲長春
浦保壽

謹賀新年
御年玉の御贈答品はマチダの組合せ文房具に限る定價四十錢以上いろ〳〵
京城本町二丁目
和洋文房具
測量諸器械
洋帳製本印刷
町田商店
電話長一七五番
振替京城一〇九番
支店　仁川本町二丁目　電話長四〇五番
▲京城日報市内專賣店
▲大阪每日新聞市内專賣店
▲各地諸新聞大取次所
京城本町二丁目　電話二二六番
龍山漢江通　電話五二一番
仁川本町二丁目　電話四五番
町田新聞部

謹賀新年
大連市山縣通
㊦
福昌公司
電話代表番五千四十番

謹賀新年

釜山南濱町 煎子、乾魚問屋 肥料委託 牛島商店

諸機械製造修繕 横江川鐵工場 釜山富平町三丁目 電話六三三番

牛皮商 貿易商 釜山榮町四丁目 田代虎太商店 電話二九四番

釜山 株式會社 釜山商船組

海産物、魚肥料委託賣買問屋 煙草商 赤阪商店 釜山南濱町一丁目 電話三五二番 振替京城一五二番

寫眞器械材料、醫用器械藥品 サンエス萬年筆 釜山本町一丁目 岩瀨商店 電話七五五番 振替京城七八八

砂糖麥粉直輸入商 合名會社 中島商店釜山支店 釜山琴平町 電話六〇三番

陶磁器製造販賣卸商 釜山本町三丁目 森一虎商店 電話六七四番 振替京城六七四

釜山大倉町 釜山埋築會社

釜山大倉町 肥前商會 電話六二六番

綿絲布商 釜山本町三丁目 吉見洋行 電話二〇番 振替京城一八〇

櫻正宗 釜山幸町二丁目 山邑釜山支店 電話三〇一番

釜山長手通 栗山商店 電話八三番 振替京城三三六

清酒 桐正宗 いろ娘、一すぢ 醸造元 釜山草梁町 堀兒弟商會 電話長一五四番 振替京城二四一八

釜山佐藤町 東亞煙草株式會社 釜山出張所

舶來雜貨、洋酒 化粧品、食料品 釜山辨天町二丁目 高野屋商店 電話八一番

朝鮮海雲臺温泉場 海雲樓

釜山埋立新町 本店 荒井旅館 電話七四三番
京城本町二丁目 支店 荒井支店 電話二八八番
慶南東萊温泉場 支店 荒井支店 電話八番

釜山運送部

釜山幸町 御料理 鳴戸本店 電話七〇番
釜山驛前 旅館 鳴戸支店 電話三六一番
慶南東萊温泉場 温泉旅館 鳴戸支店 電話特六番

活牛移出問屋 慶南釜山鎭 上杉古太郎 電話長一〇三七番

釜山
ホームリンガ商會
朝鮮興業株式會社支店
大阪商船株式會社支店
釜山共同倉庫株式會社

釜山幸町一丁目 電話八五番 二宮酒店

釜山 清酒釀造 辻酒造株式會社

味噌、醬油、諸漬物問屋 泉屋商店 釜山南濱町一丁目

履物問屋 備福屋本店 內外海陸物産委託問屋 釜山辨天町 電六四〇 振京二四二

薄井商店 釜山辨天町一丁目

清酒春駒 松前醬油醸造部 釜山西町二 電話一五九番

銅鐵雜鑛商 釜山本町三丁目 福田又支店 電話長二〇二番 振替京城四六九番

米雜穀海産物 釜山本町一丁目 小玉商店

釜山郵便局 稻塚英太郎

貿易商 協信洋行 釜山埋立新町

釜山南濱町電話九五〇番 清力釜山支店

釜山幸町一丁目電話五七一番 吉田漆器店

（いろは順）
釜山長手通 飯田呉服店
釜山長手通 濱瀨呉服店
釜山長手通 堀口呉服店
釜山南濱町二丁目 豐田呉服店
同 長手通り 土田呉服店
同 西町一丁目 上田呉服店
同 幸町一丁目 植西呉服店
同 山本呉服店

慶尚農工銀行馬山支店長 濱田隆三

馬山 棚橋精米所

昌原郡守 金泰興

馬山 弘清三

馬山 馬山精米所

こまや 植西呉服店 馬山、龍山、鎭海、統營、釜山

馬山 日賀田平三郎

馬山郵便局長 吉住融

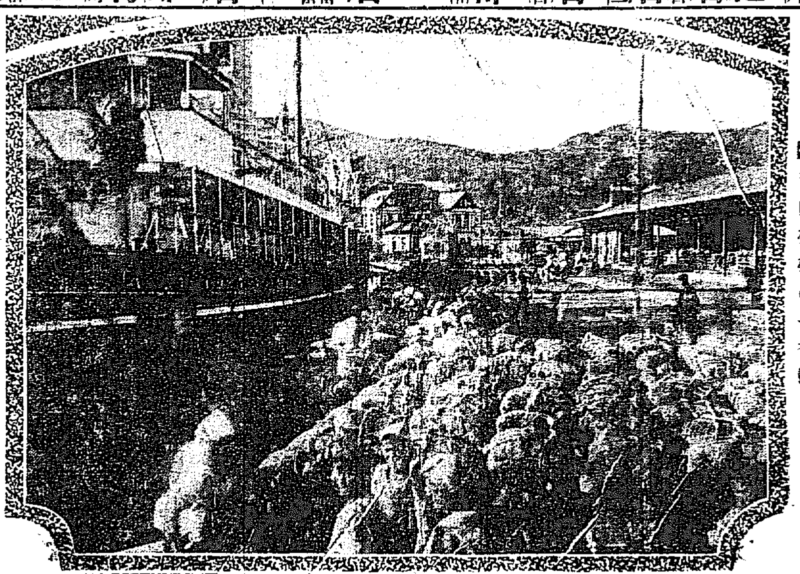
海運業 海産業 馬山本町二丁目 大池馬山出張所 堀田松二郎 電話一二五番 振替京城七八一

慶尚農工銀行統營支店長 伊賀誠一

統營郵便所長 芥川敬三

統營 荻原巖

海産問屋 統營 谷本寅吉



◘釜山棧橋の一部◘

統營製網會社 社長 北野雄三郎

東洋拓殖株式會社 馬山出張所長 參事 都渡千三郎

統營公立尋常高等小學校長 木阪直一

統營公立普通學校長 小宮謙藏

統營 神野勘五郎

久原鑛業株式會社 統營鑛山事務所

釜山地方法院統營支廳 判事 垂水辛吉

統營 鈴樹牛二郎

釜山稅關長 矢野久三郎

釜山稅關 大谷正之助

釜山稅關 市川豊治

釜山港務官 吉村直二郎

朝鮮水産組合長 大原庄太郎

釜山府廳 若松兔三郎

釜山郵便局 志賀良三郎

清酒 醬油 燒酎 釜山鎭 原田釀造場 釜山南濱一丁目 原田支店

慶南東萊温泉場 旅館 蓬萊館 電話五番

釜山 伊藤名合會社 本店 電話三〇七番
同 倉庫部 電話三九八番
同 酒造部 電話六一五番

內外各種肥料 海産物種苗諸蠶具 滿留嘉久商店 釜山港停車場前

釜山富平町 諸機械製造所 西條鐵工所 電話四一二番

客年中は一方ならぬ御厚情引立を蒙り難有御禮申上候 尚本年も不相變御愛顧の程奉願候 敬具

雜貨問屋 近江屋支店 釜山府本町二丁目 電話八〇二番 振替京城一三七

釜山佐藤町 米穀商 山本利吉 電話一九二番

東郷ハガネ特約販賣店 洋鐵 諸鋼 金物商 角野商店 釜山南濱町一丁目 電話三三三番 電略（カ）

商號 釜山幸町 鐵工所 電話二八三番 電略（ヤマイ）又は（イ）

滿朝一正宗 駿東米酢 醸造元 丸金酒造株式會社 釜山富平町一丁目 電話長五二〇番

釜山長手通 丸金家具店 電話一〇六番

釜山西町（陳列館前） 藥劑師 歐洋堂藥局 中井寅吉 電話九五八番 振替京城二二一番

釜山西町一丁目 田中內科醫院 電話四八〇番

釜山幸町二丁目 愛知醫學士 南部醫院 南部省三 電話二七六番

釜山富平町二丁目 入院随意 安村病院 電話五三三番

釜山大廳町一丁目 久保病院 電話二六七番

釜山琴平町 西村病院 電話七九七番

釜山府立病院 職員一同

釜山大廳町一丁目 漥田梧樓法律事務所 電話八三七番

釜山西町二丁目 佐々木清綱 電話七六四番

米雜穀海産物 肥料罐詰製造 原種再製販賣 委託賣買業 合資會社 淡盛商會 釜山本町一丁目 電話長二九番 振替京城一八四番

貿易商 釜山本町三丁目 坂田文吉 坂田材木店 坂田精米所

糖粉直輸入 和洋菓子卸問屋 寺田安太郎商店 釜山辨天町一丁目 電長五〇六番 電略（テ） 振替京城五二一番

旗印石油、赤貝キ、ハツ油 大門票洋臘、三星印石油 ふとん綿中入、綿 卸商 松尾釜山支店 釜山富平町三丁目 電話四三九番 振替京城五八五番

朝鮮公債株式會社 朝鮮營業本部 岩田米橘 釜山、電話七七七番

貿易商 釜山本町二丁目 井谷商店 電話（長）二五番

原蔘再製 釜山南濱町一丁目 許斐釜山支店 電話四一二番 第一工場 絶影島一二番 第二工場 同 一三番

釜山南濱町一丁目 釜山食糧品株式會社 電話四一一番

砂糖、麥粉 素麵、水飴 輸入商 內藤商店 釜山大廳町 電話六九七番 電略ナ又はナイ 京城振替一四六三

諸絲物、羽織紐、組紐 綿、裁縫用品一切 メリヤス雜貨類一式 島田商店 釜山辨天町 電話五七八番 振替京城二九七三

釜山長手通 陶磁器並に土器 山口商店 電話一三七番 振替一九八七番

釜山辨天町 內外雜貨 商小間物 玩具一式 長岡商店 電話八三一番 電略（ナカ）

美術鏡入小間物 內外化粧品 卸小賣 讃岐商會支店 釜山辨天町二丁目 電話六六九番

釜山港 大池回漕部 電話長一三番 電話六七七番

釜山西町一丁目 清酒醬油 福田商店 本店 電話三五五番 支店 電話三〇六番

南滿洲鐵道株式會社京城管理局運輸課釜山派出員 鐵道院囑託西部鐵道管理局運輸課釜山派出所主任 釜山驛長兼草梁驛長事務取扱 岡村正雄

釜山 釜山實習女學校 職員一同

和洋藥種有名賣藥 工業用藥染料各種 洋酒 ミルク 松村博愛堂 釜山大廳町

藥種、賣藥 醫療器械 卸小賣 藥劑師 大矢和光堂 電話六五四番 振替京城三〇四九番

藥種賣藥 卸商 釜山辨天町 大黑南海堂 電話三一七番 同 長四〇五番 振替京城四五六番

新年號 其三

此の大方針に依りて

朝鮮銀行總裁 美濃部俊吉氏談

大正六年に於ける朝鮮銀行の新たな施設と本年の方針、問題が大きくなるので迂濶した事は云へぬが要するに六年の春本行一千萬圓の資本金を二千萬圓に增加した事は特筆に値し、更に相前後して吉林と間島の龍井村と靑島此の三地に支店及び出張所を開いた事を語りたい、併し此の增資並に機關の新設は既に決定せし銀行の方針を實行したのであつて、六年に入り新に目論見を立て其の實現をやつたとは云へない、先づ新規の進出は現政府の方針に遊び興業銀行並に臺灣銀行と合同し及び鮮銀一個として對支對露の投資並に金融關係をつけた事であらう、對支投資と云ふも政治借款は支那政府對四國銀行團の交渉になつてゐて吾々は關知せぬ、これは四國財團に對する日本の代表者として正金銀行がこれに當ることになつて居る鮮銀の關係せるは純然たる經濟借款である、乃ち交通銀行の借款の如きは其の主なもので水害借款や山東省借款や中日實業を通じて紡績事業に貸出しの如き其の二三の例である、而して金融關係の方は久しい以前からの問題であつた滙業銀行の新設に相當力を盡し鮮銀は大株主として其の成立をたさしめた、乃ち支那の財界と鮮銀とは本年に入つて大に接近して來た、對露關係では日露銀行設立の機運を進めるに相當盡力した、此の銀行は時期を見て設立さする事となつてゐる、更に十二月一日からは政府の對滿金融の方針により滿洲の金劵統一を實行し一月一日よりは正金銀行の管掌せし滿洲の國庫事務を讓り受ける事となつた、先づ之等を主なものに數ふべきだらう、大正七年度に於ける鮮銀は此の大方針により否寧ろ從來の大勢に伴ふて進んで行くと申す外はない、新年初頭からは遼陽、鐵嶺、旅順の三店を開設する、又滿洲の活動が一層盛んとなれば爲替決濟の關係より觀るも上海に一店の開設は是非年內に實現させねばなるまい、紐育にも支店と云はない迄も出張所位は開く必要を生ずるであらう、對支並に對露の金融關係は今後も出來得る限り密接に續けて行きたいと考へる、素より鮮滿の財界發展に及ぶ限り努力を致すのは勿論だ、左樣鮮銀も各方面に著しく手を擴げたが、之れは大勢であつて、かう云ふ時代に消極々々で引込み思案のみに耽るのは時勢が許さないのである、朝鮮銀行が强て擴張を圖るのでもなんでもない。

立花第十九師團長試筆

農學校設立企畫

京畿道長官 松永武吉氏談

新面制の實施 去年は面制を實施した、實施したと言つても之れは既に著々其の緒に著いて居たのを法文に明かにした迄の事と云つてもよろしい、只此の面制の實施に伴隨して內地人の面長を認めたと言ふ事は一寸面白い、卽ち京畿道では開城、水原、永登浦に內地人面長を認め、從來の諸種組合、卽ち事業消防組の設備維持、衛生組合、學校組合及び其の權利義務等一切を面に統一し、以つて各種協除的經費に據る團體の廢止を見たのである、而かも內地人面長を認めたと言ふ事は內地人の多數なる地方に於て、鮮人面長は事務の進捗其他の都合上不便を感ずるからと言ふのでなく、鮮人側にも內地人面長が非常に歡迎され氣受がよいからであつた、殊に面長は有給であるけれど、所謂內地に於ける市町村長の如く、名譽職である以上之を面の事業に寄附すると言ふ管內永登浦面長の如きは、面制の理想に最も庶幾いものと言はねばなるまい、孰れにしても地方に於ける事業の緩急要否と地方民の經濟的能力の調和宜しきを得、今後益々地方公益の增進、地方民負擔の輕減を期する事が出來よう

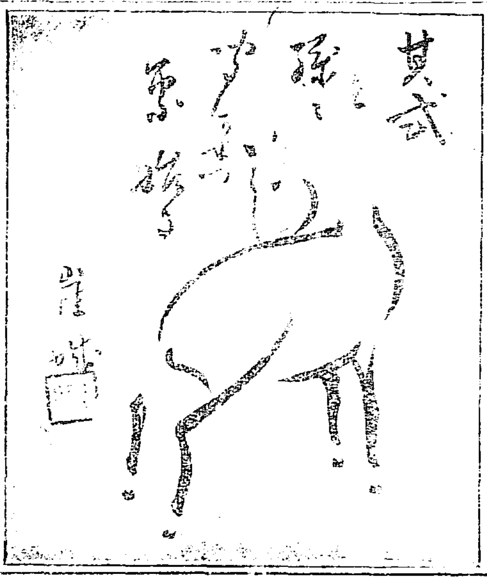
米豆檢查實施 次に米穀檢查を道で施行することになつた之は本道ばかりでなく朝鮮全道一齊に實施を見たのであるが、豫算の關係上一時に充分なる施設を爲す能はず、特に米穀出廻時季等の關係もあり、本事業に對しては往々非難の聲もあつた樣だ、殊に檢查所の數が少ない此處の南大門驛にも檢查所を設いて貰ひ度い等と云ふ人もあつたけれど、南大門驛に米豆の遲滯を見るのは、全く貨物輻輳等の關係に由る輸送力の奈何と言ふ一時的現象に由るもので、敢て意に介する程の問題でもないが、其他出穀多き各驛では從來出張檢查を遣る事に成つて居た之等は本年度に於て檢查所を設置する事が出來るだらう、米穀檢查は手數料を徵收するから其の方でも貼なつて行ける譯だ、穀物檢查の結果合格不合格の相違は直ちに其の價格の上に非常なる影響を見るのであるから、出來得る限り檢查の施設を充分にして公平嚴正を期せねばならぬことは言を俟たない所である。

本年度新施設 以上は最近に於ける施設の一斑であつたが、更に本年度の事業としては豫算の關係上まだ調查中に屬するもの多いけれど、道は昨年度に於て種苗場の名で農事試驗場の設置を爲した、從來此種勸農施設は總督府小原模範場に於て之を實行し來つたものであるが、矢張り一般的に品種改良其他の事業の爲めに、種苗塲設置の必要を認め、稍々同樣の見地から、本年度に於て道轄の農學校が出來る筈である、塲所や何かは目下調查中であるけれど既に其の時機に際會して居るは言ふ迄も無い、其他府の事業としては已に排水下水工事も調查を終るから、本年度は之が實行に著手する運びに至つて居るのである。

多事ならん大正七年

三井物產支店長 高野省三氏談

大正六年の吾が財界は旭日昇天の勢ひを以て進展膨脹すべしと豫期されしに拘はらず後半期に至つて一頓挫を來した、其の頓挫を來さしめたのは列國が戰時の對策として執つた政治外交の影響である、乃ち各國の最も酷く影響を受けたのは米國の禁金措置を主とし米佛各國の各重要貿易品を輸出入禁止若くは制限を行つた事並に政府の船舶管理令物價調節令等であらう、然し今日の如き非常時に於ける列强の施設は當然の如き經濟的のものであつて經濟界が其の被害の影響を避くる事は到底出來ぬ、平和期にでも入つて列强の經濟政策の大方針が確立せぬ限り商事が圓滿に行くべしとは思はれない、要するに大正六年下半期の財界は貿易上の梗塞や內政上の障礙により變調を來したと稱する事が出來やう、然らば大正七年は如何と云ふに其の趨勢を逐ひ益々其の色彩を發揮しはせぬかと思ふ、何故なれば最近巴里に於ける聯合國會議の結果に斯う云ふ一項がある、聯合各國は各自の[illegible]に補給物資の浪費を防ぎ其の輸入を制限し而して其の力を米國の[illegible]輸送に盡さうと云ふのである、此の決議が聯合國の共同計畫に依つて如何なる程度迄實現するか其の實現の程度により今後日本の對外貿易は振否共に甚大の影響を受くるものと覺悟せねばならぬ、更に一面に於ては露國の紛亂せる內政問題あり惹びて單獨講和の聲現に豫想され進で獨軍の西部戰線大軍集中となるの說もあり米國の派兵が幾許の力を致すか之等の問題はドの點より見ても世界の財界に深い關係を及ぼすに相違ない、結局大正七年の吾が財界は非常に多事であらう、各自は十分の注意を拂ひ其の各々の業務に對し最善の努力を盡す外はないと信ずる、朝鮮の事業界も大正六年の上半に於て各種新計畫續出し慥に萌芽はあつたが、財界の變調は其の芽の成長を遲らした、然しこれは朝鮮ばかりでないドコも同じ事である、然し何れにせよ日本の財力は此の戰時の時局により大に膨脹した、その膨脹した財力が對外投資となるか、內國の產業に向くか、植民地の企業資金となるか、ドコに主として擴がるか現に擴がりつゝあるかは輕々に斷ぜられぬが、母國の太つた資金所の供給が植民地たる朝鮮に及んで來る事は多く疑う必要はない、それは時の問題と思ふ、大正七年の朝鮮事業界は悲觀する必要はない、しかし餘り樂觀するも考へものであらう



森安醫學博士試筆

新年文藝

俳句

課題「初東風」

一等

京城府[illegible]洞二七 長出 術花

初東風に並び光るや鍋の雫

二等

京畿道利川邑內 森山 湖陽

初東風を孕む行人の羽織かな

三等

黃海道新溪邑內 細 重哲

初東風に衝突の肩排きたり

平安北道龍岩浦 劍牛

初東風に靡くポプラの枯葉哉

黃海道金川邑內 貴島 紫

何も思はず初東風の門へ入りけり

初東風の馬場賑やかに試乘哉 源花（山口）
初東風の校門くゞる生徒哉 スエ子（平壤）
初東風に閃めく軒の垂氷哉 琴香（京城）
初東風の磯に積まれし稻荷哉 秋月亭（同）
初東風に[illegible]庭の孔雀哉 汀鳳（同）
金屛風に初東風渡る玄關哉 木庵（同）
初東風の空林に歩を移しけり 露村（同）
初東風に[illegible]やまいつゝ 翠村（同）
初東風に玩具の飛行機を飛ばす 梅溪（同）
初東風に靡くる人數かな 竹窓（同）
初東風に潮先き白き入江かな 一雅（同）
初東風に光る一艘の艀かな 湖水（同）
初東風に搖らぐ刀の下緒哉 春晴（同）
初東風や十三道の旗日和 鉄和（同）
初東風に國旗建てたり總督府 湖東（同）
初東風や氷山は旭に輝きて 如紫（同）
初東風に[illegible]廚間哉 紫浪（同）
初東風の街を往來す人馬哉 あきら（同）
初東風や町往く人のかゞやか 月光（仁川）
初東風に灯せる櫓の茶店哉 翠天涯（同）
初東風や馬房に秣刻む音 春子（鐵山）
初東風や綠に咲ける物の影 天雷（龍山）
[illegible]に初東風渡るさもあらぬ 鋒村（同）
初東風す沖や大漁の旗の數 竹雪（同）

謹賀新年 （イロハ順）

京城旭町一丁目 辯護士 大久保雅彦 電話八三九番

京城黃金町一丁目 辯護士 中村時章 電話六三一番

京城仁寺洞 辯護士 安住時太郎 電話一四八二番

京城西小門町 辯護士 朝倉外茂鐵 電話一六二八番

京城三角町 辯護士 木尾虎之助 電話三八五番

謹賀新年

京城府黃金町二丁目 京城石油共同販賣組合 電話二一九四番

組合員 釘本藤次郎 共益社 梶原末太郎 前田悅造 淺海助太郎 鬼頭千藏 福田又支店

支配人 鶴田綱太郎

謹賀新年

□豆粕製造業 □大豆豆粕賣買 小寺洋行 大連製油所 大連大棧橋附近 電話一〇二九 一〇八八番

鐵、鋼、諸金物工業用品 諸機械及附屬品 鑛山土木建築用品 鑛物製作品 各種油、塗料、鑛業穀物類 石炭、紙類、絹絲、綿布、染料、木材セメント、ゴム製品 日本ウール工業（毛布、牛皮フエルト製造）株式會社東洋總代理店 MK 和田商店 京城黃金町三丁目 電話長二六三一番

本所 京城蓬萊町四丁目 中村建築事務所 工學士 中村與資平 電話一九七七番 支所 大連市愛宕町十號地（電話三〇四五番） 奉天新市街照德大街（電話六三八番）

京城若草町 荒井牧場 牛乳販賣所 電話一〇〇四番

東海生命保險相互會社代理店 共同火災保險株式會社代理店 步兵第七十九聯隊御用 騎兵第二十七聯隊御用 野砲兵第二十五聯隊御用 京城衛戍病院御用 龍山元町一丁目 兼古商店 兼古禮藏 電話一四一番

朝鮮總督府主催釀造品評會受賞 ㊁醬油味噌釀造元 醬油味噌酒類用 朝鮮唯一[illegible]發賣元

大正七年の運勢

宗教判斷より見たる午歳の豫言

天明流算術　堀越秀穂

東京神田松住町の堀越秀穂氏は天明流の算術に精通し潮流に關する古考法を以て運勢吉凶禍福を判斷し追日掲載しつゝある本紙の九星判斷も同氏の古考によるものなるが氏は大正六年十二月廿二日冬至午前六時四十六分の潮流より起算して占ひ得たる大正七年の運勢を寄せ來れり、即ち左の如し

大正六年十二月廿二日冬至午前六時四十六分の潮流より起算す

一月　本月は大美の潮流にして人心清麗なれども下流淀みを生じて物の不進を意味す正敷謹で事に當らるべし世外見を飾て實を思ふこと薄し故に親切を專らにせらるべし政治海は賑和敷して美也外交は親善にして商業盛んなり金融は圓滿にして米價は廉く蠶絲綿絲は好況にして株式は未だ高からず

二月　本月は滿潮にして物事善に從て名利の中に於て成就するを主る又榮ることを知て更に辱を知は其全を保つ所なり碧玉光を生じ文章氣有りに人の羨を得ること無涯にして海の如し又女子の婚約を結ぶに順る吉祥なり政治海は滿足にして靜なり金融は寬にして米價安く株式は小高にして蠶絲綿絲は景氣よく大持合ならん

三月　本月は平流にして靜かなる潮流なれば人心融和にして不進不退のことゞも多し玉不琢れば器を成さず心廉かざれば道を成さず諸事精進して事に當らば必ず榮顯の望あり潮流靜かなれば船舶の行路自由に叶ひ輸出多大にして貿易業大いに振ひ政海は優美にして金融は圓滑なり米價は平均を保ち株式は高く蠶絲綿絲は共に好況なり

四月　本月峻流にして百事忙敷して吉なり人の天祿を得て志願成就す營業を創立し身の役を改め門風を改むる等調はずと云ことなし又文士學士の諸氏多くは發第して靑雲の志を得らるべし若き人々の上位の主人取を爲し又人の心潮美なれば永く入り組たる訴訟の和を遂げ久疾の全治を見る等祝に慶賀すべきの月也政海は山河の長流を見るが如く靜なり金融は寬にして株式は高く米價持合蠶絲綿絲は大持合ならん

五月　本月は俺流にして物事阻滯せんとす然れども謹で進めば險に過て險ならず豆を種て豆を得るが如く永く斷絶を

□午歳の藝妓

（右上）花月の太郎（右下）丸家の丸子（中央）富美酒家の光菊（左上）花月の一ッ（左下）丸家の玉子

勤したる手代番頭の諸氏其効を顯し立身出世を爲す又俺流は外見美にして內飽なる義も含めば商品の契約取引に注意せらるべし經營者は精心を勞して反て缺損を招かんとす事業家の諸氏大いに注意して可なり殊に女子は虛榮の誘惑を受んとす萬事長者に計るにあらざれば獨斷を以て事に當るを忌む故に行儀作法を謹み天與の美福を保たるべし茶室盛業盛んにして漁業大いに振ひ金融は閑散米價は上進して株式は高く蠶絲綿絲は頗る行よし

六月　本月は靜美の潮流にして一箸機を先んずる事を要す大いに進むに利有るの月なり人心最美なれば物の成立速にして久敷決せざりし事の解決を爲し一度破れたる事の再圓を計るに妙也又人の天祿豐にして榮爵異轉を主る官海上位の方々自然と榮進の福を得らるべし又兼て再婚を望む諸姉多くは貴緣を結ぶの說有るべし又男を尋き商事盛んにして輸出多大也又水利應用の業大いに振ふ漁業豐富にして政海は賑和米價は騰く金融は無事なり株式蠶絲綿絲は共に好況也

七月　本月は濁流にして物に疑惑が生じ易く油斷成難き月也濁流激して血溺浪を起し辛暴の疾を醸さんとす故に衞生上の注意大切なり各自昏迷して常に不覺を採らんとす謹まざれば損を生ぜん盲動盲啄に事を計らるべし物價は一上一下して不定す政海は無難なり金融は圓備にして米價は安く株式は氣迷にて蠶絲綿絲は取引薄し

八月　本月は融和の潮流にして名利兩立更に阻滯なし貴賤團欒の悅びを啓き福利自ら湧出す潮流美なれば海事盛んにして漁業大に振ふ然れども下流濁りあれば水分に虫害を生ぜんとす農家諸氏大いに注意を要す政海は融和にして輸出最も多し土木鑛業盛んにして參商大利有り金融は圓滿にして米價は高く株式蠶絲綿糸は共に好況なり

九月　本月は大吉の潮流にして各自分に隨て望みを遂ぐ本年中に於ける大吉利の月也文事教育の業大いに進み紳士學士の諸氏宿昔靑雲の志を遂し錦衣郷に殿の榮を得らるべし又人心清美にして恩を報じ義務び法に悖ること無し又病者醫藥の福を得て全癒す農家種苗に緣有り殊に事業家の願資を求むるに妙也養魚牧畜の業利にして海外取引の業大に振ふ誠に慶すべきの月也米價は高く金融は寬し株式は高く蠶絲綿絲は賑れ行よし

十月　本月は急流にして危險を意味する事多し誠に謹みを要する月也各自心下不穩の虞りあれども多く守て固くして物事遲延す商事心勞を費して損失多からんとす大いに注意すべき事也然れども月の十六日より後漸々に靜になりて物事融和す又血潮急激なれば婦人の疾を起さんとす大いに注意せらるべし政海は繁忙にして金融は閑散米價は安く株式は持合蠶絲綿絲は共に高からず

十一月　本月は平流にして諸事進轉して圓德圓滿の月也潮流豐かなれば女子の心中艶美にして貞淑たる淑德を顯し多くは貴緣を綴て鴛鴦諧和の樂みを得らるべし又美術藝術家の諸氏大いに其名を顯し揮て滿足なる結果を得る又定期は景氣よく取引盛なり又潮流豐なれば鯨鯢の大鱗游泳して政治海の一角美にして賑和敷輸出絶大にして金融は寬なり米價は下押し株式は高く蠶絲綿絲は平均を保たん

十二月　本月は合流にして人心清く物事調和を得て福利天祿自ら生じ四民大平を賀じて歡悅極りなし前程順利にして各自其分を盡し國平宗教家の諸氏大に名聲を博す風浪順時にして金穀財寶の享通頗る潤澤なり外交は有利にして輸出業大に振ひ誠に國恩の尊きを拜すべき也政海は美にして金融は圓滿なり米價は騰く株式蠶絲綿絲は上下ありて高し

各人年廻吉凶

一歳 十歳 十九 廿八 三十七
四十六 五十五 六十四 七十三 八十二
右の人々は謹の年にして新事は見合せ吉事は妨なし

三歳 四歳 十二 十三 廿一
廿二 三十 三十一 三十九 四十
四十八 四十九 五十七 五十八 六十六
六十七 七十五 七十六 八十四 八十五
右の人々は大吉にして萬事進で利有

六歳 七歳 十五 十六 廿四
廿五 三十三 三十四 四十二 四十三
五十一 五十二 六十 六十一 六十九
七十 七十八 七十九 八十七 八十八
右の人々は吉にして進で吉

二歳 五歳 八歳 十一 十四
十七 廿 廿三 廿六 廿九
三十二 三十五 三十八 四十一 四十四
四十七 五十 五十三 五十六 五十九
六十二 六十五 六十八 七十一 七十四
七十七 八十 八十三 八十六 八十九
右の人々は平運なれども控目の方吉舊事は妨なし

九歳 十八 二十七 三十六 四十五
五十四 六十三 七十二 八十一 九十
右の人々は謹の年にして新事は見合の方吉舊事は吉

月割の運勢

一月

九歳 十八 廿七 三十六
四十五 五十四 六十三
七十二 八十一 九十
右の人々は謹の月にして新事は見合舊事は吉

二歳 五歳 八歳 十一 十四
十七 廿 廿三 廿六 廿九
三十二 三十五 三十八 四十一 四十四
四十七 五十 五十三 五十六 五十九
六十二 六十五 六十八 七十一 七十四
七十七 八十 八十三 八十六 八十九
右の人々は大吉にして進で利有

三歳 四歳 十二 十三 廿一
廿二 三十 三十一 三十九 四十
四十八 四十九 五十七 五十八 六十六
六十七 七十五 七十六 八十四 八十五
右の人々は吉にして進で吉

六歳 七歳 十五 十六 廿四
廿五 三十三 三十四 四十二 四十三
五十一 五十二 六十 六十一 六十九
七十 七十八 七十九 八十七 八十八
右の人々は謹の月にして新事は控目の方吉舊事は妨けなし

一歳 十歳 十九 廿八 三十七
四十六 五十五 六十四 七十三 八十二
右の人々は謹みを要する月にして控目の方利有

二月

一歳 十歳 十九 廿八 三十七
四十六 五十五 六十四 七十三 八十二
右の人々は大いに謹を要する月なれば新事見合の方吉舊事差支なし

六歳 七歳 九歳 十五 十六
十八 廿四 廿五 廿七 三十三
三十四 三十六 四十二 四十三 四十五
五十一 五十二 五十四 六十 六十一
六十三 六十九 七十 七十二 七十八
七十九 八十一 八十七 八十八 九十
右の人々は大吉の月にて萬進んで利有

二歳 五歳 十一 十四 廿
廿三 廿九 三十二 三十八 四十一
四十七 五十 五十六 五十九 六十五
六十八 七十四 七十七 八十三 八十六
右の人々は平運にて可不可なし控目にして進で吉

三歳 四歳 十二 十三 廿一
廿二 三十 三十一 三十九 四十
四十八 四十九 五十七 五十八 六十六
六十七 七十五 七十六 八十四 八十五
右の人々は謹の月にして新年事合の方吉舊事は妨なし

一歳 十歳 十九 廿八 三十七
四十六 五十五 六十四 七十三 八十二
右の人々は謹を要する月にして控目の方吉舊事は妨げなし

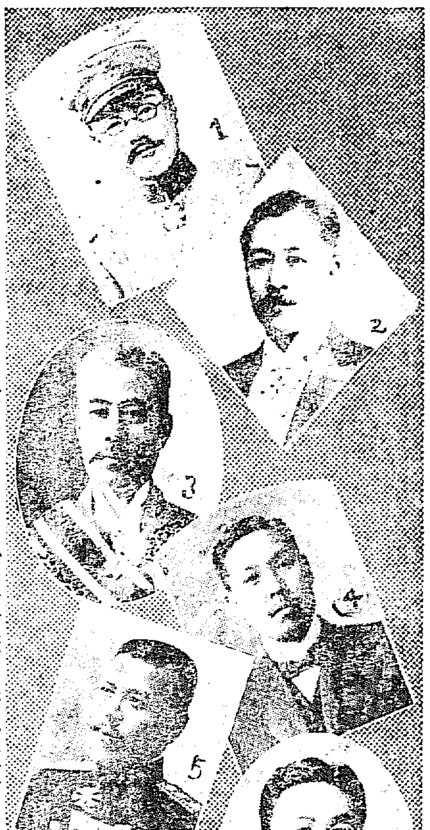
三月

七歳 十六 廿五 三十四
四十三 五十二 六十一 七十
七十九 八十八
右の人々は謹の月新事は見合舊事は吉

一歳 二歳 五歳 六歳 八歳
十 十一 十四 十五 十七
十九 廿 廿三 廿四 廿六
廿八 廿九 三十二 三十三 三十五
三十七 三十八 四十一 四十二 四十四
四十六 四十七 五十 五十一 五十三
五十五 五十六 五十九 六十 六十二
六十四 六十五 六十八 六十九 七十一
七十三 七十四 七十七 七十八 八十
八十二 八十三 八十六 八十七 八十九
右の人々は大吉にして何事も進で利有

三歳 四歳 十二 十三 廿一
廿二 三十 三十一 三十九 四十
四十八 四十九 五十七 五十八 六十六
六十七 七十五 七十六 八十四 八十五
右の人々は平運にして新事は控目の方吉舊事妨げなし

九歳 十八 廿七 三十六 四十五
五十四 六十三 七十二 八十一 九十
右の人々は謹の月にして萬見合の方吉當の事は妨なし



1市川軍參謀長（四九歳）2金谷府尹（六一歳）3渡邊高等法院長（六一歳）4牧山代議士（三九歳）5松寺檢事長（四九歳）6大久保辯護士（四九歳）7工藤平南道長官（四九歳）8服部京城郵便局長（四九歳）9楠山鮮銀理事（四九歳）

午歳生の在鮮名士

六十一歳（安政五年生）

李完用（伯爵中樞院副議長）
閔丙奭（子爵李王職長官）
渡邊暢（高等法院長）
李夏榮（子爵中樞院顧問）
閔泳綺（男爵中樞院顧問）
趙羲聞（黃海道長官）
兪星濬（京畿道參與官）
申應熙（咸鏡南道長官）
永石光吉郎（臨時土地調査局監査官）
金谷充（京城府尹）

四十九歳（明治三年生）

市川堅太郎（駐剳軍參謀長）
松寺竹雄（平壤覆審法院檢事長）
宮木又七
工藤英一
神田啓三郎
末松熊彥
楠本義作
寺尾規知郎
服部米次郎
松尾紐吾
豐田四郎
加藤末郎
廣山直隆
梶原芳樹
西川寅次郎
松隈哲次
大久保雅彥
川本竹

三十七歳

水津信治
石丸優三
和田
熊野惠
吉木彌三
藤沼武夫
木島茂
大庭米三郎
牧山耕藏
田中文藏
古山佐十郎
川崎良太郎

◎新年雜詠　角田不染

元朝や雲をおへる霞さてわれを呼びつゝある心こそすれ。
人さへ血を流がしつゝ世界みあげく春の五年つゞく。
あさましき戰爭てふことさくやめよかしよいのり心さびし。

謹賀新年

謹賀新年
慶尙南道々長官
佐々木藤太郎

謹賀新年
奉天小西關大街
株式會社 南滿銀行
電話日長五二二番日一四番
振替入連一〇二五番
同 新市街派出所
電話五二二番

謹賀新年
風車五反稻麥拔機
多田式製繩機 製造販賣
大阪生命保險代理店
石原商會
京城漢江通六
電話龍山七二六番

謹賀新年
慶尙南道晉州慈惠醫院
甲斐四郎
土橋末雄
小島麟三郎

謹賀新年
龍山停車場前
太陽館本郎
電話一六番

謹賀新年
滿洲奉天
西宮農場
電話五〇三番

謹賀新年
滿洲奉天
勝弘貞次郎
電話二五九番

謹賀新年
京城明治町一の五四
印刷業 糀谷藤郎
電話九一一番
振替京城二四九二番

謹賀新年
晉州旅館組合
望月旅館 電話八番
南江旅館 電話二五番
朝日旅館 電話三七番
花屋旅館 電話一六番

謹賀新年
奉天驛前
西洋御料理 大和軒

賀正
一月元旦
東京落語 春風亭柳窓一座
（落語、手踊、音曲、記憶術、曲藝）
〇年頭三日間は晝夜二回開演〇
浪花館
電話二六〇番

謹賀新年
京城本町二丁目
京城券番
電一八三一・一八三番

謹賀新年
京城南山町一丁目
新檢番一同
電話二二一・二六一番

謹賀新年
京城旭町一丁目
千代本
電話二三五・二七七九番

謹賀新年
貿易商精米業
日東洋行
安東縣市場通り五丁目
電話二七四五六番

謹賀新年
元山
金物商組合

謹賀新年
京城本町一丁目
合資會社 山岸天佑堂
藥品部 電話 三七二番
器械部 電話 長一四番 長一〇〇六番
振替京城二〇三番

謹賀新年
京城本町二丁目（元千代本跡）
會席御料理 梅の家
赤星きみ子
電話七三四番
電話七三五番
▲新年宴會は特に勉强仕候

謹賀新年
靴原料附屬品一式
製本用椅子用革
其他和洋革各種
北村皮革直輸入店
京城南大門通一丁目
電話一八四六
電略〇イ

謹賀新年
京城西大門町一丁目
東西煙草商會
電話一五二九番

謹賀新年
石灰製造業
平井九一郎
長谷川和三郎
濱西傳之丞

謹賀新年
海陸貨物運送取扱
大阪商船株式會社專屬荷客取扱
南滿洲鐵道株式會社貨物取扱
帝國海上運送火災保險株式會社代理店
本店 神戸市榮町三丁目 山口合名會社
大連監部通一丁目 山口合名會社大連支店
山口公司 電話 長三六九番 五二六番 八〇四番 一三二番 一二五番
神戸市榮町三丁目 山口合名會社神戸支店
大阪北區富島町 山口合名會社出張所
支店出張所及取引所
營口 山口出張所
奉天 山口出張所
鐵嶺 山口出張所
開原 山口出張所
四平街 山口出張所
公主嶺 山口出張所
長春 山口支店
窰門 山口荷扱所
哈爾賓 山口出張所
旅順 取引店 川久保洋行
遼陽 取引店 高松運輸公司
撫順 取引店 依田洋行

謹賀新年
株式會社 安東銀行
電話一三番
本溪湖支店
奉天支店
支店所在地
[illegible]市街右堂前街支店
撫順支店

謹賀新年
鴨綠江採木公司
安東縣

謹賀新年
元山 吉田回漕部
同 通關部
同 運送部

元山 朝鮮銀行支店 電話一二番
元山 咸鏡農工銀行
元山 十八銀行支店 電話一八番

謹賀新年
東洋炭鑛株式會社
撫順支店
（滿洲撫順搭連炭鑛）

謹賀新年
雜貨部 綿絲。綿布。砂糖。燐寸。石油 麥粉。紙類。其他滿洲特産物
本店（大連）支店（天津）（大阪）
合資會社 富來洋行 奉天支店
奉天驛前電話長五四八番
自動車部 貸自動車。自動車及附屬品販賣。各種モーター修繕

謹賀新年

材木商 平壤港町 電話長二三六番 富田晋二

村松商店 平壤大和町 電話長二一番

和洋金物商 平壤大和町 長矢野商店 電話七三三番

(K) 荒金運送店 平壤幸町 長電話八四二番

貿易商 平壤館後里 寺庄支店 電話五四五番

平壤旅館組合

蔬炭商 平壤 人見商店 電話四四二番

平壤旭町 岡齒科醫院 電話六一二番

平壤里門里 廣田本店 宣川本町 廣田支店 安州城內 廣田支店

會席御料理 大翠亭 平壤

麥粉菓子製造卸商 井上日韓堂 平壤水上里 電話八二九番

西鮮造林合資會社 平壤八千代町

土木建築請負業 淀川商會 平壤泉町 電話六四一番

漆器商 平壤南門町 野路商店 電話一四七番

平壤府壽町瑞氣通角 竹下齒科醫院 電話八二二番

朝鮮平壤南門町 丁字屋洋服部 電話長二七番 振替京城三五三番

吉見岩吉 平壤

平壤大和町 大塚出張店 電話四八番

內田百花園 平壤停車場通り 電話三一六番

平壤 西鮮硝子製造所 所主 五味幸四郎

鎭南浦法院支廳 依田弘

雜貨商 久田茂樹 京義線安州城內

松月旅館 京義線新安州

福井武次郎 京義線新安州

京城日報販賣店 中尾商店 京義線宣川

萩野輝光 京義線宣川

土木請負 中平岩藏 平壤

海東旅館 京義線宣川

諸金物板硝子 今津商店 京義線宣川

深川吳服店 京義線安州城內

河野支店 京義線安州城內

南浦組 鎭南浦

和洋菓子製造 鎭南浦 平尾商店 電話二〇七番

久保組 鎭南浦

荷物輸送 鎭南浦船舶共立組合

鎭南浦三和通 小西雜貨店 電話一〇五番

御旅館 鎭南浦 浪花館 電話長一四一番

西洋料理 武藏野 平壤櫻町

パン各種 ビスケット ドロップス 木村屋支店 平壤

會席御料理 喜樂 京義線安州城內

朝鮮新義州 足立黑鉛石綿製錬所 所主 足立豐藏

价川輕便鐵道 平安南道价川郡軍隅里

柴田鑛業所 京義線新義州

朝鮮燐寸株式會社 新義州支店

新義州府廳 深川傳次郎 富樫富雄 小山英亮

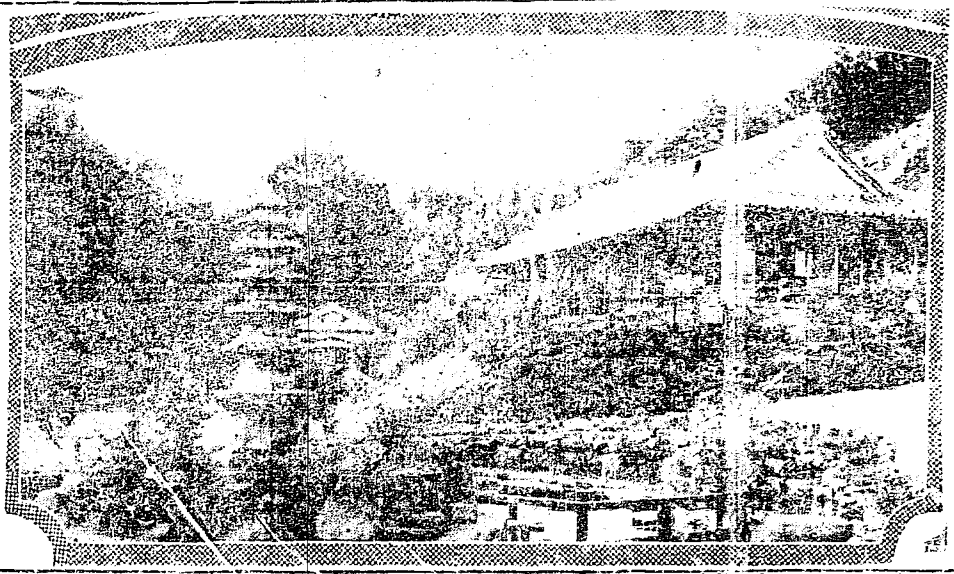
新義州稅關支署 寺尾規矩郎 大館宇三郎 毎熊雄次郎 中村政吉

三共製材所 主任 山田新助 朝鮮新義州

金物火藥鑄造商 岩田商店 平壤留木町 電話長五五二番 電略(イワ) 振替京城四〇五〇番

河村商會 平壤壽町一三六番地

輸入貿易綿糸綿布商 河野支店 平壤大同門通 電話長一一五番 電略(カ又ハカハ) 振替口座京城三四五番



平壤牡丹臺の一部

平壤壽町 松井鑛業所 電話長一三九番

〇日本石油株式會社平壤元賣捌店 〇朝鮮煙草株式會社平壤元賣捌店 日用人絹品雜貨卸商 美馬商會 平壤府錢貫里 電話長四四六番 振替京城三六一五番

森久平壤支店主 貿易商 淺海新太郎 長電話三〇八番

毛織物類 小倉地類 洋服地 裁縫商 平壤旭町二十五番地 遠忠商店 電話三三三番(電略エ)

平安北道慈惠醫院 有馬長次郎 服部三方治

平壤府櫻町 三ツ輪製粉所 所主 岸本彌得治 電話五一五番

撫順炭販賣 平松商店 平壤本町

安州炭鑛 新安州江岸 新安州貯炭場 平壤本町一〇 平壤販賣所 長電六一六番 京城南大門通五ノ一七 岩田商會 長電二六六番

度量衡器 銃砲火藥 免許商 花咲商店 平壤南門通 電話一四三番

太田周二 京義線定州

日之出料理店 京義線新安州

大倉組電氣事務所 京義線新安州

日本坩堝株式會社 新安州出張所

鎭南浦皮革製造所 所主 岡壽太郎

棉糸布雜貨貿易卸商 (八) 鬼頭支店 鎭南浦

鎭南浦府廳 中野太三郎

正木製材所 朝鮮新義州

撫順炭販賣 佐藤商店 朝鮮新義州

和洋雜貨 洋酒洋菓 和洋煙草 渡邊支店 新義州

滿鮮運送株式會社 朝鮮新義州

黑鉛業 小田森太郎 京義線定州

黑鉛業 大枝幹夫 京義線定州

撫順炭 諸雜貨 諸新聞 有門商店 京義線定州

株式會社 桑田本店平壤支店 平壤大和町十七番地 長電話一六三番 一八五一番 振替口座京城四九七番

朝鮮製肥工業株式會社 平壤

貴金屬、寶石類 寫眞器械時計類 織居支店 平壤

奧田洋行 平壤旭町

平壤雜貨商組合 盛昌洋行 八州國屋支店 荒木雜貨店 廣島雜貨店 龜屋支店

平壤魚菜市場

宮川五郎三郎 平壤鏡齋里

平壤醫師會

平壤質屋同業組合

平壤南門町 久保順吉 長電話五七番

漢城鑛業會社電力部 石隈信乃雄 平壤

土木建築請負業 定永鶴吉 平壤

長澤喜代次 朝鮮新義州

(宮) 醬油釀造所 新義州支店

大阪商船株式會社 鎭南浦支店

齊藤精米所 鎭南浦

大日本管株式會社

土木建築請負業 兼二浦 主任 竹中吉之助

土木建築請負業 小川組 主任 小川大吉

戸田商店 黃海道兼二浦

福田質店 黃海道兼二浦

土木建築請負業 五島榮造 鎭南浦

株式會社 平安農工銀行 鎭南浦支店

株式會社 三和銀行 鎭南浦

岡部吳服店 鎭南浦

鎭南浦水產株式會社

藤本醬油釀造所 鎭南浦

朝日館 玉屋 大愛 鎭南浦

諸建築用木材販賣 猪飼商店 黃海道兼二浦

三菱製鐵所職工供給 並に運搬御用達一般 鐵道貨物取扱 千代田組

兼二浦 三菱製鐵所長 梅野實

土木請負業 橋本組 黃海道兼二浦

鎭南浦 富田儀作

西崎鑛業所 鎭南浦

鎭南浦汽船會社

新年號　其四

大正六年朝鮮貿易
總額一億七千五百萬圓＝大正元年に比し幾ど倍額に達せんとす

朝鮮輸移出入貿易は比年著しき增進を告げ昨大正六年に於ては（十二月十五日調査）輸移出七千八百五十八萬餘圓、輸移入九千六百七十萬餘圓、合計一億七千五百廿八萬餘圓に上り之を前年同期に比すれば輸移出二千七百九十一萬餘圓即五割五分、輸移入二千六百四十八萬餘圓即ち三割八分の激增にして之を大正元年の貿易額に比するに殆んど倍額に達せんとする盛況を示せり顧ふに一般物價の昂騰に伴ひ輸移出入品價の其數量に比して增大せることも亦之が一因として數ふべきものなるも然かも朝鮮に於ける各種產業の發達に依る生產增加と企業界の殷盛及び農作物の增收に加ふるに價格騰貴の爲め一般經濟界の好況を現じたる等其要因なるを失はず而して輸移出入貿易の趨勢を見るに其總額に於ては入超九百十一萬餘圓を示し前年の入超を扱くと四百八十二萬餘圓なりと雖右の數字は年初以來氣候の關係、藥品の暴騰及時局の影響を受けて他種鑛物の高價なるが爲に自ら產金量を減じたる等要するに一時的原因に基き移出額の減退したると一方物價の騰貴にも拘はらず一般經濟界の好況に隨て購買力增進の結果尋常なりせば當然減退すべき種類の輸移入品すら却て之が增進を見たるが如き這間寧ろ喜ぶべき趨勢に在るを看取すべし左に月次貿易の狀況を揭ぐ

▲一月　當月の貿易狀況は輸出に於て前年末非常の不足を訴へたる船腹幾分緩和され滯貨の疏通に伴ひ米、大豆及び鑛物等多大の出增に加ふるに輸移入に於て獨逸の講和提議に由りて砂糖、絹絲布類の暴落を告げ從來高値に屈托して仕入れを手控へ居たるもの亦相應の移入を爲したる爲め貿易額著しく增進し輸移出六百十一萬五千三百六圓、輸移入四百六十七萬二千九百五十圓合計一千七十八萬八千二百五十六圓に上り前年同期に比し輸移出百五十九萬五千六百八十六圓、輸移入五十一萬四百三十一圓合計二百十萬六千百十七圓の增加を見たり

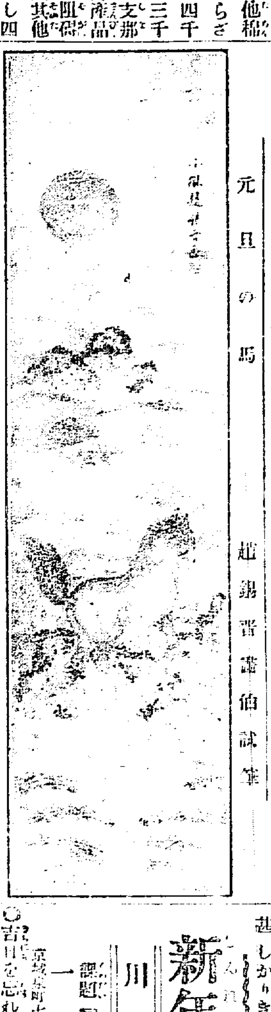
▲二月　米は內地市況軟弱なりし爲め移出振はざりしも滿洲浦鹽向輸出旺盛加ふるに大豆は各地に停滯せし鐵道驛滯貨の當月に入りて殆んど一掃されたる結果是亦移出增加し其他棉花、鑛物、肥料等の出增少からざりし爲め輸移出四百九十六萬四千圓前年同期に比し百七十三萬三千圓の增加を見輸移入に於ては支那價格暴騰の影響を受けて支那產品及び上海中繼の歐米品の輸入阻碍されたるも鐵道機關車、滿洲其他の輸入增加にて前年同期に比し四十八萬七千餘圓の增進を爲せり

▲三月　米は引續き內地向移出不振なりしも浦鹽滿洲方面への輸出好況なりしと大豆、棉花、鑛產物其他の出增に由り輸移出五百九十三萬六千餘圓前年同期に比し二百四萬餘圓の增加にして輸移入は支那麻布、皮革等減退せしも金巾の見越輸入機關車其他の入增に輸移入額七百十萬一千餘圓に上り前年同期に比し百二十四萬七千餘圓の增加を見たり

▲四月　輸移出は鑛產物に於て甲山銅の二十四萬餘圓を增加したる外金鑛、汰鑛及び重石等少からざる減少を來し牛皮も亦十八萬餘圓を減じたるも米は露國向百五十八萬餘圓の激增に加ふるに大豆も內地相場好調の爲め二十九萬餘圓を棉花は移殖品の移出にて二十八萬餘圓を何れも增加し總額六百五十九萬九千餘圓に上り輸移入は絹絲布の見越移入盛んに行はれたると鑛業用諸器械の輸移入額增加せる等を主たる原因として總額九百八十六萬三千餘に達し出入合計は前年同期に比し七百五十二萬二千餘圓の增進なりとす

國分李王職次官試筆

聖恩如雨露
[illegible]衆心歸
[illegible]庭



元旦の馬　趙錫晉謹伯試筆

▲五月　米の露國仕向は相變らず好況なりしも內地移出は市價昂騰せしにも拘はらず不引合の爲め前年同期に比し四十五萬八千餘圓を減じ金鑛及び汰鑛三十二萬餘圓、重石鑛十萬四千餘圓、牛皮十萬六千餘圓、粗銅、銅塊二十四萬餘圓を減じたるも含金銀鑛を增し殊に豆類は內地相場好調にて出荷旺盛約七十萬圓の增進を來し結局輸移出六百十萬二千餘圓、輸移入九百五十八萬四千餘圓に上り前年同期に比し出入合計に於て五百四十八萬七千餘圓を增加せり

▲六月　輸移出は皮革製品、金鑛及び汰鑛、牛皮等減少し米の內地移出も不振なりしも其の露國輸出は數量に於て九千餘石を減せしに拘はらず價額は三十三萬餘圓を增大し大豆相場も依然好調にて輸送の手順亦良好其他人參、繭、含金銀粗銅等鑛產物の移出多くして總額六百十萬九千餘圓に上り輸移入は一般の趨勢と大差無く春來米價高の爲め外國米及び滿洲粟の輸入頗る盛んなりしも尚大勢を動かすに至らず輸移出額八百四十一萬八千餘圓前年同期に比し五百六十三萬餘圓の增進を見たり

▲七月　米は出廻薄不引合を唱へられしも輸移出百八十四萬六千餘圓、同じく朝鮮は其增加味に內地好調の爲め百八十三萬七千餘圓に上り、人參九十六萬餘圓銅塊三十八萬餘圓等輸移出甚だ殷盛にして同時に輸移入にありては米粟は市場の在荷潤澤なる一面麥の收穫と共に賣行不振前月に比し幾分減せしも尚前年同月に比すれば米は二十三萬餘圓、粟は十九萬餘圓を何れも增加し輸移入は綿布類引續き旺盛なるのみならず工業土木建築材料、支那麻布、生皮及び熟皮等の輸移入增加し輸移出總額八百七十萬一千圓、輸移入同七百八十九萬四千圓之を前年同期に比すれば出入合計に於て六百十一萬二千圓の增進を示せり

▲八月　米の浦鹽輸出は露國政府の爲替禁止の爲め既約品の外取引を見ず又哈爾賓及び南滿鐵沿線輸出も不振に陷りたるが內地向は昨年に反して頗る好調なりしを以て結局五十八萬七千餘圓を增加し大豆は內地相場引續き好況なりしのみならず大連相場高唱へなりしより同方面に輸出されたるもありて五十四萬餘圓を增加し且つ鑛產物の移出相變らず旺盛なりしが輸移入は外國米及び滿洲粟共に著しく減退し絹絲布は月初以來價格低落の趨勢を現はすと共に入減晒金巾及び日本木綿は價格昂騰の爲め幾分入增更に諸器械、軌條及び附屬品熟鐵、石炭、セメント等の移入多額に上り輸移出合計六百六十三萬圓輸移入同九百三千六萬七千圓前年同期に比し出入合計五百十九萬一千圓の增加に終れり

▲九月　米は內地市場の軟弱なるに引かへ朝鮮に於ては市場出廻薄の爲め比較的强合の氣配を現はしたるも輸出一萬石を增加す露國向輸出も亦前年と伯仲の間に在り大豆は新穀の出廻りに遲れ移出減況なりしも人參は輸出時期を過ごしたる爲め八十七萬八千圓を減じ皮革界は稍や活氣を帶びたるも在荷薄すの爲め出荷捗々しからず輸移入は米價低落の爲め外米及び粟の輸入著しく減じ綿絲布類も崩落の兆ありて入荷幾分減退したるが際引續き事業界殷盛を極め軌條同附屬品其他の入增を見しのみ當月貨物は各品市價の騰貴と改定運賃の關係上多大の增進を期待されたる輸移出六百四十七萬一千圓輸移入七百九十萬七千圓にして前年同期に比し輸移出二百八萬九千圓入五十萬三千圓の增加に過ぎざるは寧ろ不振に終れりといふ可し

▲十月　米は內地移出出合依然好調ならず一萬六千餘石を減じ露國向及び支那向は增加し差引一萬二千餘石の出增となりしが米價高の爲め價額は六千八萬餘圓の增加を告げ大豆は滿洲產の强硬、北海道產の減收にて移出旺盛豆類、人參、魚類等亦各十三萬圓乃至十八萬圓の增加を見たり輸移入に於て綿絲布は市況見送りの爲め生金巾、綿縮手等の減少を見たるも其他は前月入荷不振の後を承けて概して增加し事業界の盛況と共に價高の爲め軌條、諸器械、石炭等の入增あり總計に於て輸移出七百二十七萬七千圓輸移入九百三十六萬六千圓に上り前年同期に比し出入合計四百九十五萬四千圓の增加を示せり

▲十一月　米は前月來內地相場漸騰を告げしに拘はらず兎角不引合勝なりしが下半月に入りて人氣の軟化と共に移出盛況を呈し結局數量に於ては二萬四千石を減じたるも價額は百七萬三千餘圓の著增栗豆類及び魚類は引續き出荷旺盛大豆は出廻薄の爲め幾分移出減少し鑛產物に在りては銅塊三十三萬餘圓の增進其他黑鉛、重石各八萬餘圓の出增を見しが皮革は著しく減退せり輸移入品價額は綿絲布類諸器械鐵道材料石油絹織物類の激增を告げ輸移出總額九百二十三萬四千餘圓、輸入一千百六十一萬六千餘圓合計二千八十五萬一千餘圓により之を前年同期に比するに合計六百二十二萬七千餘圓の增加なりとす

▲十二月　當月は其前半に於て輸移出四百四十七萬二千圓輸移入五百七十萬九千圓合計一千十八萬二千圓にして之を前年同期に比すれば輸移出に於て九十八萬八千圓、輸移入二百八萬九千圓合計三百八萬七千圓の增加なりとす而して輸移出の概況は米、棉花等を主なるものとし其他鑛產の出增を見しも金銀鑛及び皮革類は著しく減退し輸移入に於ては絹絲、金巾及びシーチング等最も多く增進し絹綿織物、食鹽、生熟皮等の減少甚だしかりき

新年文藝

川柳

課題「吉」

一等

○吉日を忘れぬ內が四海波　京城新町七丁目部力　白樂天 神崎

二等

○元日に生れた子の名吉と付け　京城日出町三二二屋　川崎 二郎

○大吉の神籤引き出す紅葉の手　龍山漢江通十一　天雷 人見 如平

三等

○大吉の籤が出る迄引き直し　平壤　西山 四郎

○洛陽の身に大吉は皮肉なり　京城　江戶 子

○吉例に下戶も盃をもてあまし　仁川湖南町三　宮川 月佳

秀逸

▲大吉のみくじを當てゝ相詰り　京城 奥村稲

▲吉を家に招く病氣ぶり　元山 驛見獣婦

▲吉日が近けりや何かが詰り　龍山 乃美

▲吉例でよばれて酒が又暴れ　仁川 矢谷衣翁

▲吉日の話に聞かぬ振で聞き　平壤 かやの

▲吉報に療病に就いて起き　京城 岡田汀鷗

▲吉日に仲人役に限み過し　慶州 久住松月

▲大吉のおみくじ正月に當り　京城 三平

▲吉日の夫婦喧嘩子なれてあまし　京城 木槌生

▲吉日で賣る大根に穴があき　龍山 今井秀甫

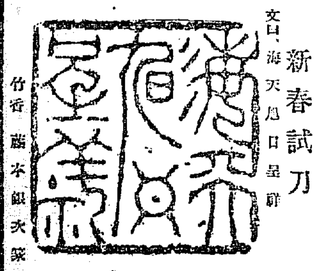
▲末吉さあるた牛玉まだらがり　公州 龜山未刀

▲大吉の御籤侍ソツト買ひ　京城 阿木良

▲吉を抱て堅く財布に仕舞ひ込み　京城 ケチン坊

新春試刀

文曰、海天旭日呈祥



竹香　藤本銀次　篆

謹賀新年

絕世の信用名聲を有する自轉車は
ラーヂ
安心して乘れる精良無比の自轉車は
ケント
京城南大門通三丁目
日米商店京城支店
電話一七四八番

謹賀新年

宮內省御用達
李王職御用達
京城本町一丁目
株式會社明治屋京城支店
電話二二〇・一七二二番

謹賀新年

□內地炭著荷□
門司安州松本商店扱筑豐一等
明治塊炭著荷卸及小賣販賣仕候
斤量正價
京城南大門通五丁目電話二六六番
岩田商會
格確低廉
京城西大門驛前電話一六七九番
岩田商會出張所
朝鮮產經濟的燃料安州炭續々
荷著卸及小口販賣仕候
□安州炭□

謹賀新年

京城旭町一丁目（電話長九五五番）
白上商店營業部
白上商店鑛業部
各種鑛物分析の依賴に應ず

謹賀新年

京城旭町一丁目
建築請負業
山本鑑之進
京城出張所

謹賀新年

京城黃金町一丁目
京南自働車商會
電話一六四〇番
自京城至忠州自水原至驪州市內時間貸

謹賀新年

京城鐘路
井上藥品部
電話長八。八八〇

謹賀新年

農蠶器具機械並種苗肥料
京城南大門通三丁目
戶田春藏商店
電話三八六番

露西亞國民傳説
勇士と馬
イリヤ、ムウロメッツの豪勇譚

新年に因むで露西亞國民傳説中の精華と言はれるイリヤ、ムウロメッツの話を書いて見ませう。イリヤは傳説中の勇士で、常に馬に乗つて露西亞のため正教の爲め惡人等と戰ひつゝ長い間國境を守つて居たと信じられて居ります。イリヤの馬、コサツクの馬。露西亞では馬は常に勇士を乗せてゐます――。昨今の露西亞は恰もこの勇士も馬も居らないのか、惡人等と戰ふべき力と勇氣に缺けて居るかの様であります。けれど、一旦イリヤの様な勇士が彼等の鞍上に立つ時が來たならば再びヴオルガ河に歌ふ時の歌が滿ちる日が有るでありませう。斯くて勇敢な彼等の馬は、露西亞に勇士の現れるのを曠野に驍きなあくして待つてゐるでありませう
――阿木良生――

一

昔 ムウロムと云ふ所に、イワンといふ百姓が住んで居た。長い年月の間、夫婦の中に子供が無かつたが、兩人が白髪になる頃になつて可愛い男の兒が授かつた。兩親は、この赤ん坊の生れた其日が丁度豫言者イリヤの祭日に當つて居たのでイリヤと名づけて慈み育てた。けれど可哀想に此子は生れついての不具であつた可愛いイリヤは足が立たない計りで無く手も使ふ事が出來なかつた二年三年と年は經つても我家の暖爐の上に坐つた儘、樂しくない月日を送りして到頭イリヤは卅歳になつた

或日の事 であつた。兩親は野良仕事に畑へ出て行つた其留守、イリヤは獨り家に殘つて平素の様に暖爐の上に坐つて居た。と、何だか窓の方でコツコツと敲く音がきこへた様であつたのでイリヤは大聲で『誰だね、其處に居る人は、名を言つて呉らつせね』と聲をかけた。すると窓下で『イリヤよ、お前は其處に居たのかい御願いだが早く開けて不具者の私等を入れて呉れまいか』と恁う答へた『不具の小父さん達よ、私には此處から立ち上る事が出來ましねお前様方に戸を開けて上げることも出來ましねだよ。私は生れてから三十年になりやすが其間全き手も足も動かねで坐つてばかり居りやすだ』と暖爐の上からイリヤが答へると又窓下で『立つて御覧、イリヤ、丈夫な足で立つが可い、そして私達を中に入れてお呉れ』と言ふのが聞れた。とイリヤは自分の足が立つのに氣がついた。同時に手も使へる様になつて居た。そこで暖爐から跳び降りると大急ぎで戸を開けて不具者の人々を家の中に案内した。

二

不具者の 人々は家に這入るとまづ聖像の前で十字を切り御酬儀をすると提げて來た袋の中から立派な盃を出してその中に上等な蜜を盛つて呑む様にとイリヤの前に差出した。イリヤはそれを受取ると唯一息に呑乾した。と彼は急に驚く程自分が力持になつた事に氣がついた。それは地面から、天に達く様な柱でも根から引抜ける程の力であつた。老人等は顔を見合せた。そして、も一度高價な蜜の盃が彼の前に差出された。イリヤはこれを呑むと忽ちに先刻の力が半分に減つた事を知つた。其處で不具者達は云つた。『さてこれで充分と云ふものだ、だがお前はこれからロシアの最初の

偉い勇士 となる事に定まつてゐるのだ、お前は戰ふのだ、國を亂す様な惡い奴等には容赦は要らぬ、強い奴等に弱い者虐めをさせてはならぬ、戰ひなされロシヤのために正教のロシヤのために戰ひなされ』『どうしてそねな事が出來ますだ、私には良い馬も戰道具もありましねだよ』『イリヤよ、私達はお主によい知慧を授けて遣らう、明日の朝お主は野原へ出懸るのだ。そこでお前は

馬の初子 を買ふがよい。買つたら、それに白大麥を食はせ聖い泉の水を飲ます様にするがよい。そして三月經つたら其奴を庭に曳き出して明方の霧の中を乗り廻して見るのだ。若し其馬が垣根を前後自在に飛び越ねる様になつたら、其時それに乗つて馬の蹄の向く方へ出懸けるのだ』恁う告げると不具者の旅人達は其儘何處ともなく見ねなくなつて仕舞つた。

三

イリヤは それから兩親の苦しい働きを助けて上げやうと思つて畑へ行つて見た。そして兩親の疲れて身を横へて居る暇に彼等の半年分の仕事を総つて仕舞つたら今は直ぐにでもその野の上に白大麥を蒔く事が出來た。兩親はそれを見て驚ろいたが、それよりもイリヤの丈夫な力強い身になつた事に驚かされた。イリヤは不具の老人達が自分を癒して呉れたことを語り、そして正教の露西亞の爲に我身を捨てゝ戰はねばならぬ命運を語つた。――其翌朝、イリヤは野原に出て見た。そして一人の百姓が市場の方に愚鈍さうな小馬を曳いて行くのを見つけた。

その小馬 は容姿も醜く、毛もムシャクシャとした粗毛で、頗る風彩の舉らない馬であつた。イリヤはそれを百姓の望むが儘に金を取らせて何の掛引もせずに買ひ取つた。恁うして此小馬に水を呑ませてやつたり、撫でいたはつて遣つたりして一心に養ひ初めるのであつた。兎角する中三月は過ぎた。イリヤは三月の間、毎朝曉の霧の下りた庭に此馬を曳き出して草の上に坐らせて見た。すると、どうだらうある朝、此醜い駑馬は不思議な程奇妙な馬に變つた。それは塀でも垣でも何が有らうが構はず飛び越ねて行く様な馬であつた。『さあ、〆た。この馬に乗つて行きさへすれば……』と其處でイリヤは馬を丈夫な轡で飾り、鞍を置き、自ら槍を作り、強い弓矢を持つて、さて祝福を乞ふ爲に兩親の許に行つた。兩親は別れを惜んで泣いたが聽て國のために彼を手放して遣つた。

四

イリヤは まづ最初に不思議な町のチエルニーゴフに行き、其處から南の都のキエフに行かうと思つた、然し彼がチエルニーゴフに近づいた時其町が無數の異教徒の軍の爲に攻圍されて居るのを知つた。彼等は聽て此町を占領し、遂には火を掛けて神の教會を燒き、王を虜に仕やうとしてゐるのであつた、其處でイリヤは不具者の老人達との約束を思ひ出した、でイリヤは雲霞の様に押し寄せてゐる異教徒の軍勢の中へ怖ぢず臆せず馬を乗り出した、さうして槍を以て衝き倒し、打のめし馬の蹄にかけて散々に踏みにじつて戰つた、この様子を見たチエルニーゴフの青年等は

神の救か 見ねた！とばかり喜び勇んで戰ひ續けたので、さしもの大軍も散々に敗けて退却して仕舞つた。非常な榮譽を以てイリヤは歡迎された、王は宮殿の食卓の最上席に著かせ臣下になつて呉れる様にと頼み、將軍にして遣らうと迄言ひ出した。けれどイリヤはこのすべての名譽を辭退した、そして自分がロシアの爲、正教のため永遠に戰はねばならない命運の者である事を語り、唯キエフに行く近路をお示し下さいと願つた

光榮ある 勇士よ、大膽な勇ましい若者よと王は斯様呼びかけて、それから既にその路が三十年の年月杜絶れて居ることで誰もキエフに行くにはわざ／＼迂路をとつて乗り行くこと、その直の近路には、此年月ソロウエイ（盗）と呼ぶ盗賊奴が其呪はれた一族と共に住んで居て、誰一人も此奴の傍を通り抜ける事が出來ない、たとへ灰色の獣でも、黒い鳥でも其處を走り抜ける事も、飛び過ぎると云ふことも出來ない、ソロウエイは常に六本の樫の木の上に坐り込んで居て、鶯の様に鳴く事もあれば、蛇の様にも、野牛の様にも鳴くと云ふことで、如何なる

勇士の駿馬 と雖も此奴の口笛の音を聞いては死んだ様に地上に倒れずに居ることは到底難かしいと云ふ事であると語られた。『王様恭う存じまする』とイリヤは云つた『よくキエフに参る近路をお教へ下さいました。では私はその道をとつて参るで御座りませう、總て、我々が死ぬるも生きるも皆神様の思召に依る事で御座りますから』そうしてイリヤは出發した、王は彼の立去つた後で悲しげに『思へば立派な若者を可愛想な事をした、あの見るから猛々しいあの頸も、もうあの儘にはなつてゐるまい』と言つた。

五

イリマは 近路をとつてどん／＼彼の馬を乗り進めて行つたが丁度名高いスモデン川に指し懸つた時、もう道は其處で行き詰つた様になつて居てもう進む事が不可能に見ねた。で、彼は此進ぎられた様になつてゐる灌木の繁みを彼の馬で一跳びに飛び越ねて行かうとした。其折も折、林の中一體に鶯の鳴聲が響き渡つた、すると此鳴音を合圖に暗い林の木々はバッタリと地に伏して木の葉は枝から散り／＼に摽ね落ちた。然しイリヤはビクともしなかつた。靜かに手にした鞭を上げて

馬を一打 した。そして尚深く乗り入つた。ソロウエイは直ぐ近くで今度は蛇の様に、次には野牛の様な鳴聲を立てた。と思ふとさしも勇敢な彼の、露西亞の駿馬も蹟きでもしたやうに膝を折らうとした。そこでイリヤは彼の強い弓に矢を番へて、どんなに力を籠めて樹の上のソロウエイ目がけて放つたであらう！。其矢は正しく怪物の右眼を射た。ソロウエイは木から湿つた地べたに轉び落ちた。イリヤはこれを鞍に縛りつけて薄暗い深林を乗り過ぎ林をくゞり野を越ねて遂にソロウエイの屋敷に近寄つて來た。ソロウエイの屋敷の廣さは八露里もあつて、周圍には鐵柵をめぐらし、その尖頭には頭蓋を造つて、其上に近路を試して失はれた勇士達の

首を晒し てあるのであつた。ソロウエイの娘達はイリヤの近づいて行くのを遠く見て亦躍つた勇士を縛りつけて父さんが歸つて來たと話合つてゐた。『お前達は盲目になつたのかね』と母親はこの娘達を叱りつけて『あれは勇士がお父さんを縛つて來るんぢやないか、皆、早く集まれ、姉婿さん達を呼んでおいで』と騷ぎ立てた。そして娘達は鳥に姿を變へ姉婿達は猛惡な鷲の形になつてイリヤの頭上に飛びかゝつて來た、けれど鍛へられた彼の矢は丁度輓歌でも歌ふ様にヒユーと音して飛んだ。そして皆其矢に當つて死んだ。そこでイリヤは尚進んで屋敷に乗入り凡向ふものを打碎き薙倒し、馬蹄を以て踏躙り、終には地の中にすり込んで仕舞ふ程であつた。恁様して彼はキエフを指して進んで行つた。

六

榮ある都 キエフでは慈悲深いウラヂーミル王、赤き太陽と呼ばれた王の宮殿に華々しい饗宴が開かれてゐた、その最中チエルニーゴフから立派な青年が、喜ばしい報知を齎らしたと云ふ注進があつた。そこで王は其の青年を此處に案内する様に命じた。その青年はイリヤ、ムウロメッツであつた。彼はチエルニーゴフより近路をとつて來たことを告げた、けれど王はじめ並み居る群臣は、これを信じなかつた。そして彼の騙を責めた。けれどイリヤの

駿馬の鞍 にソロウエイが縛められてあるのを知つては彼を信じなくてはならなかつた、王と群臣とは遂にソロウエイの鳴聲を聞きたいと望んだ、でイリヤは彼に低い聲で鳴いて見せる様に命じた、けれど彼奴は故意に惡心から有丈の力を籠めて、鷲の音を出したと屋根からは瓦が、格子からは硝子がはづれて落ち、諸侯は群臣と共に此上に倒れて死んだ様になつて仕舞つた、そこで、イリヤはソロウエイの惡意を怒つて、屋根の高さまで投げ上げたので、彼は其儘下に落ちて死んで仕舞つた。すると他の一同は漸く我に返る事が出來た。そこで王は彼の傍に寄つて斯様云つた。『誉高き勇士イリヤよ、汝は余の爲に少からぬ功を樹てゝ呉れた、過分に思ふぞよ。余は汝を余の臣下として最も高い席を汝にとらせるであらう』と。

七

光榮輝く イリヤは然しその榮譽を徒らに受けなかつた。彼は再び彼の馬の蹄の向ふ方に進發した、そして彼は廣漠、涯もない曠野の彼方に於て正教のロシアの爲に、或は白眼の怪物と戰ひ、暴長の幽靈を退治したり、亦或時は國境に住む韃靼人に其勇を示したり、亦不具の年寄つた浮浪者に救へられて、キエフに馳せ歸り、性惡のイドリシチエを踏み殺して、ウラヂーミル王を救つたりした。そしていつも榮譽を辭して再び

荒い野原 へ歸つて行くのであつた。『拙者が坐るべき場所は廣い平原の他には御座りません。そして拙者は己が命運を履まねばなりませぬ。神聖なる母國、ロシアの爲に戰はねばなりません。惡逆の敵より、正教の信仰を守らねばなりませぬ』と恁様言つて、其の勇士イリヤ、ムウロメッツは勇敢なるわが露西亞の馬の鞍上に、いつ迄も、永遠にもの様に坐つて國境を守つて居たといふことである。――（をはり）――

此の繪の中に何が有りますか 太郎君と妹の美いちやんとはお父様やお母様から良いものを頂きました。太郎君はお馬を美いちやんは羽子板を頂いて大よろこびです。こんなに兄妹仲よしのお子さんを持つお父さんやお母さんは誠に幸福です。御めでたう―とみ―

面白い馬の傳説
朝鮮の歴史神話
童話から選り出した馬様々の物語

■碁打と愛馬
馬可愛さに勝碁を負けた昔しの朝鮮人

昔朝鮮には陸戸軍と云つて南鮮地方の軍人が京城に來て一年なり半年の間宮城の門番を勤める事があつた。ところが或時一人の陸戸軍が一匹の馬を連れて徳源君と云ふ王族を尋ねて來た。そして馬を賭けて一度

□碁の相手 になりたいと願つた。元々この徳源君といふ人は碁が上手なばかりでなく又非常に好きだつたのだから馬に關係せず兎に角相手になつて打つた。ところが對局の終らない前にその陸戸軍は私が三目負けましたと云つて碁石を置いた。徳源君はジーッと局面を見ると成程陸戸軍は

□三目負け る様な形勢であつた。徳源君は膝を打つて御前は全く碁が旨い今一局やらうと云つた。しかし陸戸軍は今急ぐから此次又來ると云つて馬を置いて往つた。それから半年ばかり經つてその陸戸軍は又訪ねて來た。そして今度は自分が負けたら前のと同じ様な馬を今

□一匹進上 し、もし自分が勝つたら先の馬を取戻すといふ約束で碁が打ちたいと云つた。徳源君は彼のいふ通り約束した。ところが今度は徳源君の方が散々負けた。そこで徳源君は『御前は碁がそれ程上手だのに何故この前は俺に負けたのか』と聞いた。するとその陸戸軍の答へるには『へへ實は私が碁に掛けてはこの

□朝鮮中に 於いて決してヒケは取りませんところが最初あなたに負けたのには譯がございます。といふのは元來私は自分の馬を非常に大事にして居りますが今度陸戸軍になつて京城に上がる様になりまして半年の間は馬を預ける處がなくて

□非常に心配 して居ましたが幸ひあなたは碁が御好きでそして又御金持であらつしやるといふから私があなたの處へ來て馬を賭けて碁を打つたので御座います。そしてワザと負けました。それはつまり私が半年の間宮城の門番の勤めをしてゐる間その馬をあなたに養つて頂きたいと思つたからでございます。然し今はもう役目も濟みましたから自分の愛馬を連れて歸らなければなりません』

■馬と金の卵
これは朝鮮の有名な神話だが昔北扶餘王解扶婁は常に年老いて膝下に一子だに無きを恨んで[illegible]さを[illegible]旅の身となつた。そして山水の景を探ねつゝ利大水といふ處まで往つた時、ふと見ると路傍に一匹の馬が何物か知らぬ[illegible]大きい岩を前にいてしきりに嘶いてゐるのであつた。解扶婁は訝しく思ひ近寄つて見るとそれは大きな金の卵であつた。ハテは珍らしい物だなと思つて中を破つて見やうとしたけれども容易に破れなかつた。そしてこれがもしや牛馬の餌食でないかと思つて牛や馬にやつて見たけれど矢張り牛も馬も食はなかつた。そして解扶婁は兎もそれを暖室に安置して置いた所が幾日か經てその金卵は孵化されて中から玉の様な小供が生れた。それでその子供を金蛙と名付けたがこれが後に東扶餘の始祖になつたといふ話がある

■馬の戀路を
鐵道の敷かれてない朝鮮の山路を行くには矢張りあの少さな朝鮮の駄馬に乗らなければならぬがそれに乗つて往くには一つ心掛けて置かねばならぬ事がある。若し雌馬に乗つて行くと何處からか不意に雄馬が飛出して雌馬に向つて怪しい眞似をしかける事が間々あるさうだ。その時決して馬から降りてはならぬ馬に乗つたまゝ脊上に俯伏をしてその怪しい眞似の濟むまでジーッとしてゐなければならぬ。もし驚いて飛降りやうものなら忽ち噛み殺されるさうだ。

■仔馬の憤死
これは事實談だが或牧場が駿の種を取らうと思つて雄馬と雌馬を合はせた。そうしたところが何うしたものだかその雄馬は何うしても嫌だといふ風に暴れて仕方がなかつたしかし雄馬の種が良いから皆が無理遣りに合はせた、ところがその晩その雄馬は厩から飛出して前の川に往つて身投げをして了つた。後で調べて見るとその雄馬は雌馬の仔であつたさうだ。それで雄馬は義を重じて川に身投げをしたらしかつた。動物の中でも特に馬だけは親族關係が深いといふので朝鮮には『馬四寸を知る』といふ俚言があるさうだ。

賀正

謹賀新年

久原鑛業株式會社
鎮南浦製錬所
京城出張所
京城南山町二丁目電話長二二四番

謹賀新年

三井物産株式會社
京城支店

謹賀新年

藤田鑛業株式會社
朝鮮鑛業事務所
京城旭町一丁目
電話長一五一番

謹賀新年

大正七年元旦

サッポロビール

大日本麦酒株式會社
京城出張所

謹賀新年

仁川仲町三丁目 陶器商 陶榮支店
仁川本町四丁目 陶器商 山口又一
仁川宮町 材木商 井上善四郎
仁川宮町 鐵物商 壽秋兵太郎
仁川濱町(電話三二八番) 土井鐵工所
仁川濱町(電話五一〇番) 木材商 大二商會
仁川松坂町 久野硝子製造所
仁川 新谷慶藏
仁川本町(電話五二四番) 硝子商 八木與一
仁川花房町(電話五三九番) 增井運送店
仁川支那町(電話四九番) 和洋雜貨商 怡泰棧
仁川本町四丁目(電話六五六) 陶器商 日下部支店
仁川本町二丁目 浦崎商店
仁川宮町(電話三二二番) 木材商會
仁川本町(電話七二九番) 綿布砂糖麥粉商 森文治郎
仁川宮町 橋本靴店
仁川海岸町(電話六一〇番) 海産物商 小川梅藏
仁川 岡本保誠
仁川本町四丁目 太田與吉
仁川本町二丁目電話二七五番 測量及代書業 藤井八重藏
仁川本町(電話四〇〇番) 和洋雜貨商 大石季吉
仁川水道事務所 所員一同
仁川 諏訪禮次郎
仁川宮町(電話四三四番) 白鹿特約店 Ⓢ 岡島商店
仁川新町(取次電話三〇〇番) うどんそば 龜屋
仁川新町(電話五四〇番) 化粧品小間物商 吉岩見屋
仁川 王成鴻
仁川新町(電話三五六番) 履物商 はりまや
仁川本町四丁目 金物商 田中五郎吉
仁川新町 鶴屋菓子舖
仁川新町 茶商 松谷支店
仁川海岸町 東洋庵
仁川濱町 石炭商 林田支店

仁川宮町(電話八一五) 米穀土管商 松本要五郎
仁川花町(電話七一三) 醬油 三巴釀造場
仁川 伊東清七郎
仁川新町(電話四四四) 紙商 野田戸吉
仁川本町(電話二五九番) 酒醬油商 田中作二
仁川本町 諸車製造請負業 大林宇三郎
仁川海岸町 諸車製造請負業 仁川濱町(電話二三八番) 川崎甚助
仁川鐵工所
仁川寺町(電話四一八番) 産婆 芝モト
仁川海岸町(電話八〇七番) 漁具一切 池米漁具店
仁川新町(電話六一九番) 金時足袋商 坂田支店
仁川本町(電話六三二番) 玩具小間物商 清水商店
仁川仲町(電話五四六番) メリヤス商 八幡出張所
仁川本町(電話六一五番) 內海淑郎
仁川荷物市場電話四一九番 海産物商 乾 若林商店
仁川新町電話三〇〇番 天井辰次郎
仁川內里(電話二五八番) 山中魚店
仁川內里(電話二二六番) 本莊酒店
仁川本町(電話二三四番) 藥種商 北島藥店
仁川 渡邊岩治
仁川 井伊睹一郎
仁川花房町(電話六三〇番) 中條運送店
仁川本町(電話六〇五番) 增田定吉
仁川 市橋力
仁川濱町(電話四一二番) 石灰セメント左官材料 加賀田商店
仁川本町電話三四八番 稅關貨物取扱 山田平作
仁川本町電話七一四番 一心組
仁川萬石町 請負業 沼波石松
仁川龍里(電話三二六番) 製粉業 福西良之助
仁川本町(電話七八番) 小間物雜貨商 安保富藏
仁川宮町(電話二五五番) 御料理 食道樂
仁川 上田文次郎
仁川宮町(電話七〇九番) 茶鰹節 青島清一

◁仁川醫師會▷

(いろは順)

井飯井小高鶴能久松高淺荒天佐佐射工藤
上塚水倉木田沼木本田 井川長藤藤瀬生瀬
若 田要珠 小
藤西柳御助秀太直太理 益正親五主 一伴
吉郎軒助市德郎熊郎八藏三雄大郎一德大二

海産物魚類仲買酒醬製造商 仁川仲町三丁目(電話四〇二番) み 山口紋太郎
仁川松坂町三丁目 朝鮮洋蠟製造場 電話二二四番
仁川本町三丁目 海産物貿易商 平井商會 電話七二六番
仁川本町四丁目 和洋雜貨商 南方竹次郎 電話一六六番
仁川支那町(電話八一九番) 石炭部 村谷吉藏商店

仁川松函石油組合

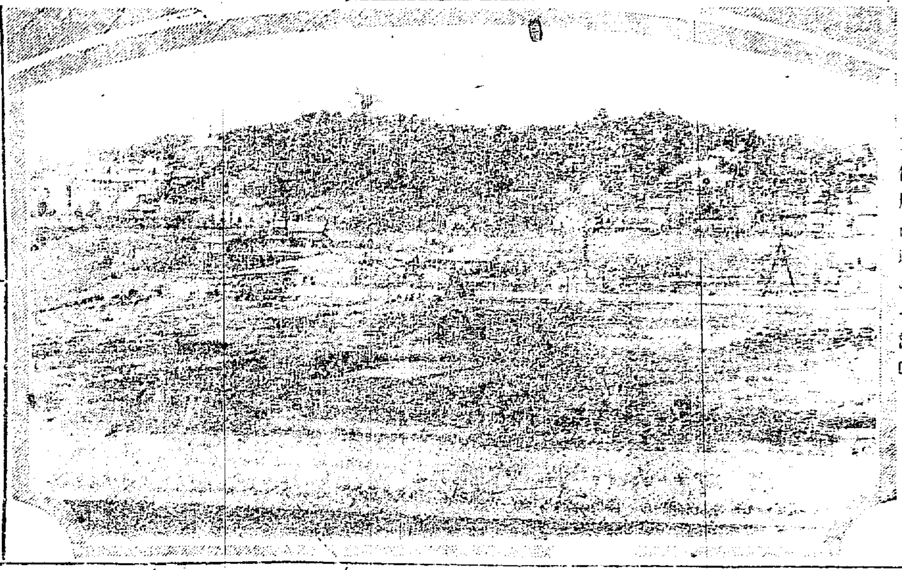
河野竹本店(順次不同)
井上商店
鈴木商店
鬼頭商店
赤松商店

仁川宮町 米穀商 森田清允 電話八五六番
仁川新町 醬油商 高雄支店 電話二六七番
仁川濱町 紵谷鐵工所 電話六五八番
仁川萬石町 請負業 佐藤義亭 電話四四五番
仁川本町三丁目 酒商 增本茂三郎 電話一〇九番
仁川外里 日鮮人向雜貨卸商 玉植商店 電話六五一番

仁川金物船具業組合

仁川本町三丁目 德本商店 電話長四二七振替京城三六四番
仁川海岸町一丁目 加來商店 電話長七番 振替京城三六〇番
仁川本町一丁目 村谷本店 電話長五六番 振替京城五九番
仁川本町一丁目 村谷勘一商店 電話長二〇番振替京城六一番
仁川新町一丁目 美濃谷商店 電話長一八番振替京城八三番
仁川本町四丁目 白神洋行 電話長一二六振替京城九二番

仁川各宗寺院 佛教聯合會
仁川 櫻井小一
仁川吳服商 組合一同
仁川教育俱樂部 俱樂部員一同
仁川本町 輸移入卸商 鈴木倭商店 仁川長電話一二番 振替京城二三一三番



仁川市街の一部(圖)

仁川 楠野俊成
仁川山手町 今田鑛業所 電話七二五番
仁川本町一丁目 中華樓 電話四一五番
仁川本町 貿易酒造商 吉金喜三郎 電話七六四番
仁川本町 井上藤吉 電話八六番
仁川山手町 飯塚齒科醫院 電話三五〇番

仁川山手町電話長六〇八番 奧田精米所
仁川海岸町電話七〇五番 奧田精米所濱出張所
仁川宮町 米穀貿易商 鳥居商行 電話長六三四番
仁川水産會社 電話二八六番
仁川宮町 履物商 村上貞市 電話六一二番
仁川本町 和洋雜貨家具砲銃商 藤本商店 電話四〇番

仁川 後藤運平
喪中年始失禮 仁川本町 河野求馬
仁川新町 和洋酒商 河井酒店 電話三一五番
專賣課朱安出張所 所員一同

馬場精米所
朝鮮物産會社
力武精米所
加來精米所
辻川精米所
與田精米所
不二商業會社
大日精米所
濟物精米所
森田精米所

仁川海岸町一丁目 高杉昇商店貿易部
仁川海岸町 高杉昇商店回漕部 電話五九番
仁川萬石町 高杉醬油釀造場 電話七六五番
仁川穀物協會 會員一同
阿波國共同汽船會社 本社 德島縣德島市 出張所 大連市監部通り 代理店 安東、仁川、元山、城津、清津、浦鹽斯德
仁川府萬石町 仁川製鹽所 電話三三九番
仁川府內里 濟物精米所 電話八二〇番
大阪商船會社 仁川支店 支店一同
京城電氣會社 仁川支店一同 電話三二四番
果物皮島産物御販賣肥料販賣 山野井倉次 仁川桃山町
◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 仁川銀行組合 一同 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇

仁川 原金旅館 花屋旅館 東郷旅館 山口旅館 菊屋旅館
仁川府本町三丁目 合名會社 鈴木商店 仁川出張所 電話長八三番
仁川本町二丁目 慶田組 電話四二番
仁川濱町 土木請負業 稻田組 電話四一番
內國通運會社 仁川出張所 電話二八番
仁川海岸町 堀回漕部 堀塩業部
仁川本町二丁目 米穀商 平山松太郎 電話一五三番
仁川仲町 大和組 電話五三八番
仁川本町 福島組 電話五三五番
會席御料理 仁川新町 奴亭本店 電話三三〇番
仁川敷島遊廓 組合一同
仁川通關組合員 一同
會席御料理 うろこ 仁川山手町二丁目 電話六八番
會席御料理 西洋御料理 朝日樓 仁川仲町電話五三番 仁川ホテル 電話五二一番
仁川運送組合員 一同
會席御料理 榮亭 仁川宮町 電話四二九番

仁川本町四丁目 朝鮮燐寸株式會社 電話百五十二番

仁川港本町四丁目 千鳥正宗仁川支店 店主 宮田宗二郎 電話三五九番 振替京城一八七番

不二商業會社仁川支店 電話六五二番

仁川米豆取引所 電話一四番

仁川米豆取引所仲買人 (順次不同)

一ノ組
淺松太郎 電長一四一〇、二二三
田中金兵衛 電話長一五二番長六二八番
高田仲買店 電話長一〇〇番長一九番
仲買店 電話長二八三番。二八二番

二ノ組
今村覺次郎 電話三六八番。三三七番
仲買店 電話三九番
仲買店 電話三六九番。三六七番
仲買店 電話一五九番。七二〇番

三ノ組
荒木助太郎 電話長二八五番。二六二番
廣澤正次郎 電長六三〇、六五番。一六〇
仲買店 電三〇九。九一二。自宅六〇一
仲買店 電話長九〇五番。八三三番

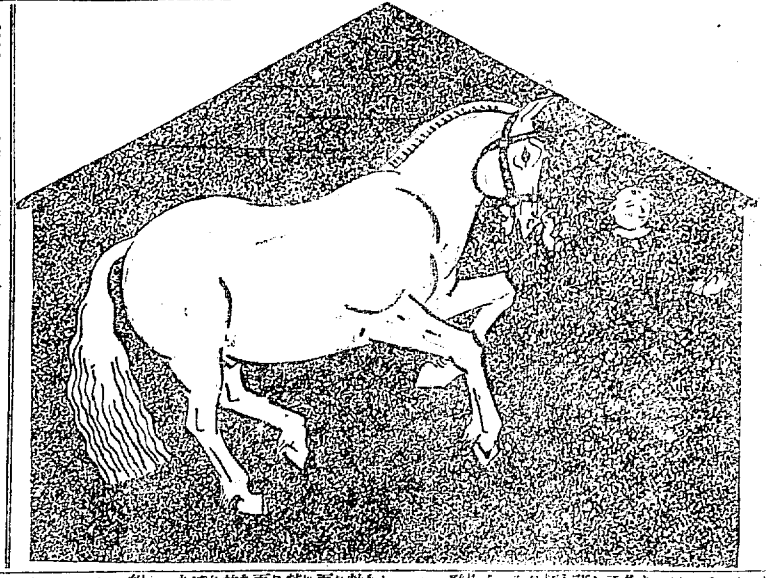
新年號 其五

吉長鐵道と鞍山製鐵
今年度に於ける滿鐵の主要事業
滿洲鐵道株式會社理事 國澤新兵衛氏談

大正七年度に於ける滿鐵會社の主要事業は少からずと雖も吉長鐵道の經營及び鞍山站製鐵工場の建設は其の主要なるものなり吉長鐵道は大正七年一月より改訂借款の條件に由り同線營業の委託を受け滿鐵會社より運輸會計工務の三主任を選任し各業務の主任とし其の內一名の主任を以て滿鐵會社を代表せしむる事となり居れるが既に夫れ〴〵任命を了し運輸主任を以て滿鐵會社を代表せしめ其の權利義務を施行せしむる事に決せり主任以下の邦人職員は會社代表の運輸主任と支那政府任命の吉長鐵道局長との間に協議の上夫れ〴〵採擇任命せらるゝ譯なり營業開始後の成績は幾多の實務改善と共に之れを將來に期し割合に長年月を經ずして可成の好成績を擧げ得べしと確信す、鞍山站製鐵工場は七年度中に竣工製鐵を開始すべきも未だ製品の種類に就きては決定し居らざるも諸設備完成し製品に著手の曉には一箇年八十萬噸の割合を以て製出す該工場は鐵石及び石灰石を中日合辦振興無限公司をして供給せしむる契約の下に立山驛附近に經營し將來一箇年銑鐵百萬噸製出する計畫を爲し之れに要する土地三百六十餘萬坪を買收し第一期計畫として熔鑛爐二基を以て銑鐵年額十五萬噸を製出し之れに屑鐵、銑鐵又は屑鐵を補足して一箇年製品約十五萬噸を製出せんとする計畫なり之れに關する設備の完成は大正九年度を以て工を竣る豫定なり其の製品に就ては目下調究中なり猶滿鐵に於ける硫酸安母尼亞は製造工場設立當初より製品を海外殊に南洋方面に輸出するの計畫を以て著手せるが頃者政府は內地同樣に當會社所產の硫酸安母尼亞に對しても海外輸出の禁止令を適用せんと計畫せる模樣なるを以て會社は政府に對し事情を開申する處ありたり政府は會社所產の硫酸安母尼亞を內地に移入せんとする計畫なる如きも海外販路を放擲して一時を救はんとするが如きは徒らに後日に遺すものにして世界平和克復後俄に海外販路を求めんとするも歐洲先進國との競爭等より容易に販路の擴張を爲す事能はざるを以て會社所產の硫安禁輸に就きては當局者の一考を要望する所なり

殖民地の發展は第一歩
通信機關の普及に期すべし
＝殖民地と母國との圓滑なる連絡＝
＝他居住の念を排除せざる可らず＝
關東都督府通信管理局長 加藤順次郎氏談

民族集團移住の時代を過ぎ土著生活の時代に入りては人類は既に著しく通信の必要を感じ既にして各部族の闘爭時代に入りては軍事通信の方法さへ案出せられ長足の進步發達を爲し近世世界文化の傳播は殆ど通信の力に由る事を承認せざるべからず近代に於ける通信機關の進步發達は改めて之れを說くの要なく世界は一刻の間も通信機關の休止を許さざるに至り其の大は世界的なれど其の起源に觀れば言語と同じく人情の要求する機微に發露したるものにして之れ殖民地と母國とを連絡する通信事業に於て特に通信起源の心理を解得する事を得べし殊に支那內地の如き通信機關の不完全なる地に在ては移住者は一層に通信機關の設置を要望して止まず一面之等移住者の生命財產保護の上より見るも自國の通信機關の設置の必要なる事亦絮說を須ひざる處なり支那は近來國權恢復を主張すると共に自國の郵政改善に腐心し中支南支地方に於ては既設の諸外國郵便局の撤廢を迫り居る程なるを以て滿蒙の地は我國の特別勢圏なりと稱すると雖も通信行政に關しては今に至りて列國協定の範圍を出づる能はずして滿鐵附屬地內に局限せられつゝあり、然れども支那郵便局に在りては其取扱ひ近來大に改善せられたりと雖も猶ほ一般に不確實なるを免れず且つ爲替貯金を取扱はず露國郵便局に出らんとせば郵便物宛名の記載困難なると料金の高率なる事貯金の取扱を爲さず爲替の困難なるに殊に近來の如き狀態に在りては到底之に信を措きて通信を託する能はざるは勿論なり斯くの如く通信機關の不完全なる滿蒙地方に在りて多數邦人をして安心土著して居住營業せしめんとせば最も通信機關の普及活動を期せざるべからず即ち現在の關係に於ては專ら露支兩國の郵政を誘導刺戟し是と連絡作業を圓滿敏活ならしめ我及ばざる所は彼を以て補ふの外なしと雖も此方法によりて所期の目的を達せんとは前途遼遠なりと謂ふべし之れ吾人が此間に於て苦心畫策怠らざる所なり



赤兎馬 在大邱 鶴田櫟村畵伯筆

原生動物
三葉蟲化石
◇數億年前に生存して居た奇怪な形態の動物◇

『地球の成生』『原生動物』『原人の生活』之等は常に私の好奇心をそゝり立てたり、無限の想像を逞しうせしむる言葉であつた。大連を距る三十五哩の北に當る三十里堡驛附近に原生動物三葉蟲の化石が多く存在すると聞き僕は採集を思ひ立つた。三十里堡驛の助役飯島資五氏が案内に先立つてくれ手は石割槌と

◇小さな鑿 を提げて其の後に隨つた。冬の日は近かくの泥海に落ちやうとして枯れた白楊の樹の背後から弱い光をキラ〳〵と見せて居る。驛の北の方の淋しい支流に沿つて登りつめた處に小さな楢の木が一本寒むそうに立つて居るだら〳〵阪に上ると其處から又西南の方へ遠く平野が續いて地平線にこびり付いて居るやうな村落が見へる。阪を下りた處に餘り深くない地隙が長く村落の方に向つて續いて居る。

◇『化石は此の邊に在る筈だ』と飯島君は地隙の中に降りて行く、私も其の後から續いて地隙に這入つた地隙の兩側は古生代の寒武利亞系に屬する紫褐色の水成泥板岩がザラ〳〵と分解して居る二人は頻りに附近の岩を打ち崩して見たがそれらしい化石を發見する事が能きなかつた、それから半町ばかり地隙に沿うて下ると其處はいま一つの地隙が來て支流になつて居る處で可成に周圍は開けて居た、私共は其處で二つ三つ岩を掘つて見ると直に奇怪なる形態を持つて居る

◇三葉蟲化石 を發見した

三葉蟲の形は恰も蟬の脫け殼の如うな格好をして居るが何處が口か鼻か眼か一向見分が付かぬ身長と同じ位の長さの觸だか眉だかが正しく左右に垂れて居る。瓦斯體なりし地球が漸く冷却して其の表面に水を生ずるに至り老遠志亞紀、[illegible]亞紀等の太古代を經て古生代に入り[illegible]寒武利亞紀に當り寒武利亞系の[illegible]陸生の植物發生して少なく藻の類の植物が僅かに泥水中に生じたるが

◇此の時代に 於て原生動物三葉蟲族現はれ志留利亞紀に至りて甚だしく繁殖せりと傳へられて居る。三葉蟲の化石と共に私達は之と同時代に生存したりと思しき螺形を爲したる奇なる小蟲の化石を無數に發掘した猶此の時代の海草類及び環蟲類、頭足類、腕足類等の古生代の動物植物の化石もあり海百合の類かと思はれるやうな古生代の下等植物の化石をも發見した。

◇燃ゆる地球 の表面に僅かに皮殼を蔽ふたばかりのやうな熱い泥海の中に生れ、幾億年後の吾々と同じく呼吸し生存し生殖を營んで居つた、動物の元祖つまり吾等の祖先はこの蟲であつたかと其の化石を取り上げて見れば、久遠なる時の流れの岸に立つて其の源の無限の光と無限の闇とに追想して、ほのかに

◇小さき智慧 と命ちに思ひせまつては私は頭を抱いて倒れやうとさへした。暮るゝに早き冬の日は小山の西の海に入つて白陽の色であつた。採集した澤山の化石を片手に提げて猶も地球成生のめぐる支那部落のあたりは既に夜の太古、動物發生の古生時代の寶甚を心に描きつゝ夜に入つて三十里堡驛に著いた(原村長城生)

文曰 皇風無邊

謹賀新年
京城南山町二丁目
山口太兵衛
電話七六二番

謹賀新年
旅行中に付年賀缺禮以紙上御祝詞申上候
京城黃金町四の一〇
高麗人蔘製劑所
佐々木英萬
電話二五九九番

謹賀新年
新年宴會の好適所
鮮魚料理
清香園
北村清太郎
京城本町二丁目・電話三六番

謹賀新年
京城本町一丁目
金物商 佐野彥藏
電話一六三番 振替京城二二〇番
▲千代田火災保險株式會社代理店▲
▲千代田生命保險相互會社代理店▲

謹賀新年
專賣特許宮崎式ペーチカ築設專門
宮崎組
宮崎吉太郎

謹賀新年
一味の素朝鮮代理店
日用食料品問屋
辻本商店
電話七五番 六四一番
振替京城三八番

謹賀新年
新龍山商友會
陸軍御用達 石見堂菓子舖
龍山柳町(電話三二一番)
香椎雜貨店
龍山京町(電話四〇五番)
灘屋酒店
龍山京町(電話三三一番)
佐藤衣服店
龍山漢江通三(電話三六番)
廣島屋號支店
龍山京町(電話四三九番)

謹賀新年
內外洋紙商並印刷材料
近澤洋紙店
京城長谷川町
電話二七五番 長電話四八八番
振替京城二二五三番
電略(又ハ)チカ

謹賀新年
新年宴會は特に御便利に相働き申べく候
京城旭町一丁目
割烹 靜陽軒
電話一〇四三番 電話三〇七〇番

謹賀新年
撫順石炭特約販賣
官煙無煙煉炭販賣
各種石炭特約販賣
近藤商店 近藤謙助
京城義州通一丁目
電話八三五番

謹賀新年
鑛山用諸機械
各種ポンプ並に採鑛用具
土工建築材料
トンプベルト一手販賣元
京城南大門通
京倉商會
電話二九四〇番

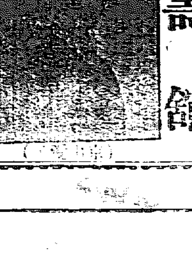
謹賀新年
全羅南道光州
株式會社光州農工銀行
○榮山浦支店○筏橋支店
○木浦支店○濟州島支店
○麗水支店

謹賀新年
京城本町二丁目
日之出商行
電話九五六番
京城明治町本町角
同支店小賣部

謹賀新年
撫順炭特約販賣
各種石炭
麻袋、朝鮮白米
委托販賣業
長春新市街
松茂洋行
電話長四二番 貯炭場電話五三七番
双城堡 同分行 電話六八番
哈爾賓埠頭ハルゴワヤ街 同分行 電話七一四番

謹賀新年
京城本町二丁目
京城競賣株式會社
電話七八四番

謹賀新年
長春市內馬車運搬
長春各地間馬車運搬
長春附屬地東四區一號地
長春運輸株式會社
電話 四八五番 六六五番

謹賀新年
京城本町二丁目
電話一〇五〇番
壽館
新年は御目出度く尙此の後も久しく御愛顧の程伏て奉願上候


謹賀新年
(順はろい)
京城南大門通三丁目 電話六三二、一四〇六 今村精米所
京城南米倉町 電話長一二四、八三一 龍山精米所
京城岡崎町三丁目 電話長一二一八 待井精米所
京城蓬萊町一丁目 電話一三四九 長三一四三 天日精米所

謹賀新年
京城本町二丁目
花月
電話五七、三三〇

謹賀新年
京城水標町
松田自働車部 電話二二三八番
松田壽男
松田英語通譯部
松田郵便逓送部
松田貨物運送部
松田寫眞部
江原道寧川市本町通(寧川電話四八番)

伯樂から大名 出世の加藤嘉明

猫遊軒伯知講演
浪上義三郎速記

本年は午歳でございます、其干支に因み伯樂より身を起して奥州會津若松の城主となり四十萬石を頷しました加藤孫六嘉明の逸話を申し上げます、此人の父は德川家康公に仕へた加藤三之丞教明と云ふ三州土呂針崎において一向宗の門徒が一揆を起し領主家康公に反抗いたした、時は永祿の五年此時德川の家來も大分門徒に從ひ主人に弓を引いた者もある、三之丞教明も此門徒に加はりまして戰をした敗れて後越前國敦賀の在長崎村の知邊を便り此に閑居いたした、翌年一子を擧げ此が男子で孫六と命名した、此者五歳の時に母に別れ父の手一つにて養育される、と十一歳の時に父が大病、或日孫六が孫『お父上、今日は御氣分は如何でございます』三『イヤ、モウ俺も長くはあるまい、就いては命ある内に其方に申し殘す事がある、それは何んであると申すに豫て申し聞けた如く俺は德川公に仕へた者だ、一向宗の亂の時に不忠の御主君に敵對いたしたその天罰にて一生埋れ木となつて此處に朽果る、それにしても不憫なのは其方、親の不忠の惡報にて何も知らぬ其方まで苦勞いたす、俺が死した後は兎も角も身を堅固に成長いたし加藤の家名を再興いたせ又其方には伯父、俺が爲には肉身の弟榊兵衞彼の一向宗の亂の節俺と共々に浪人いたして今は何れに居るかその後一度も消息がない、命あらば此方も再會いたす事もあらう彼の行衞を尋ねて面會いたしその身の方向を定めよ、最早此にて申し遺す事はない』と云ひ苦しき息を吐いて孫六の侑める藥を一口飮みましたが間もなく絶命いたす、名主又は懇意な者が集つて葬式を營む、四十九日の過つて後孫六は名主の許に引取られて小僧代りに使はれる、元より父は長の浪人、財産なぞはございません、それゆゑ名主三右衞門の許で働き、それに依つて衣食を得るより他に策はない、處が後年天下に名をなす者、自から常人と異なつたところがある、暇を見ては讀書をいたし又馬を曳出して此へ乘つて馭法を研究する裸馬で稽古した、却つて此方が實地の修練になると孫六が十六の秋の末城下に用達があつてそれへ參つた歸りがけ町外れまで來ると今日は馬市で大層此邊が雜沓して居ろ、その時分は日本が亂て居りましたから軍馬の需要が多い、諸國に馬市があつたもの、今町外れまで參ると小屋が出來て居りましてそれへ四分板で長濱の彌兵衞と書いた札が立てあつてその前に馬が一頭繫いである、小屋の内には六十二になる赭顏のデップリと肥つた目の大きい口の大きな鼻のツンと高い痘痕のある老爺が大縞の廣袖を着てデロ〳〵表を見て居るそれへ立つた孫六が頻に馬に目を付けて居たが孫『良い馬だな、何うだ此毛色は天鵞絨のやうだ、オイ其處に居る赭ツ面の小父さん』彌『何んだ小僧』『今日は馬市でお城下には澤山馬があつたが是程の馬は見なかつた』彌『小僧、馬は分るか』孫『俺は馬は大好きだ、馬を見ると兄弟に會つたやうだ』彌『妙な奴だな、併し此馬を好いと見たは感心した』孫『オイ小父さん、此所に札が出て居るが長濱の彌兵衞と云ふのはお前かね』孫『然うだ俺が江州長濱の彌兵衞だ』孫『然うか成程江州者のやうな顏をして居る』彌『莫迦云ふな、面で國が判つてたまるものか』孫『オイ小父さん何うだらう俺を乾兒にしてくれまいか』彌『それはして遣らねえ事も無いが受人があるか』孫『あるよ、立派な受人がある』彌『その受人は誰だ』孫『受人は俺だ』彌『大變な奴だ自分で自分の受人になる奴があるか』孫『自分の確だと云ふを知つて居る者は自分より他にはあるまい他人の受人は當にならないよ』彌『こんな變つた小僧に會つた事がない』孫『受人が無ければ乾兒にする事が出來ないと云ふやうな小さな了簡では役に立つ身内は出來ない最も伯樂の親方でありながら馬を賣る事も知らない小父さんだから無理もないがね』彌『ヤイ〳〵小僧馬を賣る事を知らねとは何う云ふわけだ、若い者は皆な馬を曳いて御城下に出張つて居る』孫『それは然うだらうが何んだつてこんな良い馬を茲へ繫いで置くのだ』彌『それはな小荷駄馬ばかり出て居る中へこんな良い馬を曳いて行つたところで人の目に付かねから其處で茲に繫いで置けば自然と人の目に付くだらう』孫『アハヽヽ、年を老ると人間は愚になる、駑馬が衰へては爲方がないものだ』彌『ヤイ小僧少し待て、騏驎も衰へれば駑馬に劣るとは聞いたが駑馬が衰へたとは聞いた事が無ね』孫『然うだらう、此は俺が今初めて云ひ出した事だ、小父さんなぞは一體騏驎と云ふ程の人間ではない定から隣馬、その駑馬が衰へては始末が惡い』彌『口の惡い小僧だ、何んで俺が駑馬だ』孫『宜くお聞きよ此馬を茲へ繫で置いた處で此は良い馬だと云て態々見に來る者はない、と云ふは茲は町外だ、宜いかね其處でこんなところへ繫いで置くより此を町へ持つて行つて見せるが宜い然すれば大勢の人の目に付く又町に持つて行くとしても只曳いて行つた分には目に立たない、ところで此へ乘つて町へ行くのだゴタ〳〵して居るところへ馬が蒐けて來るから驚いて此を見る、見れば良い馬と云ふ事が判る、判れば買人が付くだらう、何うだね小父さん此工夫は』彌兵衞是を聞いて彌『豪いな小僧、成程お前の云ふ通り然うしたら目に付くだらう』孫『俺が乘つて行つて一廻り廻つて來やう』彌『小僧乘れるか』孫『こんな猫のやうな馬に乘れなくつて何うする、じやア小父さん行つて來るせ』ヒラリと馬に跨つた孫『小父さん鼻綱を取つておくれ』彌『宜いか小僧大丈夫か』孫『大丈夫だよ一廻り廻つて來るぞ』と云ひ置てトッ〳〵〳〵と乘出しました、前に申し上た通り裸馬で練習した孫六が實に巧みなものでございます彌兵衞感心をして見て居る城下の方を指して行きましたが却々歸つて來ません、その内に乾兒は賣殘つた馬を曳いて戻つて來た○『親方、何が見えませんが何うしました』彌『オイ小僧に會はなかつたか』○『何んです小僧とは、ヘエーあの馬を乘廻して見せて來るとイーエ會はなかつた、なア皆なそんな小僧は見えなかつたな』『親方それは乘遁げでございますせ』彌『ウーム』思はず唸りました○『親方、年は老りたく無ねもんだ、寄るまじきものは年と居酒屋と云ひますが居酒屋は寄らずに居れば向ふから拵しては來ねねが年の方は捻込んで來るから斷るわけには叶かねね、イヤハヤ駑馬が衰へては爲樣が無ね』彌『小僧もそんな事を云つて居たよ』イヤ彌兵衞は驚きまして、今日の馬市の利益をあの小僧の爲に持つて行かれてしまつた、あの靑は百兩にはなる、飛んだ事をしたと後悔したが今更何うする事も出來ません、若い者十七八人を伴れ賣れ殘りの馬を三十頭曳いて中二晩泊りで長濱に歸つて來ました、彌『婆さん、留守に誰も來なかつたか』婆『オヤお老爺さんお歸りかね、何うしたい賣れたかね』彌『思ひの外馬ははけたが飛んだ災難に遁つて儲けた金はたまれした』婆『オヤ〳〵マア、何うしたの』彌『マア後で話をする、さア皆馬の始末をしろ、ドッコイショ、損をすると草臥れるやうだ』馬『ヒーン』彌『オヤ〳〵、宵のやうな聲だせ』婆『鳥渡お老爺さんお前アア今度宜い乾兒が出來たね』彌『何んだい乾兒と云ふのは』婆『昨日の夕方孫六と云ふ十五六になる小僧が靑を曳いて歸つて來てね、後から親方はお歸りになりますが私が一足先に靑を曳いて戻りました、今度お身内になりました者で何うぞ末永く可愛いがつて下さいましと云ふつてね、クル〳〵働いて居るよ、今も秣を切つて居る』彌『ウーム、何かあの小僧が來たのか、靑を曳いて、恐しい奴だ』婆『鳥渡孫や、親方が歸つて來たよ』飼桶を拵へて居りました孫六、チョロ〳〵とそれへ參つて孫『親方お歸んなさいまし』彌兵衞呆て默て顏を見て居たが稍あつて彌『ヤイ小僧、惡い冗談をするな何付氣を揉んだか知れねね』孫『ヘエヽヽ、お氣の毒さまでございます處で親方、私は名主の所に居た小僧でございます、馬を曳いて此方に參るにしたところで懷中には百文より鳥目がございません、處で木之本の次郎兵衞の親方のところへ寄りまして私は長濱の彌兵衞の乾兒孫六と申す者ですが敦賀の馬市から一足先に戻ります、些と使ひ過ぎて懷中都合が惡うございます、何うぞ一兩拜借いたしたいものでと懇う申し込んで小判一枚借りまして泊つて行けと云ふを斷り町の上旅籠へ泊つて酒を二本飮んで旨い物で飯を食ひ勘定拂つた殘は茶代と女中の祝儀に遣つて來ました、何うか親分から次郎兵衞さんへ一兩返しておくくんなさい』彌兵衞吃驚した、こんな達者な小僧はないと思つた、茲で改めて親分乾分の盃をいたし若い者にも紹介したモウ然うなつては受人なぞを彼是云ふ場合でない、すると口も八丁手も八丁宜く働きましてその上馬市がある時も他の者より餘計の利分を得る殊に彌兵衞夫婦に宜く仕へ朋輩とも睦しく交際ふ、それゆゑ評判も宜しい十六十七十八と三年此に居りました、或日彌兵衞が彌『孫や、鳥渡來てくれ』孫『親方、何う云ふ御用でございます』厩を掃除をして居りましたが彌兵衞の居間に參ると婆さんと二人正面に列び前に帳面が二三冊出て居る彌『孫、モッと此方へ寄れ、婆さん茶を遣んな』婆『孫やお茶をお喫り』孫『何うも有難うございます、親方何う云ふ御用でございますか』彌『他の事でも無ねが今日は主に些と相談する事がある』孫『改まつて何んでございいますか』彌『孫や、何んと此家の養子になつてはくれめねか、知つての通り俺には子が無ね、乾兒の内から相續人をと思て居るが眼識に

（以下三面へ續く）

謹賀新年

▲本店 朝鮮京城南大門通

朝鮮銀行大連支店

電話 長二一五番 二〇三八番 長一四〇七番

支店及出張所

▲滿洲 營口、安東、奉天、四平街、開原、長春 吉林、哈爾賓、傅家甸、龍井村 間島 旅順、遼陽、鐵嶺

及其他 浦鹽斯德、青島

▲朝鮮 平壤、仁川、大邱、元山、釜山、鎭南浦 群山、木浦、馬山、新義州、羅南、會寧

▲內地 東京、大阪、神戶

滿洲大連山縣通

三井物產株式會社大連支店

電話 二一〇番 四六番

（二面よりの續き）

叶つた奴は一匹も無ねお調ならば俺の跡目を踏へる事が出來ると思ふウンと承知をすれば婆さん二人は直に隱居してしまう、然うなればお前が此家の主人、最も身内の若に若情があつては跡が面倒だ昨日主立た者を呼んで話をして見たところがそれは親方結構でございます、孫六ならばお前さんの名を汚すやうな事もあるまいすゝめねと悟う云ふ。して見れば身内に苦情は少しも無い、乃でお前か愈な此處の主人になれば見られる通り今ある馬が六十頭、田地が五十石、畑が二町歩それに此家もそつくりお前の者になる、何うだ俺の相續人になつてくれる事は出來ねわか　孫『へエ、何うも有難う存じます、だが親方田地が何位あらうとも馬が何程あらうとも此家が何れ程立派でも私が腕で仕上げたものではございません、お前さんが苦勞して拵へ上げた身上、それを養子になつたからとて只貰ふと云ふのは餘り働きが無さ過ぎる、それはお前さんとして見ると此程の家邸を只くれて遣ろ孫六は仕合者だと思ふも無理はございませんが、人間は萬な出世、何お前さんこんな家邸位は煙草屋の店開きへ行くと瀬島の上へ就せて出してくれます』　親『莫迦な事を云ふな、こんな大きな婦寸があるか　孫『と云つたやうなわけで何うも自分の腕で儲出した身上でなければ樂々寢る事も出來ません、ですから親方悟うしておくんなさい、私に馬を五頭に金を五兩貸しておくんなさい、それを曳いて玆を出まして三年と四年諸國を廻つて來ます、歸る時には二十頭か四十頭馬を増して來るつもりその時にお前さんの跡目を繼がしておくんなさい、千兩で買つた馬も乘つて見なければ判りません、お前さんのところで役に立つ此孫六も他人のところへ出たらば三文の値打も無ね奴と云はれるかも知れません、先辛い水を飲んで冷たい他人の仲へ入つて一修業して參ります何ぞそれまで待つておくんなさい』彌兵衛ポンと手を拍て『彌』オイ婆さん聞いたか、婦は立派な男だ、宜し主の云ふ通り馬五頭に金を五兩遣らう』一週廻つて來い　孫『早速承知下すつて有難う存じます』玆で彌兵衛より身内の者に話をして赤飯を炊いて孫六の鹿島立を祝した、五頭の馬を曳き、五兩の金を懷中に江州長濱を出ました、此は父三之亟の遺言に依つて伯父權兵衛を尋ねる爲、扨一年餘り近國を廻つて居りました内に馬を三十頭に増した、翌年の十月美濃岐阜に參り大阪屋と云ふ旅籠屋へ草鞋を脫いだ、直に土地の伯樂の親方小松屋甚藏の許に參つて城內に馬を買込む事に就いて相談をすると　甚『孫六さん知つての通り此岐阜は元齋藤家の領分であつたが當時は織田信長樣の御領所になつて居る、當時殿樣も御城中にお在なさる、あの通り御名將であるから良い馬ならば何頭でも買つて下さる、又買ふにしたところで下檢分をする者は御馬役の加藤權兵衛樣、此人のところへ明日鳥渡顔を出して置くが宜い、權兵衛樣が首を振ると一頭も賣れねわ、先づ此は大事にして置くが宜い　孫『へエー加藤權兵衛、何歳位の方で　甚『然うさ、四十三四にもなるか、誠に優しい方だ　孫『然うでございますか、では明日お小屋をお訪ね申しませう、いろ〳〵何うも有難う存じました』別れて歸る旅店、翌日の所全部二百五十文で粗末な荒粉落雁の菓子折を拵へそれを持つて城中に參つた、武士小路角屋敷門に加藤權兵衛と認めた表札が出て居る、中の口に廻つて　孫『お願ひ申します、私は江州長濱彌兵衛の乾兒孫六と申します者、今度御乘馬を曳いて此方へ參りました、就いては殿樣にお目通りをいたしたいもので鳥渡お取次を願ます』馬役の許には折々伯樂が參る、それには慣れて居る取次の小侍『○少々控へて居れ』奧に入つて行つた間もなく出で參り『お會ひになるそうだ、此方へ參れ』孫『有難う存じます御免下さいまし』小座敷へ通りました、暫くするとそれへ出たは年齡四十二三、色の淺黑い立派な人物、何となく亡父三之亟の俤がある、伯父上か、孫六でございます、と名乘りたくは思ひましたが、他に人も居る事とて熟と堪へて『孫』御馬役樣でございますか、お取次まで申し上げました通り、彌兵衛の乾兒孫六にございます　權『拙者は加藤權兵衛である、大分馬を曳いてまゐつたさうだな、明朝五ツまでに馬場まで曳いて參れ若侍共に沙汰をして良しき馬があらば求めるやう取計ひ遣はす　孫『有難い事でございます、扨殿樣イヤ何うも貴下の御評判の宜しい事、モウ私共仲間は何方へ參つても第一番にお目通りをいたしますは御馬役樣、ところが何方の御馬役樣も兎角金煎餅をお好みでその煎餅が旨く廻つて居りませんと何のやうな御乘馬でもお求め下さるやうにお口入がございません、處が殿樣はそんな事はお嫌ひださうでそりや何うも結構な事でございます、就きましては殿樣誠に此はつまらぬ物でございますが此位な物をお取りになりましたところで彼是申す者もございますまいと存じまして鳥渡御覧に入れます、今で云へば二錢五厘で買つた落雁の入つた折を出した、此を取つて苦情があつては堪らない　權『氣の毒千萬、折角の事受納いたす』孫『それは有難い事で、では殿樣明朝馬場に曳いて參ります、へイ今日は此で御免を』孫六は宿つた、翌朝定の時刻に三十頭の馬を曳き岐阜の城中百間馬場に參りました、間もなく若侍共を從へそれへ來たは加藤權兵衛ズーッと馬は列んで居ります、此が良いあれが良いと選んでそれ〳〵代金を取らして若侍は馬を曳て戻る、三十頭の内廿九頭賣たが一頭殘つたその時孫六が『孫』殿樣、私は十六の時から馬は手掛て居りまして今年恰度四年、良い馬も隨分見ましたが今茲に殘つた此馬程乘前の宜い確りした馬は見た事がございません、第一番に此がお買上げになる事とばかり思つて居りましたがそれが殘つたとは不思議、斯樣申しては失禮でございますが御馬役と云へば馬術の御指南をなさる御方、その御指南が良いか惡いか馬の見分けのつかれぬとは、へエ……殿樣貴下も餘り馬術はお上手ではございませんな　權『默れ、其方が申すまでもない三十頭の内にて取殘された此が最も駿足であるとは存じ居る　孫『へエー御存知でありながら何うして此れをお買ひ上げになりません　權『其方共は伯樂が渡世、只馬の良否を見分ける事ばかり心得て居る、馬相を見る事を辨へぬゆゑ左樣な事を申す、此馬は不吉な馬だ　孫『へ、エー、不吉の馬と申しますとそれは何う云ふところが不吉でございますか　權『宜く覺えて置け、此馬は額に白點がある　孫『左樣でございます、額のところへ白い毛が蝸を卷いて居ります　權『三國の世に玄德の乘馬は額に白點があつて此を的盧と名付けた、魏の曹操の爲に討れんといたした時乘つて居つたが即ち的盧、それゆゑ額に白點ある馬は不吉であると申して武士たる者は彼樣な馬には乘らぬ　孫『へ、エー、それは些とお言葉が違ひませう、成程玄德が曹操の爲に殺されやうとした時に乘つて居たは的盧でございましたが玄德はそれに乘つて檀溪を超え司馬徽の山莊に遁れた事がございます、して見れば的盧の扶けに依つて危急を脫したるの私は目出度い事と存じます　權『フム、此奴面白い事を申す奴だ、伯樂には惜しい奴だ　孫『殿樣貴下は以前德川樣の御家來で加藤三之亟と申す者を御存知でございますか　權『異な事を問ふ、その三之亟は拙者の兄である、その後打絶れて消息もいたさぬが其方存じ居るか』此時孫六四邊に人なきを見て權兵衛の袂に縋り　孫『伯父上お懷しう存じます』ホロ〳〵と落涙いたした、權兵衛大いに驚いて『權』拙者を伯父と申す其方は　孫『三之亟の一子孫六にございます　權『さては其方は我肉身の甥であつたか　孫『伯父上でございますか』と手に手を取つて兩人が暫時涙に暮れました、稍あつて權兵衛『權』孫六委細の事は我家にて聞く、參れよ』と引伴れ來たつて段々容子を聞くと今を距る事九箇年前、敦賀長崎村に於いて三之亟は病死、遺言に依つて自分の行衛を尋ねて居た殊に病中に認めた遺書がある、それには孫六の身の上を萬事宜しく取計ひくれろと細々と認めてある其處で己れの倅作内に孫六を紹介した、此作内は後に遠江守光泰と申し甲州に於いて二十四萬石を領して立派な大名になつた者、孫六は權兵衛が口入にて羽柴筑前守秀吉の家臣にした、處が加藤虎之助、福島市松なども皆秀吉の許にてまだ此頃は小姓、と福島が孫六の事を伯樂〳〵と云ふ、悟うなると此方も默つては居りません、孫『默れ此桶屋』福『桶屋とは何んだ　孫『貴樣は尾州清洲の桶屋の倅であらう　福『生意氣を云ふな此伯樂』それを加藤虎之助が仲人する　虎『マア待て〳〵喧嘩をするな　福『イヤ鍛冶屋の仲人ゆゑ斷難して道る―此加藤虎之助の父は鍛冶屋、伯樂に桶屋に鍛冶屋、を人が尾州中村のお百姓、下民の主義で至つて圓か、ところが天正の七年織田信長の命に依つて秀吉が中國に征伐を出した、第一番に戰を開いた場所は播州三木、城主は毛利の幕下、別所小三郎長治、三千人にて此に籠城、晝夜間斷なく攻めたが落ちません、此の上はと秀吉城を遠卷にして水の手を斷ち兵糧の盡くるを待つ、すると加藤孫六が一番乘をかけて福島加藤を驚かして遣らうと抜駈に陣屋を拔け出し際近く進んだ、此の時に秀吉は今日總攻をするつもりで一萬五千の兵を城の裏山に上げた、扨孫六は濠を躍超えて石垣の許まで進むと上の武者走に一人居る、孫『オヤ〳〵俺が早いと思つたら俺より疾い奴がある、誰だ其處に居るは○『俺だ』見下す此方は見上げる、朝霧が晴れてバッタリ顔が合つた　孫『イヤー、虎之助か　虎『伯樂か』孫『鍛冶屋か、成程鍛冶屋では早いわけ』虎『濠を超えて參つたは福島市松』福『オヤ〳〵拔けがけをしやうと存じたらもう二人も參つて居たか、此鍛冶屋早く人を上げる』虎『宜し此鎗へ垂下つて來い』ズーッと柄を延ばした、此を確り押へる、虎之助はズーッと二人を引上げた、強い人があるもの、途端にドーンと砲聲山々に〳〵〳〵エイ〳〵〳〵、トウ〳〵〳〵一鼓六足正々堂々と城の裏山より眞逆落しに一萬五千の兵が繰下す折しも兩加藤に福島市松が當手の一番槍―、鍛冶屋に桶屋に伯樂なりと名乘つて城中指して躍り込んだ、此れが出世の端緒、天正十一年五月、賤ケ嶽の戰には、孫六は三千石を領し、後ち諸〳〵の戰場に功あつて慶長五年伊豫松山に於いて二十萬石、加藤左典廐嘉明と名乘つた、寛永の四年奧州若松に國替へとなり表高四十萬石德川二代將軍秀忠公の御代まで繁昌して居りましたが寛永の八年九月十二日六十九歲を以つて會津若松に於いて歿しました、伯樂から一躍四十萬石の大諸侯になつたと云ふ千歲に因み加藤孫六の出世譚此にて讀切といたします。

謹賀新年

合名會社 鈴木商店
大連市山縣通百五十五番地

大連出張所
電長六六七。一二三。一三四五

大連寺兒溝
鈴木油房
電話一四三〇番

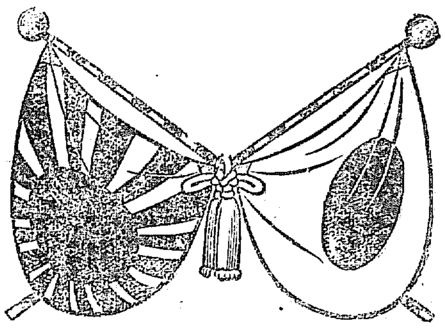
謹賀新年

大連市大山通三六、三七、三九號地
合資會社 富來洋行
電話 長二〇五一番 二〇五二番 二〇五三番

代表社員 森上卯平
支配人 河地雅治

業務 貿易、海運、倉庫業、並に滿洲商船株式會社代理店

支店所在地
奉天驛前（電話長五四八番）
天津日本租界旭街（電話四八七番）
大阪東區南本町一丁目（電話東一六五番）



新年之辭

茲に慶みて新春の賀を呈し各位の御慶福を祈上候

扨て家劑仁丹の聲價日に中外に顯揚せらるは一に藥味の卓越を信頼せらるゝ滿天下仁丹愛用諸君の賜と只管奉謹謝候

即ち、愈々振勵『原藥精選』の主義を一貫し仍て以て御隆恩に報ぜんことを期し候冀くば幾段の御愛用を切に奉悃願候　敬白

大正七年一月元旦

仁丹本舗主　森下博

金言

心清く快活なるは最高の美なり　スマイルス

過去と現在とは未來に於ける建築の材料なり　西諺

將來を樂むは人生の要件なり　西諺

來年の衣食は今年の艱難にあり　二宮尊德

努力せよ而らば必ず努力に對する報酬あり　ピーチ